

サルハ相當ナル
トモ數罪俱發ニ
付刑法百條ヲ適
用シテ一ノ重キニ
從テ處斷スヘク
各罪ニ付各本刑
ヲ併科スヘキ者
ニ非ズ故ニ甲乙
ノ裁判所ニ瑣理
ナキモ原院ハ共
ニ之ヲ取消シ更
ニ相當ノ判決ヲ
爲スヘキニ右二
ケノ裁判ヲ認可
シテ遂ニ二刑併科
ノ結果ヲ生スル
ハ破毀ヲ免レサ
ル裁判ナリ
(廿七年八月全上)
一、罪俱發ノ場合
ニ於テ其罪ニ
付各法律ヲ適用
シ其重キニ罪ノ
ミニ付刑期ヲ明

六十
罪ト再犯罪トハ俱ニ未タ確定判決ヲ經サルニ罪ノ併發ナルヲ以テ其一ノ重キニ從フト定
メタルモノナラント雖モ元來前發罪ト餘罪トハ勿論數罪俱發ノ關係アルモノナレハ其餘
罪ハ假令再犯罪ト併發シタリト雖モ前項ニ依リ之ヲ處分シ再犯罪ハ別ニ之ヲ單獨ニ處分
スヘキハ正當ノ法理ナリトス唯夫レ或學者カ法理ノ如何ヲ問ハス本項ノ如クセハ刑ノ執
行上甚タ不公平ナリトノ例ヲ擧ケ喋々批難ヲ試ミルカ如キハ我輩ノ採ラザル所ナリ
第二百三條 數罪俱發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其沒收及ヒ徵償ノ處
分ハ各本法ニ從フ

本條ハ沒收及ヒ徵償處分ハ一ノ重キニ從フ主義ヲ採ラス即チ併科スヘキヲ規定シタル
モノニシテ其理由ハ沒收ハ元來禁制品又ハ犯罪供用物及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ニシテ
犯人ノ所有ニ係ル物件ヲ社會又ハ犯人ノ手ニ存スルヲ許サハルモノトシテ之ヲ官ニ徵
收スルモノナレハ沒收ヲ併科スルキハ過酷ニ至リ又ハ一ノ沒收中ニ他ノ沒收ヲ吸收スト
想定スルノ理由ナク又徵償ハ贓物ノ返還損害ノ賠償ニ關スルモノニシテ本來刑罰ニアラ

示シテ對シハ他ノ
一罪ニ對シハ刑
ヲ明シセサルト
テ被告ノ利害ニ
關係ナク又之ヲ
明示スヘシトノ
法規ナケレハ之
ヲ以テ違法ノ裁
判ト云フヲ得ス
(廿七年八月全上)
一、原判決ハ竊盜罪
ト賭博罪ト併發
シタリト認定シ
ナカテ其法律適
用ニ當リ數罪俱
發例ニ依リ一ノ
重キ竊盜罪ノ刑
ヲ執行スルニ止
メ云々ト説明シ
タルノミニシテ
數罪俱發例中第
何條ニ照シ一ノ
重キ竊盜罪ノ刑
ヲ執行スヘキ其
正條ヲ明示セザ

サルコハ既ニ說述セシ處ナレハ一ノ徵償中ニ他ノ徵償ヲ吸收スト想定スヘキ毫末ノ理由
存セサルニ在リ

第八章 數人共犯

數人共犯トハ二人以上連合シテ同一罪ヲ犯シタル狀態ヲ云フ故ニ前章數罪俱發ノ一人ニ
テ數罪ヲ犯シタル場合ト正反對ニ本章數人共犯ハ數人ニテ一罪ヲ犯シタル場合ヲ規定シ
ルモノナリ抑モ上述ノ如ク數人共犯ハ二人以上連合シテ同一罪ヲ犯シタル狀態ヲ云フ故
ニ共犯タルニハ二、個ノ要件アリ第一、意思ニ連合アルコト第二所爲ニ連合アルコト是レナリ
第一、意思ニ連合ヲ要スル故ニ一人家屋ノ前面ニ放火シ又他ノ一人偶然其裏面ニ放火スルモ
所謂期セスシテ相會スルモノニシテ意思ノ連合アルコトナキヲ以テ共犯タラズ第二、所爲
ニ連合アルコトヲ要スル故ニ強盜ヲ爲スノ意思ニ連合アリト雖モ一人ハ強盜ヲ爲シ他ノ一
人ハ強姦ヲ爲スカ如キハ強姦ノ共犯タラズ而シテ數人共犯ハ上述ノ如ク意思及ヒ所爲ニ
連合アリテ同一罪ヲ犯スモノナレハ連合シタル數人カ干與シタル所爲ニハ各差異アリテ
何レノ場合ニモ必ラスシモ同一ノ所爲アルモノト謂フヲ得ス例ヘハ甲カ乙ニ犯罪ヲ決心

リシハ法律ニ依
リ判決ニ理由ヲ
付セサル違法ヲ
免レヌ

(廿七年十月全上)

一 二審カ判決ヲ與
フルノ當時別件
ノ上告中ニ係リ
未タ確定判決ヲ
經タルモノニア
ラサレハ數罪俱
發例ヲ適用セサ
リシハ相當ナリ
(廿八年一月全上)

第八章 數人共犯

一 正犯トハ二人以
上現ニ罪ヲ犯シ
タル者ナルカ又
ハ教唆者ナラサ
ルベカラズ從テ
犯罪ヲ共謀シタ
ルノミニシテ其
場ニ臨マサル者

セシムル所爲ヲナシ乙之カ爲メニ決心シテ罪ヲ犯シ丙又乙ヲ誘導指示シ其他豫備ノ所爲
ヲ以テ犯罪ヲ容易ナラシメタルハ各所爲ニ差異アリテ甲ハ乙ヲ教唆シ乙ハ正ニ罪ヲ犯
シ丙ハ乙ニ從屬シテ犯罪ニ加工シタルモノト云ベキカ如此場合ニ法律ニ於テ甲ハ教唆
者ニシテ乙ハ正犯丙ハ從犯ナリト謂フヘク我刑法ハ此等ニ制裁ヲ付スルニ教唆者ハ犯罪
ヲ決心セシメタルモノナレバ自ラ手ヲ下シタル正犯ニ等シキ刑ヲ科シ從犯ハ正犯ヲ幫助
スルニ止マルモノナレハ正犯ヨリ一等級キ刑ヲ科スルモノトセリ然リ而シテ我刑法ハ何
故ニ教唆者正犯等各自ニ其刑ヲ科スルヤ蓋シ刑罰ハ本來犯罪ノ賠償ニアラサル故ニ彼ノ
民事上ノ責任ノ如ク連帶シテ其責任ヲ負ヒ又ハ一人ニシテ全部ノ賠償ヲ爲シタルトキ他
ノ一人ハ全ク其責ヲ免カル、カ如クナル能ハサルノミナラズ其犯人ハ各自相均シク背徳
加害ノ点アレハ數人ニテ罪ヲ犯シタルトノ理由ハ加重ノ情狀コソアレ之ヲ以テ全ク他ノ
一人ヲシテ責ヲ免カレシメ又ハ之ヲ輕減スルノ理由ナキヲ以テナリ尙ホ此等ニ關シテハ
各條下ニ至リ詳述スヘント雖モ茲ニ二人以上ノ犯人ナケレハ犯スコト能ハサル姦通罪決
闘罪ノ如キ罪ニハ其二人以上ヲ以テ本章ニ所謂共犯ト爲サ、ルコトヲ一定セサルベカラ

一 之ヲ科スルニ
正犯ノ刑ヲ以テ
スルヲ得ヌ

(廿四年四月判決)

一 犯罪ヲ共謀スル
モ有形上ノ行爲
ニ與カラサル者
ハ正犯ヲ以テ論
スベカラズ
(廿五年四月全上)

一 共犯者間ニ共謀
又ハ通謀ノ意思
アルヲ要セス共
ニ犯スルヲ知レ
ハ足ル

(古賀學士)

一 犯行防止セヌ又
ハ黙過スルハ加
担行爲ニアラス

(全上)

一 教唆ノ教唆ナシ
從犯ノ教唆ナシ

(古賀學士)

一 從犯モ算入スル
ヲ得ズ

ズ何トナレハ此等ノ場合ニハ犯罪ノ性質上二人以上ノ犯人ナケレハ犯罪ノ事實生スヘカ
ラサルモノニシテ之ヲ一人ニシテ犯シ得ル他ノ罪ニ比較シ能ハサレバナリ故ニ此等ノ場
合ニハ本章ノ條規ヲ適用シ能ハサルモノトス尙ホ終リニ臨ミ共犯ト附帶犯トノ區別ヲ略
述スレハ共犯ハ意思ノ連合アルヲ要スルモ附帶犯ハ同一ノ場所ニ於テ同時ニ數罪ヲ犯ス
ト雖モ相互ノ間ニ意思ノ連合ナク又共犯ハ其數人ノ犯シタル罪一體不可分タルヲ要スレ
トモ附帶犯ハ連合アリト雖モ各人其犯ス所ノ罪ヲ異ニスルカ如シ

第一節 正犯

第四百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑

ヲ科ス

本條ハ共犯ニ於ケル正犯ニ關シ規定シタルモノニシテ二人以上現ニ罪ヲ犯ストハ二人以
上現實ニ犯罪ノ所爲ヲナシタルモノ即チ二人以上犯罪ヲ實行シタルモノト云フ意義ナリ
而シテ二人以上犯罪ヲ實行シタルモノト云ヘハ二人以上ノ意思及ヒ所爲ノ連合アルヲ要
スルコトハ論ヲ俟タズト雖モ其犯罪ヲ實行スルノ所爲タルヤ必スシモ積極的所爲ヲ要セ

(全上) 正犯ノ實行中又ハ實行後從犯ナシ

(全上) 一從犯ノ從犯ナシ (江本博士) (岡田學士)

一正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタルハ法律上友誼ノ爲メ善意ヲ以テノ所爲ト認ムベキニアラス

(廿五年六月判決) 一犯罪ヲ共謀スルモ實行ニ臨マサル者ハ正犯ヲ以テ論スヘキモノニアラス但現ニ見張ヲナシ他ノ盜奪ヲ容易ナラシメタル者ハ共犯トナスヘシ若

ス消極的ノ所爲モ亦共犯ヲ成立ス例ハ銀行ノ宿直員カ外人ト共謀シテ盜盜ヲ行ハントシ故ラニ銀行ノ門戸ヲ鎖サスシテ寢ニ就キ外人ヲシテ目的ヲ達セシメタルカ如キ場合ニ其門戸ヲ鎖サ、ル消極的ノ所爲モ積極的ニ盜盜ノ共犯タルカ如シ本條二人以上犯罪ヲ實行シタルモノヲ正犯トシテ正犯ニハ各自ニ其刑ヲ科スト規定セル理由ハ前述ノ如ク刑罰ハ民事上ノ賠償ト異ニシテ一人ニテ全部ノ賠償ヲナシタルトキ他ノ一人ハ共責ヲ免カル、如クナル能ハサルヲ以テナリ如此共犯タルモ正犯トシテ本刑ヲ科シ共犯タラスシテ別ニ罪ヲ犯スモ亦本刑ヲ科ストセハ何故ニ法律ハ故ラニ共犯ノ規定ヲ設ケタルヤ蓋シ此等ノ規定ヲ設タルハ第三百六十九條第三百七十九條等ニ於テ犯人ノ數ニ因テ刑ヲ加重スル等ニ實用アルコトヲテナリ

上述ノ如ク二人以上犯罪ヲ實行シタルモノハ正犯ナリト雖モ尙ホ正犯ヲ識別スルノ標準ヲ示セバ左ノ如シ即チ共犯者中正犯タルヤ否ヤヲ知ラント欲スル者ノ所爲ヲ分離シ一切他人ノ所爲ナカリシトスルモ仍ホ犯罪トナスヲ得ルモノタル時ハ正犯ナリ故ニ着手又ハ實行ノ所爲ニヨリテ連合シ罪ヲ犯シタル者ハ正犯ナリト雖其所爲單獨孤立シテハ罪ト

夫レ貨幣偽造又ハ文書偽造罪ニ在テハ一人ハ偽造シ他ノ一人ハ行使シ偽造ト行使トノ所爲ヲ分担シテ遂行スルモノ二人共ニ正犯トス

(廿五年四月決議) 一十二歳未満ノ幼者ヲ教唆シテ其父ノ衣類ヲ窃取セシメタル者ハ竊盜教唆罪ヲ犯シタルモノトス

(廿七年十月全上) 一瞭望者、家人ヲ縛シタル者、財ヲ捜シタル者、家人ヲ傷ケタル者、同一強盜傷人ノ共犯ニシテ其負傷セシメタル事實ヲ知ラス

ナル能ハズ唯他人ノ所爲ニ牽連シタル爲メ初メテ罪トナルヘキモノハ正犯ニアラスト謂フヘシ例ヘハ竊盜ノ場合ニ於テ甲ハ金庫ニ入り乙ハ鎖鑰ヲ開ク所爲ヲナセリト假定セハ乙ノ所爲ハ甲ノ所爲ト分離スルモ尙モ竊盜ノ着手トナルヲ以テ亦正犯タルカ如シ又單獨孤立シテハ罪トナル能ハサルモ犯罪ト同時ニシテ且ツ其成立ニ欠ク能ハサル効用アリシキハ正犯ナリ換言スレハ着手以外ノ所爲ト雖モ同時ニシテ犯罪成立ニ必要ナリシキハ正犯ナリト雖モ唯其成立ヲ助ケタルノミニシテ必要ナラザリシキハ從犯タルニ過キサルナリ例ヘハ強盜ノ場合ニ於テ甲ハ家宅内ニ入り乙ハ戶外ニ瞭望スルニ當リ家人其隣家ノ救ヲ求メント逃出タルニ乙ハ之ヲ縛シテ隣家ニ到ラシメス甲ヲシテ目的ヲ遂ケシメタリト假定セハ瞭望ハ之ノミ分離スレハ假令乙一人ノミニテ自カラ強盜ヲ犯サントシタル場合トスルモ未ダ着手ノ所爲トシテ之ヲ未遂犯トスル能ハサルヘキモ其瞭望カ右ノ如ク甲ノ目的ヲ遂ケシムルニ欠クヘカラザリシ効用アリシナラハ正犯タルカ如シ若シ夫レ此場合ニ於テ乙ガ十二歳未満ノ幼者タルキハ如何十二歳未満ノ幼者ハ犯罪行爲ヲナスニ無能力ナルモノナレハ此幼者ヲ合セテ共犯ト爲シ第三百六十九條ノ二人以上竊盜共犯ノ規定ヲ

ト雖モ皆其正犯トス

(十九年二月判決) 一親屬相盜ヲ教唆シタルモ贓ヲ分

タサルモノハ無罪ナリ

(廿八年七月決議) 一本邦ノ法律ニ於テ罪トナラサル

行為ヲ教唆補助スルハ教唆罪トナラズ

(廿七年十月東京控訴院判決) 一身分ニ因リ罪ヲ

論セサル者ヲ教唆スルモ教唆者罪ヲ免カルハ得

ス

(廿二年二月判決) 一逮捕官吏ニシテ

一私人ヲ教唆シ不正監禁等ヲナ

サシメタルハ

適用スルコトヲ得ス大審院ノ判決モ亦此旨趣ニ出タルモノアリ

第六十六 第五百條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯トス

本條ハ共犯ニ於ケル教唆者ニ關シ規定シタル者ナリ或學者ハ共犯ニ於ケル教唆者ハ犯意ヲ分擔シ被教唆者ハ犯行ヲ分擔スルモノナリト云フト雖モ總テ犯罪ニハ犯意ト犯行ヲ具備スルヲ要スルモノタルコトハ屢々說述セシ所ニシテ犯行アツテ犯意ナケレハ犯罪ナク犯意アルモ犯行ナケレハ亦犯罪ナキハ更ニ說明スル迄モナキヲ以テ教唆者ニ犯意アツテ犯行ナケレハ犯罪トシテ之ヲ罰スルノ謂ハレナク又被教唆者ニ犯行アルモ犯意ナケレハ亦犯罪トシテ之ヲ罰スルノ謂ハレナキナリ是ヲ以テ教唆者ハ犯意ヲ分擔シ被教唆者ハ犯行ヲ分擔スト云フ學說ニテハ未タ教唆者等ヲ罰スル所以ヲ說明スルコト能ハズ故ニ教唆者ニ犯意ノ外教唆ナル所爲アルコト被教唆者ニ所爲ノ外犯意アルコトハ之ヲ罰スル所以タルコトヲ忘ルベカラズ教唆者ニ教唆ナル所爲アリトハ言語文書等ヲ以テ被教唆者ヲシテ犯罪ノ實行ヲ決意セシメタル働作ヲ云ヒ被教唆者ニ犯意アリトハ自ら犯罪ヲ實行セントスル決意ヲ云フ然ラハ教唆者ニ教唆ノ意思アリ又其所爲アル以上ハ被教唆者カ罪ヲ犯

官吏ハ第二百七十八條ニ依リ一私人ハ二百一條ニ依ルヘシ

(廿四年四月全七) 一十二歳未満ノ幼

者タリト雖モ猶

ホ其犯人ニ加重

重ノ原因トナル

何トナレハ假令

幼者タリト雖モ

其犯罪ニ預リテ

力アリタルニ於

テハ丁年者ト徑

庭ナキヲ以テナ

リ

(廿五年五月全上) 一十二歳未満ノ幼

者ト共ニ窃盜ヲ

犯シタル丁年者

ニ對シテ二人以

上ノ加重ヲ爲ス

ヲ得ス

(廿七年十月決議)

廿八年七月判決

シタルト否トニ關セス教唆者ノ犯罪成立スルヤ曰ク新聞法集會法等ノ如キハ被教唆者カ罪ヲ犯シタルヤ否ヤニ關セス單ニ教唆者ノ一事ノミヲ以テ之ヲ罰スルノ規定ナリト雖モ刑法ハ教唆ヲ以テ一種獨立ノ犯罪ト爲サズシテ共犯ノ一種ト爲シ被教唆者カ罪ヲ犯スヲ以テ教唆罪ノ成立要件ト爲セルヲ以テ各其法律規定ニ依リ論決セサルヘカラサルナリ抑モ教唆トハ何ソヤ本條ニハ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者トアルヲ以テ如何ナル方法ヲ問ハス被教唆者ノ意思ヲ犯罪ニ決セシムル効力アルニ非ザレハ未タ以テ教唆アリト爲スヲ得スト謂ハサルヘカラズ其如何ナル方法ヲ問ハサルヲ以テ助言偽計脅迫等ニ因ル教唆ト雖モ苟クモ被教唆者ヲシテ犯罪ヲ決行セシムルノ効力アリタルハ之ヲ教唆ナリト謂ハサルベカラサルナリ若シ夫レ教唆者ニシテ被教唆者ノ犯行前ニ教唆ヲ取消シタル場合ハ其取消ノ効力其前ノ教唆ノ効力ト同シク微弱ナラサルキハ其後被教唆者ニシテ犯罪ヲ決行スルモ教唆者ハ無罪ナリト謂ハサルベカラズ又教唆者ヲ教唆シタル場合ハ如何例ハ甲、乙ニ丙ヲ教唆シテ丁ヲ殺サシムヘシト教唆シ乙ハ其教唆ニヨリ丙ヲ教唆シテ丁ヲ殺サシメタル場合ハ如何此場合ニ於テハ甲ノ教唆カ丙ノ犯行ノ原因トナリ又ハ甲

一強盜ヲ教唆シタル上ハ正犯カ強盗傷人罪ヲ犯シタル時之ヲ指定外ト爲スヲ得ス
 (廿一年一月判決)
 一數人協議共合シテ貨弊ヲ偽造セシトシタル場合他人金ヲ出シテ之ヲ幫助シ成切ソ上ハ出金額ニ應ジテ分配ヲ受クルコトヲ約シタル者ハ從犯トシテ處分ス
 (廿二年九月) 司法省回答
 一賭博犯ノ見張番ヲナシタル者ハ豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタルモノナルカ故ニ從犯

ノ教唆ト乙ノ教唆ト合併シテ其犯行ノ原因トナリタルハ甲ハ教唆者ニシテ有罪ナリト論セサルヘカラスト雖モ丙ノ犯行ハ乙ノ教唆ノミニ原因シタリシハ甲ハ教唆者ニアラサルヲ以テ無罪ナリト論セサルベカラス從犯ヲ教唆シタルモ亦同シ然レハ前述ノ獨立ノ教唆罪ノ如キハ教唆ノ所爲アルト同時ニ犯罪成立スルカ故ニ教唆者ヲ教唆シタルモノハ何レノ場合ヲ問ハス教唆者ナルヲ以テ有罪ナリト論セサルベカラス
 本條ニ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者トアルヲ以テ被教唆者ノ所爲カ重罪又ハ輕罪トシテ成立スルモノタルヲ要スルナリ然レモ其所爲カ重罪又ハ輕罪トシテ成立スルモノタルニ於テハ假令其刑ヲ科セサルモノナルモ猶ホ教唆者タルヲ免レス故ニ親屬相盜ヲ教唆シタルモ贓物ヲ分タサルモ、又ハ法律ニ於テ罪トナラサル所爲ヲ教唆幫助スルモノ等ハ同シク無罪ナリト謂ハサル可ラズ何故ニ刑法ハ被教唆者カ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタルニ非サレバ教唆者ヲ罰セズ又違警罪ノ教唆者ヲモ罰セサルヤト云フニ前者ニ在テハ唯他人ニ實行ヲ決意セシメタルノミニテ之ヲ罰スル程ノ背德加害ノ点ナク又後者ニ在テハ違警罪ハ微罪ナルヲ以テ其各教唆者ヲ罰セザルナリ若シ夫レ十二歳未滿ノ幼者若クハ狂者ヲ教唆シ

ヲ以テ論スヘシ
 (廿七年六月決議)
 一賭博ノ見張番ヲナシタル者ハ犯罪ノ施行ニ加功シタル身分同体ノ事實ニシテ正犯ナリトス
 (廿二年十二月判決)
 一各本條ニ從犯例ノ規定アルハハ總則ノ從犯例ヲ適用スヘキニアラズ
 (廿一年十月全上)
 一從犯ニ於テ正犯カ窃盜ヲナスコトヲ知リタル上ハ門戶牆壁ヲ踰越シ鎖鑰ヲ損壞スル等ノ行爲アルヘキヲ豫知シタルコトヲ加重ノ刑ヨリ一等ヲ減スヘキモノトス

テ犯罪ノ所爲ヲ實行セシメタルトキハ如何此場合ニ關シテハ種々ノ學說アリト雖モ此場合ニ於ケル幼者狂者ハ教唆者ノ犯罪ノ器械トナリタルニ過キサルヲ以テ教唆者其者ノ犯罪行爲ト謂ハサルベカラサル故ニ之ヲ教唆者ト謂フヲ得ズ又本條末文ニ正犯ト爲ストアルハ教唆者ハ犯罪ノ實行者トスト云フ意義ニアラズシテ實行者タル正犯ニ科スル刑ヲ亦教唆者ニモ科スト云フ意義タルヤ更ニ論スルヲ俟タズ
第六六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重スヘキ時ハ他ノ正犯、從犯及ヒ教唆者ニ及ホストナ得ス
 本條ハ正犯ノ身分ニ因ル加重ハ他ノ正犯、從犯及ヒ教唆者ニ及ホサ、ルコトヲ規定シタルモノナリ抑モ加重減輕ノ狀態ニハ人ニ屬スルモノト事ニ屬スルモノトノ二個アリテ其人ニ屬スル加減ノ狀態ハ之ヲ具フル人ニノミ固有ノモノニシテ犯罪其者ヲシテ重ク又ハ輕カラシムルモノニアラズ例ヘハ官吏タルコト子タルコト再犯タルコト等ハ人ニ屬スルモノナリ其事ニ屬スル加減ノ狀態ハ犯罪其者ノ狀態ニシテ何人カ之ヲ犯スモ其人ニ因テ輕重セラル、モノニアラサレハ其加減ノ狀態ハ總テノ共犯人ニ其加減ノ効力ヲ及ホス例

(廿一年十月全上)
 一強盜ノ際望者ハ
 正犯ニシテ從犯
 ニアラズ
 一正犯稅則犯ニシ
 テ從犯普通入ナ
 ルモハ普通入ニ
 從犯例ヲ適用ス
 (廿一年二月全上)
 一教唆者ヲ罰スル
 所以ハ其意思ヲ
 犯人ニ移シ犯罪
 ノ原因トナサシ
 メ以テ犯罪ヲ決
 行セシメタルニ
 依ルモノナレハ
 必スヤ判文上教
 唆者カ犯罪ノ手
 段ヲ示シ之ガ教
 唆ヲ爲シタルノ
 事項ヲ明示セサ
 ルヘカラス
 (廿四年一月判決)
 一數人ヲ教唆シテ
 歐打創傷セシメ

ハ竊盜罪ノ兇器ヲ携帯スルコト及ヒ門戶牆壁ヲ踰越損壞スルコト等ハ事ニ屬スルモノナ
 リ本條ハ上述ノ理由ニヨリ正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重スヘキ時即チ正犯人ニ屬スル
 加重ヲ爲ス時ハ他ノ者ニ及ホサ、ルコトヲ規定シタルモノニシテ其人ニ屬スル減輕ノ場合
 即チ宥恕減輕、自首減輕ノ如キモノニ關シテハ本條ニ別ニ規定セスト雖モ加重ノ場合ト
 同シク亦其減輕ハ他ノ正犯、從犯及ヒ教唆者ニ及ホスヘキモノニアラザルコトハ多言ヲ要
 セス而シテ同一理由ニ依リ事ニ屬スル加重ノ狀態アル場合ト雖モ共犯人ニ於テ其狀態ヲ
 豫知スベカラサルモノナルトキハ其共犯人ニ其加重ノ効力ヲ及ホスコトヲ得サルハ亦多
 言ヲ要セズ例ヘハ甲乙竊盜ヲ通謀シ甲ハ人ノ住宅ニ入テ後チ俄カニ強盜又ハ強姦ヲ犯シ
 タルカ如シ如此身分ニ因リ刑ノ加重ハ本條ニ依リ他ノ正犯等ニ其効力ヲ及ホサルコトハ
 明瞭ナリト雖モ身分ニ因リ犯罪トナルトキハ其身分アルモノト共ニ犯シタル正犯等ハ如何
 ニ之ヲ處分スヘキヤハ我刑法ハ其規定ヲ欠クヲ以テ種々ノ學說ヲ生ス其身分ニ因リ犯罪
 トナルモノハ官吏收賄罪、子孫カ尊屬ニ對シ奉養ヲ欠クノ罪ノ如シ此場合ニ於テハ人ニ屬
 スル加減ハ他ノ者ニ其効力ヲ及サ、ルノ法理ヲ以テ之カ解決ヲ爲スコトヲ得ベシト信ス即

依テ被害者ヲシ
 テ二十以上職
 業ヲ營ムコト能
 サルニ至ラシメ
 タル場合ニ於テ
 下手者ノ一部ハ
 刑法四百廿五條
 第九ノ適用ヲ受
 クルニ止リ而シ
 テ他ノ下手者未
 タ同三百一十條
 一項ノ處分ヲ受
 ケタルモノナキ
 時ト雖モ教唆者
 ハ三百一條ノ適
 用ヲ免ルルコト
 能ハス
 (廿四年七月全上)
 一教唆罪ハ自分ノ
 意思ヲ他人ニ傳
 ヘ他人ヲシテ其
 意思ノ如ク決行
 セシメタル事實
 アレハ成立スル
 モノニシテ其方

チ官吏ト共ニ收賄罪ヲ犯シ子孫ト共ニ奉養ヲ欠クノ罪ヲ犯シタルモノハ其官吏及ヒ子孫
 ノ身分ノ効力カ此共犯ノ者ニ及バザルヲ以テ無罪トスヘキナリ正犯ノ處分既ニ如此ナル
 片ハ其共犯ノ從犯及ヒ教唆者モ亦無罪タルヘキハ更ニ説明ヲ要セス然レモ官吏ト共謀シ
 其官吏ノ監守スル金圓ヲ竊取シタル常人ニ付テハ竊盜罪ヲ以テ之ヲ論スヘキモノトス何
 トナレバ此場合ハ官吏ノ身分ハ其効力ヲ常人ニ及ホサス即チ常人ハ假令官吏ノ身分ヲ有
 セスト雖モ人ノ所有物ヲ竊取スルハ第三百六十六條ノ罪ヲ以テ論スヘキモノタルハ勿論
 ナルヲ以テナリ
第七條 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重スヘキ時ハ教唆者ヲ算入シテ
多數ト爲スコトヲ得ス
 本條ハ教唆者ヲ犯人ノ多數ニ算入セサルコトヲ規定シタルモノナリ抑モ犯人ノ多數ニヨリ
 刑ヲ加重スヘキ場合ハ二人以上ノ竊盜、強盜、囚徒逃走ノ場合等ニシテ此等ノ場合ニ刑ヲ
 加重スルハ二人以上ナルニ於テハ之ヲ犯スニ易ク之ヲ防クニ難キカ故ナリ然ルニ教唆
 者ハ前述ノ如ク共犯ノ名アルモ其實ハ實行者ニ犯罪ヲ決意セシメタル迄ニシテ其犯跡ハ

法手段ハ必スシ
モ關係ヲ有スヘ
キモノニ非ズ
(廿四月十月全上)
一甲者乙者死ノ郵
便在中ノ爲替券
ヲ竊取シ丙ヲ詐
テ乙ノ名義ヲ詐
稱シ己ノ氏名ヲ
記載シ自己ノ實
印ヲ押サシメ局
員ヲ欺キ金員ヲ
交付セシメタル
ハ竊盜ノ結果ニ
シテ私書偽造行
使詐欺取財教唆
ノ罪ニ非ス丙ハ
甲ト共謀ノ事跡
ヲク單ニ甲ノ指
旨ニ從ヒ前顯ノ
詐僞ヲ爲シ金員
ヲ甲ニ交付シタ
ルモノナレハ事
后ノ從犯トナラ
法律上罪トナラ

(廿五月二月全上)
一教唆罪ハ教唆者
カ或手段ヲ用テ
用キ他人ヲ教唆
シ犯罪ヲ行ハス
爲アルヲ要ス而
シテ被告訴名共
謀シテ新陳原稿
ヲ製シ之ヲ新聞
社ニ投書シタル
ニ過ス抑モ投書
ノ取捨ハ新聞社
ノ取捨ノ隨意ニ
屬スヘキモノナ
レハ他人ノ惡事
ヲ新聞ニ投書シ
タル事實ヲ以テ
犯罪教唆ノ手段
方法ト爲スヲ得
(廿六年六月全上)
一備人ノ手ヲ假リ
盜伐シタリト認

被教唆者一人ノミニテ犯シタルト同シク即チ犯シ易シ又防キ難キノ点ナキヲ以テ本條ニ
教唆者ヲ多數ニ算入スヘカラサルヲ規定シタルモノナリ本條ニ從犯モ亦多數ニ算入セ
サルコトヲ規定セサルハ是レ之ヲ多數ニ算入スヘカラサルコトハ勿論ナルヲ以テナリ若
シ夫レ十二歳未滿ノ幼者ト共ニ竊盜ヲ犯シタル丁年者ヲ教唆シタル場合ハ如何ト云フニ
右幼者ハ絶對的犯罪行爲ノ無能力者即チ法律上ノ人ニアラザルヲ以テ下手人タル丁年者
ニ對シテハ二人以上ノ加重ヲ爲スコトヲ得サルト同埠ニ教唆者ハ二人以上ノ加重ノ罪ヲ
犯サシメタル教唆者ト云フヲ得ザルヲ以テ加重ノ刑ヲ受クヘキモノニアラザルハ勿論ナ
リトス

第八條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指
定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シ
タル所ト殊ナルトキハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス
一所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止タ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ

科ス

二所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス
本條其指定シタル以外ノ罪ヲ犯ストハ其指定シタル犯罪ト全ク關係ナキ罪ヲ犯スコトヲ
云フモノナルヤ例ヘハ放火ヲ教唆シタルニ強姦ヲ犯シタル場合ヲ云フモノナルヤ否決シ
テ然ルニアラスト謂フベシ何トナレハ其上文ニ犯人教唆ニ乘シタルヲ以テ教唆シタル
犯罪即チ指定シタル犯罪ニ關係アルモノナラザルベカラズ例ヘハ竊盜ヲ指定シタルニ強
盜ヲ決行シ毆打ヲ指定シタルニ毆打致死ヲ決行シタルカ如キハ各此二者相關係スルヲ以
テ本條ヲ以テ論スヘキナリ如此犯人ニシテ教唆ニ乘シ其指定以外ノ然カモ關係アル罪ヲ
犯シ又ハ其指定以外ノ方法ヲ以テ罪ヲ犯シタル場合ニ於テ本條カ第一號ニ於テ所犯教唆
シタル罪ヨリ重キ時ハ其指定シタル罪ニ從テ教唆者ヲ罰スト爲シタルハ其教唆者ハ重キ
犯罪ノ原因ト爲リタルニアラサルヲ以テナリ又本條カ第二號ニ於テ所犯ノ輕キニ從フト
爲シタルハ其重キ教唆ハ唯ニ決意ノミニ止マリ實行ナクシテ止ミタレハ其實行ナキ重キ

メタルハ現場ニ在テ指揮スルト他所ニ在テ指揮スルトニ因リ別テ生スル理由ナケレハ指揮ノ場所ヲ明示スルヲ要セス

(廿七年六月全上) 一教唆者被教唆者ハ執レモ其犯情ニ依リ刑期ノ差等ヲ定ムルモノナレハ教唆者ノ刑カ被教唆者ヨリ重キアルモ特ニ其理由ヲ附スルヲ要セス

第二節 從犯

罪ノ刑ヲ科スヘカラサルヲ以テナリ然レトモ第一號ノ場合ハ教唆者ニ於テ被教唆者カ重キ罪ヲ犯スヘキヲ豫知シタリト認ムヘキ情狀ナキ場合ノ規定ニシテ若シ夫レ其情狀アリトセス其重キニ從テ刑ヲ受ケサルベカラサルヲハ論ヲ俟タズ例ヘハ持凶器強盜ヲ教唆シタルニ強盜人ヲ殺傷シタルカ如キハ教唆者ハ其殺傷アルヘキヲ豫知シタリト認ムヘキヲ以テ其強盜殺傷ノ刑ヲ受ケサルベカラザルカ如シ

第百九條 重罪輕罪ヲ犯スヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其

他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

本條ハ共犯ニ於ケル從犯ニ關シ規定シタルモノナリ抑モ從犯ハ從犯共者ノミニテハ犯罪ヲ生セシムルニ至ラズシテ唯ニ犯罪實行者タル正犯ヲ幫助シ犯行ヲ容易ナラシムルモノ

各一等ヲ加フトアリ共ニ三百六十六條以下二條ノ法律ヲ適用スヘキ共犯者アル場合ニノミ適用スヘキモノナリ而シテ甲者ト共ニ罪ヲ犯シタル乙者ニハ刑法二百八十九條ヲ適用シタルニ甲者ニハ三百六十九條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ナリ

ヲ云フ而シテ我刑法ハ本條ニ於テ右從犯ヲ定義シテ重罪輕罪ヲ犯スヲ知リ法律ニ定メタル方法ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタルモノナリト爲セリ故ニ從犯ノ成立要件ハ左ノ如クナルベシ第一、正犯アルコト第二、正犯ハ重罪輕罪ナルコト第三、正犯ノ犯情ヲ知ルコト第四、法律ニ定メタル方法ヲ以テスルコト第五、正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタルコト是レナリ右第一ノ要件トシテ正犯アルコトヲ要スルハ主犯タル犯罪ノ實行者即チ正犯ナケレハ從犯タルモノナキハ勿論ナルヲ以テサリ故ニ自殺ノ如キ正犯ナキモノニハ之カ從犯ナキハ自ラ明瞭ニシテ唯自殺ヲ幫助シタルモノ如キハ獨立罪トシテ之ヲ罰スルモノナリ之ト同シク正犯カ不能犯又ハ中止犯ナルカハ正犯カ大赦時効等ヲ得タルハ孰レモ正犯ナキカ故ニ從犯成立セスト雖モ正犯カ未遂犯ナルカ又ハ豫備ノ所爲ニヨリ豫備犯成立シタルトキハ從犯モ亦成立スト謂ハサルベカラズ又彼ノ辨別、自由、意思等ヲ欠クニ基キテ正犯無罪トナルトキハ從犯モ亦無罪ナリト謂ハザルベカラズ何トナレハ上述ノ理由ノ外法律ニ斯ル從犯ヲ罰スルノ明文ナキノミナラズ本條ニ從犯ハ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ストアルモ此場合正犯ノ所爲ハ元來無罪ナルカ故ニ從犯ニ科スヘキ刑ノ標

ニシテ其監守物
件ヲ竊取スルノ
教唆ヲ爲シタル
罪質ヲ示スヘキ
モノニ非ス故ニ
刑法百五條二百
八十九條ヲ適用
シテ教唆者ヲ處
斷シタルハ相當
ナリ

(廿八年二月全上)
一十二歳ニ滿サル
幼者ノ加功スル
コトアルモ之カ
爲メ二人以上共
ニ其罪ヲ犯シタ
ルモノト爲ス可
ラス

(廿八年七月全上)
一實行ノ日時場所
方法ヲ詳記スル
上ハ共謀ノ日時
場所方法ヲ省略
スルモ理由不備
ノ判決ニ非ス

準ヲ取ルコトヲモ得サレバナリ然レトモ上述ノ不能力者カ人ヲ殺サントスルヲ知テ其殺
人行爲ヲ遂行セシムル爲メ故ラニ器具ヲ給與シタル者アル場合ニ於テ其不能力者ニ器具
ヲ給與シタルハ自己ニ使用シタルモノト認メ得ベキヲ以テ殺人ノ正犯トナルコトアルベ
シ第二ノ要件トシテ正犯ハ重罪輕罪ナルヲ要スルヲ以テ違警罪ニハ從犯ナシト謂フベシ
是レ違警罪ハ本來其罪質輕微ナルカ故ニ正犯ヲ罰スレハ十分ナルカ爲メナリ第三ノ要件
トシテ正犯ノ犯情ヲ知ルコトヲ要スルハ之カ犯情ヲ知ラザレバ之ヲ幫助スル從犯ノアル
ヘキ謂ハレナケレハナリ例ヘハ殺人ノ情ヲ知ラスシテ兇器ヲ貸シタルカ如キハ從犯タラ
サルヤ論ヲ俟タス第四ノ要件トシテ法律ニ定メタル方法ヲ以テスルヲ要スルハ若シ夫
レ其方法ニシテ教唆ノ方法ナラシメバ教唆者タルベク又犯罪實行ノ方法ナラシメバ正犯
タルベキヲ以テナリ而シテ法定ノ方法ハ即チ犯罪ヲ幫助スルノ方法ニシテ器具ヲ給與シ
又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助スルモノトス然レトモ此等ノ所爲ハ積
極的ノ行爲ヲ取ルモ又消極的ノ行爲ヲ取ルモ從犯タルニ異同ヲ生セス扱器具トハ兇器ノ
如キモノヲ云ヒ不動産ヲ含マス故ニ賭博者ニ房室ヲ給與シタルモノ、如キハ別ニ獨立罪

(廿八年九月判決)
一數人共犯ノ事實
ヲ認メ刑法ノ各
正條ヲ適用シタ
ル上ハ特ニ同法
百四條ノ總則ヲ
適用スルヲ要ス

(廿八年十月全)
一刑法三百七十七
條二項ニ所謂他
人共ニ犯シタル
者トハ唯リ實行
ノ正犯者ノミ
ヲ意味スルニ非
ズ總テノ共犯者
即チ教唆者從犯
者ノ全体ヲ包括
スル義ナリト

(廿八年十月全上)
一親屬タル身分上
ノ關係ヲ有スル
者竊盜ノ所爲ヲ
犯スモ其罪ヲ問
ハス從テ之ト共

トナルモ從犯タラズ又誘導指示トハ從犯ノ所爲中意思ニ關スルモノニシテ其教唆ト異ナ
ル点ハ正犯ノ犯罪決意ヲ生セシメタルヤ否ヤニ在リ第五ノ要件トシテ正犯ヲ幫助シ犯罪
ヲ容易ナラシムルコトハ幫助ノ所爲其者ノミニテハ犯罪ヲ生セシムルニ至ラズト雖モ其
幫助ノ所爲ハ犯罪ヲ容易ナラシムル所爲タルヲ要スルノ意ニシテ若シ夫レ其幫助ノ
所爲ニシテ犯罪ヲ生セシメタルモノナルハ上述ノ如ク教唆トナル場合アルヘク又正犯
トナル場合アルベキヲ以テ此第五ノ條件ヲ要スルモノナリ從犯ノ從犯ハ有罪ナリヤ從犯
ハ上述ノ如ク正犯ニ附屬シテ爲シタル所爲カ從犯ノ罪トナルモノニシテ別ニ獨立シテ罪
トナルモノニアラサレハ從犯ノ從犯ハ正犯ニ附屬シタルモノニアラサレハ犯罪成立セス
即チ無罪ナリト謂ハサルヘカラズ又從犯ハ從犯ノ所爲ヲ中止シ又ハ從犯ノ所爲ヲ取消ス
ニ於テハ亦從犯成立セサルヲ以テ無罪タルベシ例ヘハ殺人罪ヲ犯サントスル者ニ凶器ヲ
貸シタルモ其非ヲ悟リテ犯行前ニ之ヲ取還シタル如キ場合ハ無罪タルカ如シ然レモ殺人
ノ正犯ニ被害者ノ所在ヲ通知シ其出會ノ方法ヲ示シタル如キ場合ニハ之ヲ中止スルコト
能ハサルベシ但此場合ト雖モ正犯カ通知サレシ場所ニ於テ及ヒ示サレタル方法ヲ以テセ

ニ犯シタル他人ノ所爲ヲ以テ共犯ナリト論スルヲ得ス

(全上)

一親屬相盜ノ場合ニ於テ親屬以外ノ共犯人中其財物ヲ分チテハトテ親屬ナル身分上ノ關係ヲ有スル者ヲ其犯ノ一人トシテ處罰スルハ刑法第三百七十七條第二項ノ精神ニ非ス

(廿八年十月全上)

一犯罪實行ノ場所ニ於テ見張ヲ爲シタル所爲ハ犯罪ノ實行ニ外ナラス

(廿八年十二月全上)

一數人共謀ノ事實アル以上其共

ナルバ假令殺人ノ所爲ヲ遂行スルモ從犯ハ不成立ニ歸シ無罪タルヘキナリ
本條從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ一等ヲ減スルハ蓋シ從罪ハ唯正犯ヲ幫助シタルニ止マルモノナルヲ以テ背德加害ノ点正犯ヨリ少キヲ以テナリ而シテ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ストハ正犯カ現ニ受クル所ノ刑ニ一等ヲ減スルニアラスシテ法律上正犯ニ該ル所ノ刑ヨリ一等ヲ減スルヲ云フ故ニ正犯ノ身分ニヨリ減刑セラル、其ハ從犯ノ刑反ツテ正犯ヨリモ重キ場合アルベシ又本條但書所犯從犯ノ知ル所ヨリ重キハ其知ル所ノ罪ニ一等ヲ減スルハ是レ從犯ハ重キ犯罪ヲ容易ナラシメタルモノニアラザレハナリ然レトモ此場合ニ於テ右所犯ノ重キ罪ト其知ル所ノ罪トハ互ニ關係シタルモノナラサルベカラサルハ説明スル迄モナシ即チ一人ノ竊盜トシテ器具ヲ貸シタルニ二人ノ正犯アリタルハ又ハ人ヲ傷クル爲メニ貸シタル刀ヲ以テ正犯カ人ヲ殺シタルカ如キハ本條但書ノ適用ヲ受クベシ
第一百十條 身分ニ因リ刑ヲ加重スヘキ者從犯トナルハ其重キニ從テ一等ヲ減ス
正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免スヘキ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕キニ從

テ減免スルヲ得ス

謀者ト何人カ之ヲ實行スルモ共謀者一体ノ行爲ナリトス

(廿九年二月全上)

一刑法百八條ハ毆打罪ノ如ク結果ニ依リテ其罪責ヲ定ムヘキモノニ適用セズ

(廿九年五月全上)

一毆打ニ關スル犯罪ハ其結果ニ依テ刑責ヲ定ムヘキモノナレハ致死ノ場合ニテテハ單ニ毆打ヲ教唆シタル者ト雖モ仍毆打致死罪ノ教唆者タル責任ヲ免レス

(全上)

一罪ヲ構成スルニ必要ナル豫備

本條ハ正犯從犯ノ身分ニ因ル加減ノ原因即チ前述ノ人ニ屬スル加減ノ狀態ハ其人ニ固有ノモノナレハ其効力ヲ他ノ者ニ及ホサストノ理由ニ基キ規定セラレタルモノナリ此理由ニ依リ第二項ハ從犯ノ身分ニ因リ刑ヲ加重スヘキハ正犯ハ之カ爲メ加重セラレス從犯ハ其加重ノ刑ニ從ヒ之ヨリ一等ヲ減スヘキヲ規定セリ例ハ甲自己ノ親ヲ殺サントスル者アルヲ知テ凶器ヲ貸シ其者ヲシテ殺人ノ行爲ヲ遂ケシメタルカ如キ場合ニ於テ下手人ハ普通殺人罪ノ正犯ノ刑ヲ受ケ甲即チ從犯ハ第三百六十二條ノ刑ヨリ從犯ノ故ヲ以テ一等ヲ減スヘキカ如シ第二項ハ法文ニ示ス通り正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免スヘキ場合ハ即チ人ニ屬スル減免ナルヲ以テ之ヲ從犯ニ及ホサ、ルヲ規定シタルモノナリ之ニ反シ事ニ屬スル加減ノ原因ハ正犯及ヒ從犯ノ間ヲ問ハス犯罪自体ヲ變スルモノナレハ總テ共犯者ニ及ホスハ別ニ説明ヲ要セス

第九章 未遂犯罪

本章題シテ未遂犯罪ト云フト雖モ這ハ唯タ既遂犯罪ニ對シテ斯ク命題シタルニ過キス何

ノ所爲ハ別罪トシテ之ヲ罰セス
 (廿一年二月判決)
 一被告カ證書ヲ作爲シ印影ヲ盗用シタルハ詐欺取財ノ意思ニシテ即チ詐欺取財ノ豫備ニ過キス從テ其證書ヲ使用セシトスル意思アリシトモ偽造行使ノ未遂犯トナスヲ得ズ

(十九年四月全上)
 一人ヲ殺サント家宅内ニ入り一人ヲ殺シ尋テ他人一人ヲ殺シモ殺サント決心シテ視ヒ寄リタルニ其者突逃出タルヲ以テ被告モ同シク窓

トナレハ精確ニ之ヲ云ヘハ本章第百一十一條ノ規定ニ係ル陰謀犯及ヒ豫備犯ノ如キハ未タ犯罪所爲ヲ行ハサル者即チ未タ犯罪所爲ニ着手セサル者ナルヲ以テ未遂犯ト云フヲ得ズ而シテ未遂犯ハ第百十二條ノ規定ニ係ル未遂犯ノ如キ既ニ犯罪所爲ヲ行ヒ即チ犯罪所爲ニ着手スト雖モ未タ遂ケサル者ヲ云フヘキモノナルヲ以テナリ夫レ人ノ犯罪所爲ヲ行フヤ種々ノ階級ヲ經ルモノニシテ之ヲ大別スレハ内の即チ精神上ノ階級及ヒ外的即チ働作上ノ階級ノ二種ト爲シ得ベシ又更ニ内的即チ精神上ノ階級ヲ分テハ犯罪ノ發意及ヒ犯罪ノ決心ト爲スヲ得ヘク外的即チ働作上ノ階級ヲ分テハ陰謀ノ所爲、豫備ノ所爲、着手ノ所爲、實行ノ所爲ト爲スヲ得ベシ而シテ其犯罪所爲ヲ行フ内の及ヒ外的ノ階級ヲ問ハズ全般ノ順序ヨリ之ヲ云ヘハ第一、犯罪ノ發意第二、犯罪ノ決意第三、陰謀ノ所爲第四、豫備ノ所爲第五、着手ノ所爲第六、實行ノ所爲トナルベシ右第二乃至第三即チ内的ノモノハ背徳ノ点アリテ未タ加害ノ点ナキヲ以テ法律ノ關スル所ニアラスト雖モ第二乃至第六ノモノ即チ各外的ノモノニ進ンデハ背徳ノ点アルト同時ニ加害ノ点アレハ法律ハ之ヲ罰スヘキナリ

ヨリ飛下リ之ヲ追蹠シタルモ暗夜ニシテ踪跡ヲ失ヒタルハ着手未遂犯ニシテ豫備ニ止マルモノトナズヲ得ズ

(十九年五月全上)
 二人ヲ殺サント決心シ一人ヲ斬付之ヲ殺シタル際他ノ一人ハ起上リ人殺シト呼ハリタルニヨリ其ハ人ニハ傷ヲ負ハズノ間ナク其場ヲ遁レ去リタルハ一人ニ對シタルハ既遂犯トナルモ他ノ一人ニ對シタルハ豫備ニ止マリタルモテトス

(廿一年十二月全上)
 一貼用ノ印紙不足

是ヲ以テ我刑法ハ第百一十一條ニ於テ陰謀及ヒ豫備犯ニ關シ第百十二條ニ於テ未遂犯ニ關シ各之カ規定ヲ設ケタルモノニシテ其詳細ナル説明ハ各本條ニ至リ之ヲ爲スベシ尙ホ中止犯及ヒ不能犯ニ關シテハ第百十二條ニ至リ之カ説明ヲ爲スベシ

第百一十一條 罪ヲ犯サンコトヲ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス

本條ハ陰謀犯及ヒ豫備犯ニ關スル規定ニシテ其之ヲ各本條規定ノ場合ニ限リ其刑ヲ科スト爲シタルハ即チ陰謀ハ第百二十五條第二項ノ内乱ノ陰謀又豫備ハ第百二十五條第一項ノ内乱ノ豫備第百三十三條ノ外患ノ豫備等ニ限リ之ヲ罰シ其他規定外ノ陰謀及ヒ豫備ノ所爲ヲ罰セサルモノト爲シタル所以ハ其規定外ノ場合ニ於テハ未タ社會ニ一定ノ危害ヲ生セサルト陰謀及ヒ豫備ノ間ニ於テ成ルヘク犯人ヲシテ犯罪ヲ自止セシメントノ理由ニ基キ之ヲ罰セサルモノト爲シタルモノナリト雖モ内乱及ヒ外患等特別ノ場合ニ於テハ其關スル所重大ニシテ其陰謀及ヒ豫備而已ニテモ已ニ社會ニ危害ヲ生シ之ヲ自止セシムルノ寬ニ失スルヲ以テナリ然ラハ陰謀トハ如何又豫備トハ如何夫レ陰謀トハ二人以上一定ノ

ナリトシテ變造
証書ヲ提出シ自
首シタルハ變造
証書ヲ完全ナラ
シムル爲メナラ
ズ以テ行使ノ豫
備ニ過キズ
(廿七年六月全上)
一偽造ノ証書ヲ以
テ支拂命令ヲ申
請シ又ハ訴ヲ起
シタルノミニテ
ハ未タ詐欺取財
ノ未遂罪ヲ構成
セズ
(廿六年五月決議)
一右命令書又ハ訴
狀ヲ送達シタル
ニ債務者異議ヲ
申立テ或ハ偽造
タルノ抗辨ヲ爲
シタルハ詐欺取
財未遂犯ヲ構成
ス
(全上)

罪ヲ犯スノ決議ヲ云フ二人以上ヲ要スルヲ以テ一人ノミニテ陰カニ犯罪ヲ計畫スルカ如
キハ陰謀ニアラス又決議ナルヲ要スルヲ以テ一人ノ發議ニ他ノ一人カ同意セサル間ハ陰謀
成立セサルモノト謂フベシ又豫備トハ犯罪ノ決意ヲ顯ハシタル働作ニシテ實行ノ働作ニ
直接ノ關係ナキモノヲ云フ而シテ着手ノ働作ハ豫備ノ働作ト實行ノ働作ノ間ニ介立シテ
實行ノ働作ニ直接ノ關係ヲ有スルモノナレハ其關係ハ次條ニ説述スベシト雖モ今豫備ト
着手ノ區別ヲ説述スレハ此二者ノ區別ヲ知ラントスルニハ第一ニ被告ハ何罪ヲ犯サント
スルカノ決意ヲ知ルヲ要シ第二ニ刑法カ定メタル犯罪成立ノ要素即チ犯罪ノ構成條件ヲ
見ルヲ要シ第三ニ犯人ノ所爲カ犯罪構成ノ事實ノ範圍内ニ入りタルヤ否ヤヲ定ムルヲ要
ス而シテ被告ニ犯意アリテ其所爲カ犯罪構成ノ事實ノ範圍内ニ入りタルトキ又ハ其事實
ト密接連結シテ分離スヘカラサルトキハ其所爲ハ既ニ着手ニシテ其未タ茲ニ至ラサル働
作ハ豫備ト爲サ、ルベカラズ又其事實ヲ着手ニ止メズシテ之ヲ實施シタルトキハ實行ト
爲サ、ルベカラザルナリ例ヘハ他人ノ家宅内ニ侵入シタルモノアル場合ニ其侵入ヲ最終
ノ目的ト爲シタリトセハ是レ家宅侵入罪ノ實行ノ所爲トナリ竊盜ノ目的ナリトセバ竊盜

一右支拂命令書ニ
掲ケタル期間經
過又ハ確定終局
判決ノ前後ニ於
テ債務者ヨリ金
員ヲ受取タルト
キ或ハ又強制執
行ニ因リ金圓ヲ
受取リタルハハ
詐欺取財既遂罪
ヲ構成ス
(全上)
一變造紙幣行使未
遂罪ハ第八十
六條ノ特別ノ未
遂例ニ依ルヘク
第三百十二條第
百十三條ヲ適用
セズ
(廿一年二月判決)
一放火未遂犯ニ付
既ニ第三百十二
條ヲ適用シタル
上ハ第三百十三
條ヲ適用セサル
モ破
毀ノ原由トナラ

ノ着手トナリ家ヲ燒クノ目的ナリトセバ豫備トナルカ如シ而シテ此等ノ所爲ハ被告カ行
ノタルヤ否ヤヲ定ムルハ事實問題ニシテ裁判官ノ職權ニ在リ然レトモ一旦其事實ノ認定
アリタル上之カ豫備犯ナリヤ否ヤ未遂犯ナリヤ否ヤ等ヲ決スルハ法律問題ニシテ上告ノ
理由トナルベシ本條末文ニ刑ヲ科セストアルハ罪アレトモ刑ヲ科セストノ意義ニアラズ
シテ罪トセズ即チ無罪タルベシトノ意義ニ外ナラズ
第三百十二條 罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障
礙若クハ舛錯ニヨリ未タ遂サルハ已ニ遂タル者ノ刑ニ一等又ハ
二等ヲ減ス
前條ハ外的行爲ノ着手以下ヲ規定シ本條ハ外的行爲ノ着手以上即チ未遂犯ニ關シ規定シ
タルモノナリ抑モ犯人ノ所爲カ犯罪構成ノ事實ノ範圍内ニ入りタルトキハ若手タルハ勿
論其事實ト密接連結シテ分離スヘカラサルトキモ亦着手タルベク尙ホ其事實ヲ着手ニ止
メズシテ之ヲ實施シタルトキハ實行ト爲スヘキトハ前述ノ如シト雖モ其實施ノ働作ハ如
何ナル程度ニ在ルルハ實行ヲ終リタリト云フヘキヤ此場合ニハ犯人ニ於テ其目的ト爲シ

(廿一年六月全上)
 一 拾銀貨ヲ偽造スルニ其器械方法拙劣ニシテ到底偽造ノ目的ヲ達スル能ハサル者ト認定セタル以上ハ不能犯ニシテ必ラスシモ其器械方法ノ性質不能ノミニアリテ不能犯云フヘキニアラズ

(廿二年六月全上)
 一 金品ヲ騙取セシト圖リ借用附書等ヲ偽造シ之ヲ裁判所ニ提出シタルハ欺罔騙取ノ所爲ニシテ詐欺取財ノ未遂犯成立ス

(廿三年六月全上)

タル害跡ノ生シタルト否トヲ問ハスシテ専ラ法律ニ示シタル犯罪ノ要素即チ犯罪ノ構成條件ニ注目スルヲ要ス即チ其實施ノ働作ニシテ犯罪ノ要素タル犯罪ノ構成條件ヲ全備スレハ實行ヲ終リタルモノト云ヘザルベカラズ而シテ此實行ヲ終リタルヤ否ヤハ既遂犯歟ヒ未遂犯ノ分岐スル所ニシテ各犯罪事實ノ場合ニ依リ其觀察ヲ異ニスヘキモノナル故ニ其各場合ニ付細心注意スルヲ要スルモハタリ夫レ本條ニ罪ヲ犯ザントシテ己ニ其事ヲ行フトアルハ上述ノ犯意アリテ其所爲カ犯罪構成條件ノ事實ノ範圍ニ入りタル場合ヲ云フ而シテ其範圍ニ入り尙ホ事ヲ遂ケサルハ犯人意外ノ障礙ニ因ルコトアリ又ハ舛錯ニ因ルヲ云フ其意外ノ障礙トハ人ヲ殺サントシテ刀ヲ振上ケタルニ他人若クハ被害者ニ支ヘラレ刀ヲ加フル能ハサリシ場合ヲ云ヒ又意外ノ舛錯トハ人ヲ殺サントシテ發砲シタルニ手許狂ツテ命中セサルカ又ハ命中スルモ創傷ニ止マリタル場合ヲ云フ斯ル二個ノ場合ニハ本條ハ之ヲ未遂犯トシテ已遂ノ本刑ヨリ一等又ハ二等ヲ減シテ處分スヘキモノト規定シタルモノナリ由是觀之未遂犯ヲ罰スルニハ三個ノ要件アリト云フヲ得ベシ第一、一定ノ罪ヲ犯スノ意思アルコト第二、犯罪タルヘキ所爲ニ直接ニ着手シタルコト第三、犯人意外ノ障礙若ク

一 米ヲ伐採シ終リ之ヲ同山林内ニ積集シタル以上ハ窃盜既遂罪ニシテ未遂犯ニアラズ

(廿四年十二月全上)
 一 原判決ヲ閱スルニ輕室ニ至リ短刀ヲ以テよしノ咽喉ヲ刺シタルニよしカ高聲ヲ發シタルニ驚キ自ラ中止シトアリテ意外ノ障礙若クハ舛錯ニヨリ目的ヲ遂ケナリシニアラズ果シテ然レハ其中止ノ真心悔悟ニ出タルヤ將タ被害者ノ發聲ヲ聞キ哀情ヲ起セシニ出タルヤ之ヲ問フノ必要ナシ

ハ舛錯ニヨリ其犯罪ヲ遂ケサルコト是レナリ學者或ハ障礙ニ因テ遂ケサル場合ヲ着手未遂犯ト云ヒ舛錯ニ因テ遂ケサル場合ヲ着手已遂ニ基ク欠効犯ト云ヒ着手未遂犯ハ欠効犯ヨリ犯情輕キヲ以テ其減刑ノ度ヲ異ニスヘシト説クモノアリト雖モ着手未遂ニモ舛錯ニ因ルモノアリ欠効犯ニモ障礙ニ因ルモノアリ之ヲ要スルニ障礙ハ犯人ノ責ニ歸スヘカラサル外來ノ原因ニシテ舛錯ハ犯人ノ責ニ歸スヘキ自招ノ原因ヲ云フ故ニ障礙ト舛錯ノ文字ハ着手未遂犯ト欠効犯トヲ區別スルノ標準トナスニ足ラサルノミナラズ其各場合ニ於ケル減刑ノ度ヲ異ニスベキ謂ハレナキナリ本條末文ニ未遂ノ刑ハ已遂ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減スト爲シタルハ未遂犯ハ背徳加害ノ度已遂犯ノ場合ヨリ輕少ナレハナリ而シテ一等又ハ二等ト爲シタルハ其未遂ノ情狀ニ千差万別アルベケレハ自由ノ法ヲ設ケテ裁判官ヲシテ罪刑其當ヲ得セシメンガ爲メナリ

本條ヲ説了スルニ臨ミ二個ノ注意スヘキモノアリ中止犯及ヒ不能犯是レナリ此等ニ關シテハ本章未遂犯罪ノ大畧ヲ説述シタル所ニ於テ言明セント欲セシモ未遂犯ニ關スル本條ノ説了後ニ於テ此等ヲ説明スルノ便宜ナルヲ信シ茲ニ説述スル事ト爲シタルナリ

(十九年十二月全上)
 一偽造ノ借用證書
 シテ勸解廷ニ提出
 シ被告之ニ抗辯
 シタル後被告ノ
 實印ニ付違スル
 旨ヲ以テ願下ヲ
 爲セシハ好意ノ
 中止ナルカ如シ
 (廿一年四月全上)
 一竊盜ハ物品ヲ窃
 取スルノ目的
 ナレハ其物品ヲ
 持出シタルニ非
 サレバ既犯罪ト
 爲スヲ得ズ故ニ
 物品ヲ戸棚ヨリ
 出シ風呂敷ニ包
 ムタルモ之ヲ持去
 ラレタルハ未遂
 犯ナリ
 (十九年十一月全上)
 一止タ木ヲ伐採
 セシト云フノミ

抑モ中止犯トハ犯人カ自ラ犯罪所爲ヲ中止シタルニヨリ其目的ヲ遂ケザル状態ヲ云フ而シテ其中止ノ原因ニハ制限ナク真心悔悟ニ出テタルモ中止ナリ畏懼恐縮ニ出テタルモ中止ナリ又一時中止スルト終局中止スルトヲ問ヘザルナリ蓋シ中止ノ場合ニ於テハ何等ノ原因ヲ問ハズ社會ノ損害之レナキヲ以テナリ又中止犯ハ何レノ場合ニ生スルヤト云フニ中止犯ハ着手ノ所爲アリシ場合ト實行ノ所爲アリシ場合ニ生スルシテ前者ニ於テ中止犯タルニハ犯人自ラ實行ノ所爲ニ至ラスシテ止ミタルコト及ヒ意外ノ障礙及ヒ舛錯事故ノ生スル以前ニ止ミタルヲ要シ後者ニ於テ中止犯タルニハ犯人ノ中止セシ犯罪ハ法律カ其害跡ノ生スルヲ待テ既遂犯ニ問フヘキモノタルコト及ヒ犯人自ラ實行ヲ終局セス又ハ實行ノ働作ハ終ルモ結果ノ發生ヲ妨ケタルコトヲ要ス然リ而シテ法律カ中止犯ヲ罰セザルハ中止犯ニハ社會ノ損害之レナキト犯人ヲシテ自ラ犯罪所爲ヲ制止セシムルノ政策トニ出タルモノナリ何トナレハ中止犯ハ前述ノ如ク社會ニ損害之レナキノミナラズ犯人ニシテ犯罪ヲ遂クルモ又ハ遂ケザルモ均シク罰セラルカ如キモノトセハ犯人ヲシテ寧ロ進シテ犯罪ヲ遂ルコトヲ獎勵スルノ傾キヲ生スベケレバナリ若シ夫レ中止犯ニシテ其結

ニテハ竊盜ノ手
 段中ニ過キス
 (十九年十一月全上)
 一山林盜伐ハ之ヲ
 斫倒シ尙ホ進シ
 テ之ヲ運搬スル
 ノ準備ヲナス場
 合ニ至リタルモ
 ノナラサルヘカ
 ラス唯之ヲ斫倒
 シ幹技ヲ分離シ
 タル場合ハ既遂
 犯ニアラス
 (廿一年五月判決)
 一偽造證書ノ債主
 ニ交付シタルニ
 抵當不足ナリト
 テ受取ラサリシ
 ハ未遂犯ナリ
 (廿一年六月全上)
 一姦夫ナリト信シ
 テ長女ヲ刺シタ
 ルニ其叫聲ノ異
 ナルヨリ頓ニ殺
 意ヲ止メ治療ヲ

果ヲ生シ幾分ノ損害ヲ社會ニ及ホシタル場合ニ於テハ之ヲ不問ニ付スルヤ將タ如何ニ處分スヘキヤニ付テハ種々ノ學說及ヒ實例アリト雖モ此場合ニハ其現ニ生シタル結果ヲ罰スルノ法律ノ規定アルモノハ之ヲ適用シテ罰セサルベカラサルモノト信スレナリ何トナレハ我刑法ハ其中止シタル犯罪其者ニ付テハ中止犯ヲ無罪ナリトナセトモ其現ニ生シタル結果迄ヲモ無罪ト爲スノ明文ナケレバナリ例ヘハ殺人罪ノ中止アリテ幾分ノ創傷ヲ負ハシメタル場合ニ於テハ其結果即チ創傷ヲ負ハセタル事迄モ無罪トスルノ法律ノ規定ナク即チ此場合ニハ殺人ノ意思中ニハ自然創傷ノ意思ヲモ包含スルモノナルヲ以テ既ニ意思アリ又所爲ノ結果アレハ之ヲ罰スヘキハ法律ノ命スル所タルカ如シ
 次ニ不能犯トハ犯人カ犯罪ト思惟セル所爲ヲ行ヒタルモ其目的物及ヒ其方法手段ニ無効ノ点アリテ犯罪ノ結果ヲ生スル能ハサル状態ヲ云フ例ヘハ死屍ヲ活人ト誤認シテ之ヲ刺シ又ハ自己ノ所有物ヲ窃取セントシテ之ヲ持去リタルカ如キハ其目的物即チ犯罪ノ物体ニ關スル不能犯タルカ如シ又毒藥ト信シ無害ノ鹽類ヲ飲マシメ鬼神ニ祈願シテ人ヲ殺サント呪シタルカ如キハ犯罪ノ手段ニ關スル不能犯タルカ如シ而シテ物体ニ關スルモノト手

ヲサシメタルハ
殺ハ罪ノ中止ニ
シテ唯現ニ生シ
タル創傷罪ヲ問
フヘキナリ
(廿年一月全上)
一被害者ノ苦惱ヲ
見テ殺意ヲ中止
シ消毒藥ヲ施シ
タルモ其効ナク
シテ死ニ至リタ
ルハ中止犯ト
爲スヘカラス
(廿一年一月全上)
一金銀ノ如キ握手
スルヤ直ニ窃盜
罪成立スヘキモ
函中ニアル全部
ニ目的アリテ單
ニ其二三個ノミ
ヲ取リタルトキ
障礙ノ生シタル
如キハ未遂犯ナ
リ
(廿年九月全上)

段ニ關スルモノトヲ問ハス其不能ニ絕對的ト相對的トアリテ前例ノ如キハ皆絕對的不能
ニ屬シテ固ヨリ不能犯ナリト雖モ其相對的不能ニ至テハ必ラスシモ總テ不能犯ト云フヲ
得ス今其相對的不能ニ付キ例ヲ擧クレハ甲者ヲ殺サント家宅ニ侵入シテ之ヲ刺シタルニ
甲者ハ其臥褥ニ在ラスシテ外出シアリタルカ如キ又ハ或ル特定ノ物品ヲ盜マントセシニ
其物品ハ早ク既ニ他ニ保管セラレテ其處ニナカリシカ如キ場合ハ犯罪ノ物体ニ關スル相對
的不能ニ屬ス此場合ニ於テ不能犯ト謂フヘキヤ否ヤニ付キ種々ノ學說アリト雖モ余ハ不
能犯ト信スルナリ何トナレハ此場合ハ絕對的不能ノ場合ト同シク同一ノ場合ニ於テ同一
ノ條件ヲ以テスルハ何人ト雖モ犯罪ノ目的ヲ遂クルコト能ハサルヲ以テナリ又人ヲ射
殺セントシ彈丸ノ裝置ヲナシタルモ偶マ濕氣ヲ受ケタルカ爲メ發火セサルカ如キ又ハ人
ヲ毒殺セントシ毒藥ヲ使用シタルモ其量寡少ニシテ死ニ至ラシメザリカ如キ場合ハ犯罪
ノ手段ニ關スル相對的不能ニ屬ス此場合ニ於テモ種々ノ學說アリト雖モ余ハ不能犯ニア
ラスシテ未遂犯ヲ以テ論スヘキモノト信スルナリ何トナレハ此場合ニ於テハ其手段拙劣
ニシテ其彈藥ノ濕氣ヲ受ケ又ハ其毒藥ノ分量ノ不足タリシハ全ク犯人ノ意外ノ舛錯ニ基

一貨幣偽造ハ偽造

ニ着手シタルト
キ犯罪成立ス故
ニ其後中止スル
モ中止犯ト爲ス
ヲ得ス
(廿五年十二月全上)

一毒藥ノ分量寡少
ニシテ人ヲ殺ス
能ハサリシハ不
能犯ニアラスシ
テ未遂犯ナリ
(廿年五月全上)

一原判決ニ於テ
ハ人ヲ殺スニ足
ルヘキモノト認
メ而シテ被害者
ヲ欺キ被告ハ銀
錢ヲ六回試下シ
タルモ其術拙劣
ニシテ之ヲ殺ス
ヲ得サリシト認
メタル以上ハ之
謀殺未遂ト爲シ
タルハ相當ナリ

キタルモノト謂フヲ得ベケレバナリ

第一百十三條 重罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シ

テ處斷ス輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ本條別ニ記載スル

ニアラサレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ズ

違警罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ其罪ヲ論セズ

本條ハ重罪、輕罪、及ヒ違警罪ノ各未遂犯ニ關シ規定シタルモノニシテ第一項重罪ノ未遂
犯ヘ何レノ場合ヲ問ハス一般ニ之ヲ罰スルモノト爲シタルハ重罪ハ其犯罪事体カ重大ナ
ルヲ以テ未遂犯ノ場合ト雖モ之ヲ不問ニ措ク能ハサルヲ以テナリ第二項輕罪ノ未遂犯ハ
各本條ニ之ヲ罰スル者ヲ規定シタル場合ニ限り之ヲ罰スルモノト爲シタルハ輕罪ハ重罪
ニ比シ其犯罪事体ノ輕キモノナレバ其未遂犯ノ中之ヲ不問ニ措ク能ハサルモノアルヲ以
テ此等ハ各本條ニ規定シ罰スルモノト爲シタルナリ第三項違警罪ノ未遂犯ハ總テ一般ニ之
ヲ罰セサルモノト爲シタルハ違警罪ハ本來微罪ニシテ其未遂犯迄ヲ罰スルノ必要ナケレ

(廿年五月全上)
 一不能犯ハ所爲ノ不能ニアルシテ物理的不能ナリ
 (江木博士)
 一不能ト未遂トヲ區別スルノ標準ハ犯人カ實行ノ端緒ニ着手シタルトキニ於テ其行爲カ可能ナルカ不能ナルカニ依ル
 (勝本學士)
 一事物ノ性質上ハ施用ノ方法上絕對的犯罪ノ成立スル能ハサルヲ云フ
 (岡田學士)
 一犯罪ノ受働者則チ目的ヲ欠クナリキハ常ニ不能犯ナリ

ハナリ學者或ハ重罪、輕罪ノ或ルモノハ着手ノ証明容易ナレモ其他ノ輕罪及ヒ違警罪ハ着手ノ舉證困難ナルヲ以テ前者ハ之ヲ罰シ後者ハ之ヲ罰セサルモノト爲シタルモノナリト論スルモノアリト雖此說ハ採ルニ足ラサルナリ何トナレハ着手証明ノ困難ハ重罪、輕罪、及ヒ違警罪ニ因テ區別アルモノニ非サルノミナテ統計上ヨリ之ヲ見ルモ證憑不十分ノ爲メ無罪トナルモノハ輕罪ヨリ反テ重罪ニ多ク見レハナリ且ツヤ舉證ノ困難ト否トヲ以テ未遂犯ヲ罰スルモノト否ラサルモノトヲ區別スルモノトセバ違警罪ノ未遂犯ノ如キモノニテモ之ヲ證明スルコトヲ得タル場合ニハ之ヲ罰スルコトヲ爲サ、ルベカラサルノ不都合ヲ生スルニ於テヲヤ

第十章 親屬別

第百十四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

- 一 祖父母父母夫妻
- 二 子孫及ヒ其配偶者

(古賀學士)
 一障礙ハ外來ノ事故ニシテ舛錯ハ犯人自招ノ事故ナリ故ニ二者共ニ着手未遂欠効犯ノ原因トナル
 (全上)
 一障礙ニ因ル未遂ハ着手未遂犯ニシテ舛錯ニ因ル未遂ハ實行未遂犯即チ欠効犯ナリ
 (富井博士)
 一豫備ハ實行ノ所爲ニ直接必然ノ關係ナキモノ
 (岡田學士)
 一陰謀トハ二人以上ニ一定ノ計畫ヲ議シタル心外ニ現ハレタル組合ナリ
 (岡田學士)

- 三 兄弟姉妹及ヒ其配偶者
 - 四 兄弟姉妹ノ子及ヒ其配偶者
 - 五 父母ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者
 - 六 父母ノ兄弟姉妹ノ子
 - 七 配偶者ノ祖父母父母
 - 八 配偶者ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者
 - 九 配偶者ノ兄弟姉妹ノ子
 - 十 配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹
- 第百十五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ兄弟姉妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姉妹同シ

一 豫備ノ所爲未タ
犯罪ノ禁制條件
ニ入ラサルモノ
ヲ云フ
(古賀學士)
一 陰謀トハ二人以
上ノ間ニ成レル
決心ノ交通ナリ
交通ハ社會ニ現
ハレタル事實ナ
リ
(全上)

養子其養家ニ於ケル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

九十二

本章親屬例ハ人民相互間ノ關係ニ係ルヲ以テ民法ニ規定スヘク刑法ニ規定スヘキモノニアラズト雖モ本法制定ノ際ハ未タ民法ノ制定ナキヲ以テ姑ク之ヲ本法中ニ規定シ之カ正條ヲ設ケタルモノナリ然ルニ民法既ニ制定セラレ親族編ノ規定完備セル今日ニ在テハ本法ニ尙ホ其規定ヲ存スルノ必要ナキヲ以テ之ヲ削除スヘキヲ至當トスレモ之ヲ削除セザルニ於テハ刑法ニ於テ親屬ヲ論スルニハ本法ヲ適用セサルベカラサルコトハ別ニ説明ヲ俟タス

刑法改正ノ要旨

刑法ハ世安ヲ維持スルノ具ナリ而シテ犯罪ノ智巧ト害世ノ奸惡ハ世運ノ進歩ニ影隨シテ發達スルヲ以テ刑法ノ規定亦其時宜ニ適セサルヘカラス故ニ今日奸惡ヲ杜絶シ犯罪ヲ防禦セシニハ一概ニ舊章ニ率由シ舊套ヲ襲用スルノミヲ以テ足レリトス可キモノニ非ス犯罪ハ其情狀ニ於テ各々同シカラス犯人ハ其種類ニ於テ亦異ナリトス故ニ之レカ處罰ヲ爲スモ亦其情狀ト其種類トニ從ヒ大ニ裁量スル所ナカルヘカラス若シ然ラサレハ刑罰ノ權衡屢々其宜キヲ失シ刑法ノ目的ニ背馳スルコトナシト謂フヘカラス世人或ハ云フ刑罰ハ宜シク之ヲ嚴ニス可シト又或ハ云フ宜シク之レヲ寬ニス可シト然レトモ刑罰ハ猶ホ藥石ノ如ク犯罪ハ猶ホ疾病ノ如シ投劑ノ至法ハ疾病ノ輕重患者ノ體力ニ適應スルニ在リ刑罰ノ用法モ亦然リ犯罪ノ情狀ト犯人ノ種類トニ隨ヒ其寬嚴ヲ異ニスルニ在リ若シ豫メ其寬嚴ノ度ヲ狹圍シ其運用ノ自由ヲ羈束スルカ如キコトアラハ刑法ノ目的寧ソ能ク之ヲ達セシ乎

犯罪ノ種類異ナルニ隨ヒ其情狀ノ異ナルハ言ヲ俟タス同一種ノ犯罪ト雖モ其原因苟モ異

ナレハ其情狀必ス同一ナルモノニ非ス均シク殺人罪ナリ其原因或ハ強賊ノ貪慾ニ出テ或ハ孝子復讐ノ怨恨ニ出テ或ハ姦通ノ嫉妬ニ出テ或ハ慈親不忍ノ哀痛ニ出ツルカ如キ其原因ノ異ナルニ從ヒ或ハ惡ムヘキモノアリ或ハ宥ルスヘキモノアリ或ハ恕スヘキアリ或ハ憐ムヘキアリ其情狀既ニ同シカラス故ニ科刑ノ寬嚴性ニ膠シテ琴ヲ鼓スルカ如ク然テサルヲ期セサル可カラス

犯罪人ハ其類同一ナラス或ハ懲治シ易キ者アリ或ハ懲治シ難キ者アリ犯罪ヲ習慣トスル者ニ對シテ寬典ヲ以テ懲治ノ目的ヲ達セント欲スルヘ企及ス可カラサルノ事業タリ之レニ反シ偶然ノ發意ニ因リ一朝刑辟ニ觸ルルヲ致セシ者ハ其悔悟モ亦必ス速カナルヲ以テ此類ノ犯人ニ對シテ嚴刑ヲ加フルモ亦無益ナルヲ免レス故ニ此類ニ對シテハ改過遷善ノ方法ヲ設ケ隣ヲ得テ病ヲ忘ルルカ如クナラシメサル可カラス

是ヲ以テ刑罰ヲ定ムルニ亦寬嚴兩様ノ主義ヲ併用スルノ必要アリ此兩主義ノ活動ヲシテ充分ナラシメント欲セハ裁判官ヲシテ犯罪ノ情狀ト犯人ノ種類トニ隨ヒ其刑ヲ上下スルノ自由ヲ得セシメサル可カラス是レ本案ニ於テ刑ノ範圍ヲ開擴セシ所以ナリ議者或ハ云

二

フ刑ノ範圍ヲ開擴セシハ其趣旨不可ナル無シト雖モ其實行ニ於テ大ニ憂フ可キモノアリ現行刑法ノ下ニ於テスラ猶ホ且ツ上級審ニ於テ下級審ノ判決ヲ打破スル場合少カラス是レ畢竟下級審ノ判決其宜シキヲ得サルニ座スルノミ然ルニ現行刑法ニ比シ更ニ廣濶ナル刑ノ範圍ヲ設クルニ至ラハ裁判官刑罰ヲ濫用スルコト尙ホ多キヲ加ヘ而シテ刑ノ權衡ヲ失スルニ至ランコト將サニ今日ヨリモ甚シカラントスト此論一理ナシトセス然レトモ上訴ノ結果ヲ以テ下級裁判ノ當否ヲ論スルハ未ダ至論ト謂フヲ得ス尙モ上訴ヲ許ス以上ハ何ノ世何ノ時ト雖モ下級審ノ裁判ヲ取消スノ結果ヲ見ルコトハ數ノ免カレザル所ナリ此ノ如キ事實ヲ憂慮シ狹隘ナル刑ノ範圍ヲ墨守セント欲スルハ世運ニ伴ヒ刑罰ノ適用ヲシテ其度ニ中ラシムル所以ノ道ニ非ラサルナリ今日ノ急務ハ裁判官ヲシテ範圍廣濶ナル刑罰ヲ適用シ其權衡機宜ニ適中スルノ習慣ヲ了得セシムルニ在リ

現行刑法ノ實施以來僅カニ二十年ニシテ年月ヲ閱ミスル未ダ多カラスト雖モ此二十年間ニ於テ我國ノ文物ハ長足ノ進歩ヲ爲シ以テ今日ノ隆盛ヲ致セシハ我國民ノ齊シク是認スル所ナリ然ルニ現行刑法ハ殆ト百年前ノ制定ニ係ル佛國刑法ヲ摸倣シテ編制セシ所ナル

三

ヲ以テ其我國情ニ適合セサル所鮮少ナラサルハ固ヨリ怪ムニ足ラス殊ニ犯罪ノ情狀ト犯人ノ種類トニ隨ヒ刑罰ノ寬嚴ヲ自由ナラシムルコトヲ得サルハ其缺點ノ最ナルモノナリ故ニ其明文規定ノ結果或ハ懲治シ難キ犯人ニ對シテ寬刑ヲ用ヒ或ハ懲治シ易キ犯人ニ對シテ嚴刑ヲ科スルコトアリ刑罰ノ權衡其中庸ヲ失スルニ至ル會テ二三府縣ノ監獄署ニ就キ之ヲ檢セシニ在監人ノ十中八九ハ概テ再犯人ナリト云フ初犯ハ姑ク之ヲ舍キ既刑ノ奸惡國典ヲ侮蔑シテ犯罪ヲ數ハスルニ至リテハ刑罰ノ目的ヲ達スルモノト謂フヘケン乎世人又云フ現行刑法中規定ノ不備不完ナル條項ヲ指摘シ之レニ改正ヲ加フレハ則チ足レリト然レトモ現行刑法ハ其大體ニ於テ既ニ不可ナル所アリ一部ノ改正ヲ企ツルモ寧ソ改正ノ目的ヲ達スルニ足ランヤ故ニ刑法ノ全部ニ互リ改正ヲ加ヘ殆ト其舊條項ヲ存セサルニ至ルモ亦之レカ爲メナリ今刑法ノ根本ニ係ル改正ノ重要ナル部分ヲ擧グレハ左ノ如シ

第一 重罪輕罪ノ區別ヲ廢シテ重罪ト爲シタルコト

重罪輕罪ノ區別ヲ爲スハ學理上其根據アルニアラス又實際上其必要アルニ非サルナシ只利ノ重キモノヲ科スル罪ヲ名ツケテ重罪ト云ヒ刑ノ輕キモノヲ科スル罪ヲ名ツケテ輕罪

ト稱シタルヒ過キス然レトモ當時重キ刑ヲ科ス可キ所爲ナリト思惟セシ所ニシテ却テ重ク罰スルノ必要ナク又輕キ刑ヲ科ス可キ所爲ナリト思惟セシ所ニシテ重キ刑ヲ科セサル可カラサルモノアリ然ルニ重罪輕罪ノ區別ヲ爲シテ其範圍内ニ於ケルニアラサレハ刑ノ上下ヲ爲ス可カラストセハ犯罪ニ相當スル刑罰ヲ適用スルコトハ到底望ム可カラサルナリ若シ各犯罪ノ情狀ハ千變萬化ニシテ屢々人ノ豫想外ニ出ツルモノタルコトヲ知フハ豫メ刑ノ範圍ヲ制限シテ裁判官ノ自由ヲ羈束スルハ未ダ以テ善良ナル法律ナリト謂フコトヲ得ス今殺人罪ヲ以テ之ヲ言ハンニ殺人ノ事實ハ同一ナリト雖モ其情狀ニ至リテハ千差萬別ニシテ其輕重ノ最ナルモノヲ擧ケテ之ヲ比較スレハ鴻毛泰山モ當ナラサルナリ然ルニ現行刑法ノ如ク殺人罪ハ常ニ重罪トシテ之ヲ論セサル可カラストスレハ固ヨリ加重減輕ノ方法アリト雖モ未ダ此等ノ情狀ニ適中スル所ノ刑ヲ科スルコトヲ得サルヘシ文書偽造罪モ亦然リ現行刑法ニ於テハ官文書ノ偽造罪ハ重罪ニシテ私文書ノ偽造ハ輕罪ナリ然レトモ官文書ノ偽造ニシテ未ダ必スシモ社會ノ大害ヲ爲スニ至ラサルモノアリ而シテ私文書ノ偽造タルモ却テ國家ノ公益ニ大害ヲ及ボスヘキモノアリ然ルニ官文書ノ偽造罪ハ

其輕重大小ニ拘ハラス必ズ重罪ノ刑ヲ以テ之ヲ罰ス可シト爲シ私文書ノ偽造罪ハ必ズ輕罪ノ刑ヲ以テ之ヲ罰ス可シトセハ犯罪ノ情狀重キモノニ對シテ輕キ刑ヲ科シ其情狀ノ輕キモノニ對シテ重キ刑ヲ科スルノ弊害アルヲ免カレス殊ニ財產ニ對スル罪ニ付テハ情狀ノ差異最モ甚シク而シテ刑ノ範圍甚々狹隘ナルヲ覺ユ巨萬ノ財產ヲ奪フモ四五年ノ自由刑ヲ科スルニ過キス一錢ノ銅貨ヲ取ルモ二月以上ノ自由刑ヲ受ケサルヘカラス是ニ於テカ財產ニ對スル犯罪類リニ増加シテ而シテ殆ト犯罪ノ大半ヲ占ムルニ至ル是レ皆現行刑法ニ於テ重罪輕罪ノ區別ヲ爲シテ刑ノ範圍ヲ狹隘ニシタル弊害ニ因由セシムルハアラス今重罪輕罪ノ區別ヲ廢シ大ニ刑ノ範圍ヲ開擴シ各犯罪ニ共通シテ其適用ヲ爲スコトヲ得セシメハ則チ刑ノ權衡其宜シキヲ得而シテ其目的ヲ達スルニ於テ奏效アルニ庶幾カラン乎

第二 刑名ヲ減シタルコト

現行刑法ニ於テハ重罪輕罪違警罪ニ付キ各別ノ刑名ヲ設ケ重罪ノ刑ハ死刑、無期有期ノ徒刑流刑、重輕ノ懲役禁獄ノ九種ト爲シ輕罪ノ刑ハ重輕ノ禁錮罰金ノ三種ト爲シ違警罪ノ刑ハ拘留科料ノ二種ト爲セリ本案ニ於テ刑ノ範圍ヲ開擴シテ重罪輕罪ノ區別ヲ廢シタ

ルヲ以テ刑名ノ數モ亦隨テ減少セシハ固ヨリ當然ノ結果ナリ

第三 數罪俱發ノ規定ニ變更ヲ加ヘタルコト

現行刑法ハ數罪俱發ノ場合ニ於テ一ノ重キニ從ヒ處斷スルノ規定ヲ設ケタリ是故ニ一罪ヲ犯シタル者モ數罪ヲ犯シタル者モ其受クヘキ刑罰ハ常ニ同一ナルヲ以テ犯人ハ寧ロ一罪ヲ犯シテ罰セラレシヨリハ數罪ヲ犯シテ罰セラルルノ利益ナルニ若カストシテ進ミテ數罪ヲ犯サントスルノ嫌ナキ能ハス刑法ノ目的ハ犯罪ヲ防禦スルニ在リ然ルニ却テ犯罪ヲ獎勵スル傾向アル規則ヲ設クルハ刑法ノ本旨ニ適合スルモノナリト謂フ可ケンヤ故ニ本案ニ於テハ原則トシテ併科主義ヲ採リ唯例外トシテ多少ノ制限ヲ設ケタリ

第四 再犯加重ノ規定ヲ變更シタルコト

再犯人ハ元來刑罰ノ制裁ヲ受クルモ悔改セサル者ナルヲ以テ之レニ科スル所ノ刑罰ハ特別ナルモノニ非ラサレハ其目的ヲ達ス可カラス然ルニ現行刑法ノ規定ニ據レハ再犯加重ハ僅カニ本刑ニ一等ヲ加フルニ過キサカ故ニ縱令ヒ再犯加重ノ刑ヲ科スルモ其刑罰ハ殆ト通常ノ刑罰ト異ナラス近年再犯者著シク増加セシハ再犯ノ規定其宜シキヲ得サルニ

因由セスンハアラス凡ソ何人タリト雖モ其習慣ヲ改ムルハ常ニ困難トスル所ナリ犯人ノ犯罪ニ於ケル亦然リ再三罪ヲ犯シテ刑辟ニ觸レタル者ハ慣習其性ヲ成シテ遂ニ自ラ改ムルコトヲ知ラサルヲ以テ之レニ對シテ特別ノ處分ヲ行フニ非スンハ再犯ノ續發ヲ防禦スルノ效ヲ生スルコトヲ得サルヘシ是故ニ本案ニ於テハ再犯者ニ對シテ特別ノ刑罰ヲ科スヘシト爲シ懲役ノ刑ニ處ス可キ罪ヲ再犯シタル者ハ本刑ヲ二倍シタル刑ヲ以テ罰スルコトト爲シタリ

第五 監視及ヒ剝奪公權停止公權ノ規定ニ變更ヲ加ヘタルコト

一 監視ノ目的ハ再犯ヲ豫防スルニ在リ然レトモ現行刑法ニ規定スル監視規則ハ其シク被監視者ノ自由ヲ羈束スルヲ以テ被監視者ハ屢々生活ヲ得ルノ道ニ窮シ却テ再タヒ罪惡ヲ犯スノ己ムヲ得サルニ出ツル場合アリ殊ニ又監視執行ノ規則ニ違背シタル者ハ犯罪者トシテ之ヲ罰スルヲ以テ一方ニ於テ犯罪ヲ防禦セントシテ一方ニハ犯罪ヲ製造スルノ奇觀ヲ呈シ遂ニ監視ノ刑ハ犯罪發生ノ原因ト爲リテ監視違犯者ノ數ハ漸ク増加シ今日ニ至リテハ竊盜罪ノ數ニ亞クニ至レリ是レ法律ノ目的ニ背戻スルモノト謂フヘキ

ナリ故ニ本案ニ於テハ現行刑法ノ監視ニ關スル規定ヲ改メ監視ノ效力ハ警察上ノ便宜處分ヲ許スニ止メタリ

一 現行刑法ニ於テハ其罪質如何ヲ問ハス禁錮ノ刑期中ハ總テ公權ヲ停止シ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ總テ公權ヲ剝奪スルコトト爲シタルカ故ニ公權ヲ停止シ又ハ之ヲ剝奪スルノ必要ナキ場合ニ於テモ猶ホ其刑ヲ科スルコトト爲レリ本案ニ於テハ此弊害ヲ除カンコトヲ欲シ内亂ニ關スル罪外患ニ關スル罪其他若干ノ罪ニ付キ剝奪公權ヲ科スルヲ得ルコトト爲セリ此等ノ刑ニ付テモ絕對ニ剝奪公權ヲ科セス之ヲ取捨スルノ自由ヲ與ヘタルハ其犯情ニ適應セシメンコトヲ圖リタルナリ

第六 刑ノ執行猶豫ニ關スル規定ヲ設ケタルコト

刑法ノ目的ハ犯罪ヲ防禦スルニ在リ然レトモ犯罪必罰ハ未ダ必スシモ其目的ヲ達スヘキモノニ非ラス懲治シ易キ犯人ニ在リテハ一旦刑辟ニ觸ルルコトアルモ再ヒ善良ノ民タル能ハサル者ニ非ラサルナリ然ルニ刑法ハ必ス之ヲ罰シテ假借スル所ナク懲治シ難キ犯人ト共ニ牢獄ニ投シテ顧ミル所ナキハ則チ良民亦惡漢ノ爲メ誘惑セラレテ而シテ忽チ不良

ノ性ヲ養成スルニ至ル特ニ短期ノ自由刑ニ至リテハ懲治ノ目的ヲ達スルコト甚々困難ニシテ却テ獄中ノ惡風ニ感染スルコト至テ容易ナリ牢獄ニ出入シタルカ爲メニ懲治シ難キ犯人ト爲リタル者世間其例ニ乏シカラス刑ノ執行猶豫ハ此弊害ヲ拯フノ目的ニ出テタル新制度ニシテ白耳義、佛蘭西ニ於テ既ニ之ヲ實行シ經驗上既ニ其實益アルヲ認ムルニ足ルヲ以テ本案ニ於テモ亦執行猶豫ニ關スル規定ヲ設ケタリ

第七 國外ニ於ケル犯罪處分ニ關スル規定ヲ設ケタルコト

帝國外ニ於ケル犯罪處分ニ關シテハ現行刑法一言ノ規定ナシ然レトモ齊シク國家ノ危害タル犯罪ニシテ國內ニ於ケル犯罪ハ之ヲ處罰スルノ必要アリテ獨リ國外ニ於ケル犯罪ハ之ヲ默過ス可シト謂フノ理由ナシ故ニ本案ニ於テハ國外ニ於ケル内外國人ノ犯罪ヲ處罰スルノ規定ヲ設ケタリ

第八 國交ニ關スル犯罪ヲ規定シタルコト

現行刑法ニ於テハ外國及ヒ外國ノ君主又ハ使節ニ對シテ暴行又ハ侮辱ヲ加ヘタル者ヲ罰スルノ規定ナシ此等ノ所爲ハ國際上ノ妨害トナルコト固ヨリ鮮少ナラサルヲ以テ本案ニ

於テハ國交ニ關スル犯罪ノ規定ヲ設ケタリ

第九 違警罪ニ關スル規定ヲ削除シタルコト

現行刑法ハ其第四編ニ於テ違警罪トシテ拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ一切ノ刑ヲ列記シタリ然レトモ違警罪ハ現行刑法ニ列記シタルモノノミニ止マラス尙ホ地方ノ狀況ニ因リ特別ノ規定ヲ設ケルノ必要アリ故ニ本案ニ於テハ拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ犯罪ト雖モ輕罪トシテ之ヲ第二編ノ各本條中ニ編入シ其編入スヘカラサルモノハ特別ノ規定ニ委スヘキモノトセリ

新舊改正刑法案理由書
對照
刑法

第一編 總則

(理由) 本編ハ現行法ノ第一編ト等シク各種ノ犯罪ニ共通スル規定ヲ網羅シテ之ヲ掲ケタルモノナリ其編次ハ第一章法例、第二章刑例、第三章犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免、第四章未遂罪、第五章併合罪、第六章再犯、第七章共犯、第八章酌量減輕、第九章加減例ト爲シタリ其現行法ト異ナル所ヲ擧ケレハ現行法第一編第十章ノ親屬例ハ民法ノ規定ニ從フコトトナシテ之ヲ删除シ同編第三章ノ加減例及ヒ同編第六章ノ加減順序ヲ合セテ一章ト爲シ之ヲ本編第九章トシ又現行法第一編第四章第三節酌量減輕ヲ同章ヨリ分離シテ更ニ本編第八章トナシ又現行法第一編第七章數罪俱發ヲ改メテ本編第五章併合罪トナシ其他章ノ順序ヲ變更シタルニ過キサルナリ

第一章 法例

(理由) 本章ハ現行法第一編第一章ト同シク刑法ノ效力ニ關スル一般ノ通則ヲ定メタ

ルモノナリ左ノ如シ

- 一 犯罪ノ區別
- 二 法律ノ時ニ關スル效力
- 三 法律ノ土地ニ關スル效力
- 四 法律ノ人ニ關スル效力
- 五 刑法ノ總則ノ他ノ法律ニ對スル效力

現行法第二條ノ規定ハ解釋上明白ノ原則ニシテ之ヲ成文トナスノ必要ナキヲ以テ刪除シ又第四條モ一般法ト特別法トノ關係上自明ノ法理ナルヲ以テ等シク之ヲ刪除シタリ現行法ニハ法律ノ土地及ヒ人ニ關スル效力ニ付キ何等ノ規定ナシ此レ實ニ現行法ノ缺點ニシテ改正ス可キ緊要ナル一理由ニ屬ス依テ第三條乃至第七條ニ於テ特ニ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ

此他本章中第八條ニ於テ公務所及ヒ公務員ナル用語ノ意義ヲ示シタリ

第一條 法律ニ於テ罰ス可キ行爲ヲ重罪及ヒ輕罪トス

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪分テ三種ト爲ス

一 重罪
二 輕罪
三 違警罪

(理由) 現行法ハ其第一條ニ於テ所謂犯罪三別ノ主義ヲ採リ重罪、輕罪、違警罪ノ三種ヲ區分セリ然レトモ現行法ノ重罪、輕罪ノ區別ハ固ト其罪質上明白ニ之ヲ區別スルニ足ル可キ標準アルニ非ス唯之ニ科ス可キ刑名刑期ヲ異ニスルニ過キス特ニ自由刑ニアリテハ重罪ノ刑期ハ輕罪ノ刑期ヨリ長ク輕罪ノ刑期ハ重罪ノ刑期ヨリ短キカ爲メ往往ニシテ重罪ノ自由刑ハ其短期モ重キニ過キ輕罪ノ自由刑ハ其長期モ輕キニ失シ罪狀ト刑罰ト相當タラサルノ弊ヲ生ス之ヲ濟ハントスルニハ現行法ノ重罪、輕罪ノ區別ヲ廢シ刑期ノ範圍ヲ廣カテシムルニ如クハナシ然リト雖モ亦現行法ノ違警罪ニ至リテハ其罪質稍前二者ト同シカラサル所アリテ主トシテ他ノ犯罪ヲ豫防スル目的ニ出ツルモノ多シ此ヲ以テ修正案ニ在テハ現行法ニ所謂重罪、輕罪ノ區別ヲ廢シ之ヲ合セテ更ニ重罪ト名ケ違警罪ノ語ヲ改メテ輕罪ト爲シ犯罪二別ノ主義ヲ採リタリ

現行法第一條ニ於テ凡法律ニ於テ罰ス可キ罪トアルヲ改メテ法律ニ於テ罰ス可キ行爲トナシタリ是レ成ル可ク用語ノ穩當ニ出ントヲ求メタルニ止リ敢テ主旨ノ改變ヲ爲シタルニ非ス

第三條 法律ハ頒
布以前ニ係ル犯
罪ニ及ホスコト
ヲ得ス若シ所犯
ノ罪以前ニ在テ
未タ判決ヲ經サ
ル者ハ新舊ノ法
ヲ比照シ輕キニ
從テ處斷ス

第二條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリアルトキハ其輕キモノヲ適用ス

十六

(理由) 本條ハ現行法第三條ト其規定ノ主旨ヲ同シク然レトモ法律ヲ其施行以前ニ係ル行為ニ適用ス可カラサルハ自明ノ理ニシテ故ラニ之ヲ明記スル必要ナキヲ以テ本案ニ於テハ其第一項ヲ削除シタリ

現行法第三條第二項ニ於テハ「新舊ノ法ヲ比照シ」云々ト規定スルヲ以テ只一回ノ刑ノ變更アリタル場合ノミヲ豫想セシヤノ疑ナキ能ハス本案ハ單ニ「其輕キモノヲ適用ス」ト修正シテ其缺點ヲ補綴シ且既ニ適用スト言ヘハ其裁判確定前ナルコト亦自ラ明白ナル可キヲ以テ「未タ判決ヲ經サル」云々ノ字句ヲ削除シタリ

第二條 法律ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ犯シタル罪ニ之ヲ適用ス
帝國外ニ在ル帝國艦船内ノ犯罪ニ付キ亦同シ

(理由) 本條以下第七條マテハ前ニ述フルカ如ク現行法ニ於テ缺ケタル所ナルヲ以テ新ニ之ヲ補足シタル規定ナリ

本條第一項ハ我法權ノ及フ可キ土地ノ區域ニ關スル原則ヲ規定シタルモノナリ而シテ本條ノ主旨ハ何人ヲリトモ我帝國内ニ在テ罪ヲ犯シタルトキハ我刑法ノ支配ヲ受ク可キコトヲ定メタリ
抑一國法權ノ及フ可キ區域ニ付テハ古來屬地主義屬人主義ノ二主義アリ屬地主義ニ在テハ國土ヲ基トシ其國內ニ在テ犯シタル罪ニ付テハ何人ヲ問ハス内國ノ法律ヲ適用スヘシトナシ屬人主義ニ在テハ本國人ハ何レノ地ニ在ル場合ト雖モ常ニ其本國法ノ適用ヲ受ク可シトナスモノナリ修正案ノ採ル所ハ乃チ屬地主義ニシテ日本國內ノ犯罪ニ付テハ犯人ノ誰タルヲ問ハス常ニ我法律ヲ適用スルコトヲ原則ト定メタルナリ是レ今日汎ク各國ニ行ハルル所ニシテ又尤モ時宜ニ適シタルモノトス
本條第二項ハ帝國外ニ在ル帝國ノ艦船内ノ犯罪ニ付キ亦原則トシテ我法律ヲ適用ス可キコトヲ定メタルモノナリ抑本邦ノ艦船カ一度我領土ヲ離ルルヤ艦船内ニ生シタル犯罪ニ付キ刑法ノ效力ヲ定ムルニ非サレハ頗ル疑義ヲ生スルノ虞アリ從來艦船ハ其本國領土ノ一部ト看做シ之ニ本國法ヲ適用ス可シトナセル學說ト本國ヲ離レタル艦船ニ付

十七

テハ必要上本國法ヲ適用ス可シトナセル學說トアリ本案ハ其第二ノ主義ヲ採リ必要上在外ノ艦船内ノ犯罪ニ付キ本國法ヲ適用スト定メタルナリ

第四條 法律ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ皇室又ハ帝國ニ對シテ犯シタル重罪ニ之ヲ適用ス

(理由) 本條ハ帝國外ニ於ケル犯罪ニ付テモ尙ホ我法律ヲ適用ス可キ場合ヲ規定シタルモノナリ

前條ニ於テ帝國内ノ犯罪ニ關スル規定ヲ設ケタリト雖モ特ニ或罪ニ付テハ帝國外ニ於テ犯シタル罪モ尙ホ之ヲ處罰スルノ必要アリ本條ハ所謂保護主義ヲ採リ外國ニ於テ犯シタル重罪ニシテ我皇室又ハ帝國ニ對スルモノニ付テハ特ニ此法律ヲ適用ス可キコトヲ規定シタルナリ此ノ如キ犯罪ハ我國ノ安寧秩序ヲ害スルコト甚ダ大ナリト雖モ外國ニ在テハ却テ犯罪ヲ構成セサルコトアリ從テ我國ニ於テ處罰スルコト最モ必要ナレハナリ

第五條 法律ハ帝國臣民帝國外ニ於テ生命、身體、自由、財産及ヒ信用

ニ關シテ犯シタル重罪ニ之ヲ適用ス

外國人帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シタル前項ノ罪ニ付キ亦同シ

(理由) 本條第一項ハ所謂屬人主義ヲ採リタルモノニシテ帝國臣民カ帝國外ニ在ル場合ト雖モ生命、身體、自由、財産及ヒ信用ニ關スル重罪ヲ犯ストキハ亦我法律ヲ適用ス可キコトヲ規定ス蓋シ此等ノ重罪ニ限リタルハ特ニ重要ナル犯罪ニ付テノミ此法律ヲ適用シ其他ノ犯罪ニ付テハ之ヲ必要トセサルニ基クモノナリ
本條第二項ハ亦保護主義ニ基キタル規定ニシテ縱令帝國外ニ於ケル場合ト雖モ外國人カ帝國臣民ニ對シ前項ノ如キ罪ヲ犯シタル場合ニ在テハ之ニ對シ我法律ヲ適用シ以テ保護ノ道ヲ全フセント欲スルナリ

第六條 法律ハ帝國ノ公務員帝國外ニ於テ犯シタル職務ニ關スル罪ニ之ヲ適用ス

(理由) 本條ハ前條第一項ト同シク屬人主義ヲ採リタルモノニシテ本條ノ必要ハ帝國ノ公務員カ外國ニ於テ職務ニ關スル罪ヲ犯シタル場合ハ前條第一項ノ規定ニ漏ルルヲ

第七條 外國ニ於テ確定裁判ヲ經タル事件ト雖モ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得

(理由) 前數條ノ規定ノ結果トシテ殊ニ第五條アルカ爲メニ犯人既ニ外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタルトキト雖モ更ニ我法律ニ依リ處分セララルコトアリ之カ爲メニ犯罪人ハ一犯罪ニ付キ再度ノ處分ヲ受クルノ不幸アリ是レ或ハ酷ニ失スルノ嫌ナキニ非ラサルヲ以テ本條ハ一度外國ノ確定裁判ヲ經タル事件ニ付キ再ヒ我國ニ於テ裁判ヲ爲スニ際シ其犯人ハ既ニ外國ニ於テ刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ刑ヲ言渡スト共ニ其執行ヲ減免スルコトヲ得ヘキコトヲ規定セルモノナリ

第八條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ
公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

(理由) 現行法ハ官吏又ハ官署ニ關シテ規定ヲ設ケ又之ヲ補ハンカ爲メ明治二十三年法律第百號ヲ以テ公吏、公署ハ之ヲ官吏、官署ニ準用スルコトヲ規定スト雖モ其他猶ホ國家ノ事務ニ從事セル職員少ナカラス而シテ此等ノ職員ハ刑法上現時ハ之ヲ一私人ト看做スノ不便アリ然レトモ亦此等ノ職員ノ種類ニ至リテハ議員、委員等其名稱甚ダ多ク一々之ヲ列擧スルハ到底爲シ得可カラサルコトナリ而シテ現時此等ノ職員、公衙ニ對シテハ官吏、公吏、官署、公署ニ關スル規定ヲ適用ス可キ必要甚ダ切ナリ此ヲ以テ本條ニ於テ新ニ公務員及ヒ公務所ナル語ヲ設ケ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ公務員トシ此等ノ者ノ職務ヲ行フ所ヲ公務所トシ以テ汎ク國家ノ公務ニ從事スル職員、公衙ニ關スル規定ヲ設ケルノ必要ヲ充タシ且其名稱ヲ簡ニシタルモノナリ

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ

第九條 本法ノ總則ハ他ノ法律ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法律ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス
(理由) 本條ハ現行法第五條ト其規定ノ主旨ヲ同シク唯現行法第五條第二項ヲ本條

若シ他ノ法律規
則ニ於テ別ニ總
則ヲ掲ケタル者
ハ此刑法ノ總則
ニ從フ

本文トシ第一項ヲ但書トナシタルノミ
又現行法ニ法律規則トアルヲ改メテ法律ト爲シタルハ今日ニ於テ規則ノ名目ヲ以テ發
布セラルルモノナキノミナラス現行法ノ主旨モ亦單ニ法律ト云フノ意ニ出タルモノナ
ルヲ以テナリ

第二章 刑例

(理由) 本章ハ現行法第一編第二章ト等シク刑罰ニ關スル通則ヲ定メタルモノナリ其
修正シタル要點ヲ擧クレハ

現行法第一編第二章第一節、第二節及ヒ第三節ヲ合シテ本章第一節トナシ第四節ハ刑
法ニ規定ス可キモノニ非スシテ寧ロ刑事訴訟法ニ屬ス可キモノトシテ之ヲ刪除シ第五
節ハ本章第二節ニ當リ第六節ハ本章第三節ニ該當ス而シテ其内ニ新ニ刑ノ執行猶豫及
ヒ免除ノ事ヲ規定シ第七章ハ本章第四節ニシテ期滿免除ノ名稱ヲ改メテ時効トナシ第
八節ハ本章第五節ニシテ大赦、特赦、減刑及ヒ復權ノコトヲ規定シタリ

第一節 刑

(理由) 本節ニ於テハ刑ノ種類及ヒ其效力ヲ規定シタリ

第十條 死刑、懲役、禁錮及ヒ罰金ヲ重罪ノ主刑トス

拘留及ヒ科料ヲ輕罪ノ主刑トス

公權剝奪、監視及ヒ沒收ヲ附加刑トス

第六條 刑ハ主刑
及ヒ附加刑ト爲
ス
主刑ハ之ヲ宣告
ス附加刑ハ法律
ニ於テ其宣告ス
ル者ト宣告セサ
ル者トヲ定ム

第七條 左ニ記載

シタル者ヲ以テ

重罪ノ主刑ト爲

ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四無期流刑

五有期流刑

六重懲役

七輕懲役

八重禁獄

九輕禁獄

第十條 左ニ記載

シタル者ヲ以テ

重罪ノ主刑ト爲

ス

一重禁錮

二輕禁錮

三罰金

四監禁

五罰金

六沒收

(理由) 本條ハ現行法第六條乃至第十條ノ規定ヲ合セタルモノニシテ刑名ニ關スル規定ナリ現行法ハ刑ヲ分テ主刑及ヒ附加刑ト爲セリ修正案モ亦刑ヲ二種ニ分テ主刑ト附加刑トノ區別ヲ設ケタリ

重罪ノ主刑ハ死刑、懲役、禁錮及ヒ罰金ノ四種ト爲シタリ

死刑ハ現行法ト等シク修正案モ亦之ヲ設ケタリ抑死刑ヲ設クルノ可否ニ付テハ從來ノ學說未ダ一致シタルモノアルニ非ス又外國ニ於テモ之ヲ廢シタル立法例無キニ非スト

雖モ今日ノ情況ハ未ダ之ヲ全廢スルヲ許サス蒸シ死刑ノ危險ニシテ又殘刻ナルコトハ

爭フ可カラサル事實ナリト雖モ從來ノ實驗ニ徴シ又之ヲ理論ヨリ見ルモ刑トシテ充分

ノ效果アルコトハ亦疑ヲ容レズ修正案ニ於テモ亦死刑ノ必要ヲ認メ現行法ニ倣ヒ之ヲ

重罪ノ主刑トシテ設ケタルナリ

懲役及ヒ禁錮ハ共ニ修正案ノ設ケタル重罪ノ自由刑ニシテ懲役ニハ定役ヲ科シ禁錮ニ

ハ之ヲ科セス前第一條ニ於テ掲ケタル如ク現行法ハ重罪、輕罪ノ自由刑ヲ分テ數種ト

爲シ定役アル自由刑ハ無期、有期ノ徒刑、重輕懲役及ヒ重禁錮トシ定役ナキ自由刑ハ無

第十條 左ニ記載

シタル者ヲ以テ

重罪ノ主刑ト爲

ス

一附加刑ト爲

ス

二剝奪公權

三禁止公權

四監禁

五罰金

六沒收

期、有期ノ徒刑、重輕禁獄及ヒ輕禁錮トシ主トシテ刑期ノ長短ニ依リ其輕重ヲ區別スト雖モ其執行方法ニ至リテハ殆ト之レカ輕重ヲ區別ス可キ標準アルコトナシ此ノ如ク多數ノ階級ヲ設ケタル結果トシテ刑期ノ範圍其々短キニ失シ現時其弊ニ堪ヘサルモノ寡ナシトセス修正案カ重罪、輕罪ノ區別ヲ廢シ此二者ヲ合シテ更ニ一ノ重罪トナシタルハ專ラ自由刑ノ刑期ノ範圍ヲ廣カラシメント欲シタルニ在リ此ヲ以テ本條ニ於テハ現行法ノ徒刑、懲役及ヒ重禁錮ヲ合シテ之ヲ懲役トナシ流刑、禁獄及ヒ輕禁錮ヲ合シテ之ヲ禁錮トナシ只定役ノ有無ニヨリテ二種ノ區別トナシタルノミ

定役ノ有無ヲ以テ自由刑ノ二種ヲ區別スルニ付テハ多少議論アリ然リト雖モ犯罪ノ性質ニ因リテハ單ニ犯人ヲ拘禁スルコトヲ以テ充分トナス可キモノアリ國事犯ノ如キ即チ是ナリ故ニ定役ヲ科ス可キ場合ト其否ラサル場合トノ區別ヲ設クルノ必要アルヲ認メ自由刑ヲ分テ定役アル懲役ト定役ナキ禁錮トノ二種トナシタルナリ

罰金ハ現行法ト全ク同一ナリ唯現行法ハ附加刑トシテ罰金ノ刑ヲ設ケト雖モ附加刑トナスノ理由ナキヲ以テ修正案ハ同時ニ罰金ト自由刑トヲ科ス可キ場合ニハ各獨立ノ主

刑トシテ併七科スルコトトナシタリ

輕罪ノ主刑ハ拘留及ヒ科料ニシテ現行法ノ違警罪ノ主刑ト全ク同一ナリ

附加刑ハ公權剝奪、監視及ヒ沒收トナシタリ其現行法ト異ナル所ハ附加刑タリ罰金ヲ廢シ又公權停止ヲ廢シ公權剝奪ノ場合ニ於テ之ニ相當スル規定ヲ設ケタルノミナリ

第十一條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但有期徒刑禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトス

二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯狀ニ依リ其輕重ヲ定ム

(理由) 本條ハ現行法ノ闕如スル所ニシテ主刑ノ輕重ヲ定ムル標準ヲ示スモノナリ其規定概テ明瞭ニシテ第一項但書ヲ除クノ外殆ト規定スルノ必要ナキカ如クナレトモ之ヲ缺クトキハ實際上疑義ヲ生スルヲ免レス第一項ハ異種ノ刑ニ付キ規定シタルモノニシテ重罪ノ主刑中死刑ヲ以テ最モ重シトシ懲役之ニ次キ禁錮又之ニ次キ罰金ヲ以テ最

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ於テ之ヲ行フ

モ輕シトシ輕罪ニ付テハ拘留ヲ重シトシ科料ヲ輕シトスル趣旨ヲ明ニセリ又其但書ニ於テ有期徒刑懲役ト有期禁錮トヲ比較シ原則トシテハ有期徒刑懲役ヲ以テ有期徒刑禁錮ヨリ重シトスレトモ禁錮ノ刑期懲役ノ刑期ヨリ長キトキハ場合ニ依リ有期徒刑禁錮ノ有期徒刑懲役ヨリ重キコトアルコトヲ明ニセリ第二項及ヒ第三項ハ同種ノ刑ニ付キ規定シタルモノニシテ更ニ之ヲ刑期ノ長短金額ノ多寡ニ差異アル場合ト否ラサル場合トニ區別シ其差異アルモノハ第二項ニ記載シタル標準ニ依リ差異ナキモノハ第三項ニ記載シタル標準ニ依リテ輕重ヲ定ムルコトトセリ

第十二條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡確定シタル後其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘留ス

(理由) 本條第一項ハ現行法第十二條ト同シク死刑ノ執行ニ關スル規定ナリ現行法ニ於テ死刑ハ絞首ストアルヲ改メテ絞首シテ執行スト爲シタルハ絞首シテ生命ヲ絶ツコトヲ明ニシタルモノニシテ絞首ニ因リ一旦絶命シタル後蘇生スルコトアルモ更ニ絞首シテ生命ヲ絶ツコトヲ要スルカ爲メナリ

第二項ハ死刑ノ言渡確定シタル者ニ對シ其執行ニ至ルマテハ之ヲ監獄ニ拘留ス可キコトヲ規定シタリ現行法ニハ此規定ナキカ爲メ死刑ノ言渡確定シタル被告人ニ對シ其執行マテ之ヲ置ク可キ場所ニ付キ多少疑義アルヲ以テ修正案ニ於テ新ニ之カ規定ヲ設ケタルナリ

第十三條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一日以上十五年以下トス

懲役ハ懲役場ニ拘留シ定役ニ服ス

(理由) 本條ハ懲役ノ規定ナリ第一項ニ於テ其期限ヲ定メ無期及ヒ有期トナシ有期懲役ハ一日以上十五年以下トナセリ此規定ハ一見其期限甚ク長キニ失スルノ觀アルト雖

モ之ヲ現行法ト比較スルトキハ少シモ改正ヲ施シタルモノニ非ス懲役ハ第九條ニ說明セル如ク現行法ノ徒刑、懲役及ヒ重禁錮ヲ合シタルモノニ該當スル刑ナリ而シテ有期徒刑ハ十五年以下ニシテ重禁錮ハ十一日以上ナリ又現行法ニハ重禁錮ヲ減盡シタルトキハ拘留ニ處ストアリテ拘留ハ一日以上十日以下ナルヲ以テ之ヲ通算スレハ一日以上

第十七條 無期有期ヲ分メス島地ニ發遣シ定役ニ服ス
第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ
第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

十五年以下トナリ唯之ヲ短キ期限ニ區別シ數多ノ刑名ヲ附シタルト之ヲ合シテ刑名ヲ一ニシタルトノ差アルノミ

第二項ハ懲役ノ執行ニ關スル規定ニシテ現行法第十七條第一項、第二十二條第一項及ヒ第二十四條第一項ノ規定ノ一部ニ該當シ懲役場ニ拘留シ定役ニ服セシムルコトヲ規定ス

第十四條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一日以上十五年以下トス

禁錮ハ禁錮場ニ拘留ス

(理由) 本條ハ禁錮ノ規定ナリ第一項ニ於テ其期限ヲ定メ之ヲ無期及ヒ有期ニ分チ有期禁錮ハ一日以上十五年以下トセリ有期禁錮ニ付テモ亦前條ニ説明スルト同シク少シモ現行法ヲ改正シタルモノニ非ス只數多ノ刑名ヲ合シテ一トナシタル結果トシテ有期禁錮ノ期間ヲ長ク爲シタルノミ

第二項ハ禁錮ノ執行ニ關スル規定ニシテ現行法第二十條第一項、第二十三條第一項及

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分メス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス
第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス
第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

七第二十四條第一項ノ規定ノ一部ニ該當シ禁錮場ニ拘置スト規定シタリ其懲役ト異ナル所ハ禁錮ハ定役ヲ以テ刑トナササルニアリ

第十五條 罰金ハ一圓以上トス

(理由) 本條ハ現行法第二十六條ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ罰金ハ二圓以上ト爲シ二圓未満ハ之ヲ科料ト爲シタリ修正案ハ其主義ヲ改メ罰金ト科料トハ既ニ罪質ヲ異ニスル重輕罪ノ刑タルヲ以テ罰金ノ額ハ必スシモ科料ノ額ヨリ多キコトヲ要セサルニ依リ罰金ノ低額ヲ改メ之ヲ一圓以上ト爲シタリ又其科ス可キ金額ハ各本條ニ於テ規定ス可キコトハ明文ヲ要セサルヲ以テ現行法第二十六條ノ仍ホ以下ヲ删除セリ

第十六條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

罰金ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金不完納ノ場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

裁判確定後一月内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲ス

第二十六條 罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ多寡ヲ區別ス

第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖

モ仍一日ニ計算ス
罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルコトヲ得ス
若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ控除シテ禁錮ヲ免ス
親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

コトヲ得ス

罰金ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納メタルトキハ罰金ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間内罰金ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

(理由) 罰金ハ金額ヲ徵收スルコトヲ目的トスル刑罰ナルヲ以テ被告人ニシテ財産ヲ有セサル場合ニハ其目的ヲ達スルコト能ハス此場合ニ於テ採ル可キ方法ニアリ其第一ハ現行法ノ採レル換刑處分ニシテ罰金ヲ換算シテ輕禁錮ニ處スモノトス然ルニ其結果ヲ見レハ財産アルモノハ換刑ヲ免カルト雖モ財産ナキモノハ常ニ自由刑ニ處セラルルノ不幸ヲ見ルノミナラス罰金ヲ以テ輕禁錮ニ換フルモノナルカ故ニ被告人ハ徒ラニ獄中ニ呻吟スルニ止マリ國家ハ之カ爲メニ却テ幾分ノ經費ヲ損スルコトトナリ本來ノ罰金刑ノ主旨ニ反スルコト其シク其實益極メテ僅少ナリ此ヲ以テ修正案ハ第二ノ方法ヲ採リ罰金ヲ納ムルコト能ハサル被告人ハ之ヲ他ノ刑ニ換フルコトヲ廢シ唯之ヲ勞役場

ニ留置シ其自由ノミヲ制限シ又情狀ニ依リ被告人ヲシテ勞働ニ從事セシメ之ヨリ生ス可キ利得ヲ以テ罰金ノ幾分ニ充ツルコトヲ目的ト爲シタリ

現行法第二十七條ニハ罰金納完ノ日限ヲ二个月ト定メタレトモ修正案ハ必スシモ一个月ヲ俟タス本人承諾スルトキハ裁判確定後ハ直ニ留置ノ處分ヲ爲シ得ルコトト改メタリ又現行法ハ罰金ヲ納完セサル者トナシ納完スト否トハ之ヲ本人ノ自由ト爲シ其結果トシテ往往財産アル者ト雖モ之ヲ納メスシテ換刑ヲ請求スルコトアリテ罰金ノ目的ヲ達スルコト能ハサルヲ以テ修正案ハ之ヲ改メ財産アルトキハ必ラス金錢ヲ納メシメ以テ罰金ノ目的ヲ達センコトヲ欲シ財産ナキトキニ限り初メテ留置ノ處分ニ出ルコトト爲セリ又現行法ハ金額ト禁錮ノ日數トノ割合ヲ定メ一日ヲ一圓ニ折算スト爲セルヲ以テ若シ罰金額多キトキノ如キハ罰金ノ一部ハ事實之ヲ拋棄スルカ如キ結果ヲ生スルヲ以テ修正案ハ之ヲ改メ裁判所ヲシテ罰金額ニ應シ適宜ニ留置ノ日數ヲ定メシムルコトト爲セリ又現行法ハ換刑ノ手續ヲ定メ居ルモ修正案ハ之ヲ刑事訴訟法ニ讓リタリ又現行法ハ禁錮ノ期限ヲ二年ニ限ルト雖モ近來ノ立法例ハ之ヲ短縮スル傾向アルノミナラ

第二十八條 拘留

ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セシ其刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第十七條 拘留ハ一日以上一月以下トシ拘留場ニ拘留ス

(理由) 本條ハ現行法第二十八條ト同シ唯期間ヲ一日以上一月以下トナシタルハ現行法ハ一日以上十日以下ニシテ加重ノ結果尙ホ十二日ニ昇ルニ過キスシテ經驗上其範圍ノ狹ニ失スルヲ以テナリ修正案ニ依レハ有期ノ懲役又ハ禁錮ハ共ニ一日以上ニシテ拘留ト其日數相同シキ場合アリ然レトモ本案ハ重罪ト輕罪トハ全ク其罪質ヲ異ニスルモノナリトノ主義ヲ採ルヲ以テ重罪ノ刑ト輕罪ノ刑ト其日數相同シキ場合アルモ刑ノ性質上之ヲ區別スルヲ以テ少シモ不都合ヲ生スルコトナシ

第十八條 科料ハ十錢以上三十圓以下トス

(理由) 本條ハ現行法第二十九條ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ五錢以上一圓九十

第二十九條 科料
ハ五錢以上一圓九十五錢以下トス

爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第二十七條 罰金
ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍一日ニ計算ス
罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルコトヲ得ス

五錢以下ト定メ加重ノ結果二圓四十錢ニ至ルニ過キスシテ其範圍亦頗ル狹ニ失スルヲ以テ改メテ十錢以上三十圓以下トナシタルナリ故ニ時トシテハ其金額罰金ト相同シキ場合アル可シト雖モ前條ニ準ケタル所ト同一ノ理由ニ依リ少シモ怪ムニ足ラサルナリ

第十九條 科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一月以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ二月ヲ超ユルコトヲ得ス

一圓以上ノ科料ニ處セラレタル者ニ對シテハ裁判確定後一月内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條第二項、第四項及ヒ第五項ノ規定ハ科料ニ之ヲ準用ス

(理由) 本條モ第十六條ト同一ノ主義ニ因リ科料ヲ完納セサル場合ニ被告人ヲ勞役場ニ留置スル規定ニシテ現行法ノ換刑主義ヲ改メタルモノナリ

第二項ハ科料ハ修正案ニ於テ之ヲ併科スルコトトナシタルヲ以テ其名科料ニ付キ留置

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ控除シテ禁錮ヲ免ス
親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

第三十一條 剝奪

- 一 國民ノ特權
- 二 官吏ト爲ルノ權
- 三 勳章、年金、位記、貴號、恩給ヲ有スルノ權
- 四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權
- 五 兵籍ニ入ルノ權
- 六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權
- 七 租界ニ事實

日數ヲ定ムルコトトナセハ或ハ長期ニ達スルノ虞アルヲ以テ其ノ期間ヲ二月ニ制限シタルナリ 第三項ハ第十六條第三項ト同一ノ主旨ニ基ク規定ナリ 其一圓以上ニ限リタルハ一圓以下ノ少額ニ付テハ一月ノ猶豫ヲ要ス可キ場合少ナカル可キヲ以テナリ

第二十條 公權剝奪ハ左ノ效果ヲ生ス

- 一 法律ニ定メタル選舉ニ付キ選舉權及ヒ被選舉權ノ喪失
- 二 公務員タル資格ノ喪失
- 三 位記、勳章、年金及ヒ恩給ヲ有スル資格ノ喪失
- 四 外國ノ勳章ヲ佩用スルコトノ禁止
- 五 兵籍ニ入ル資格ノ喪失

(理由) 本條ハ公權剝奪ノ效力ニ關スル規定ナリ現行法第三十一條ニ少シク修正ヲ施シタリ其要旨ヲ擧ケレハ

現行法ニハ左ノ權ヲ剝奪スルヲ改メ左ノ效果ヲ生ストナシタルハ文字ノ修正ニ止

ラ陳述スルハ
此限ニ在ラス
七後見人ト爲ル
ノ權但親屬ノ
許可ヲ得テ子
孫ノ爲メニス
ルハ此限ニ在
ラス
八分散者ノ管財
人ト爲リ又ハ
會社及ヒ共有
財産ヲ管理ス
ルノ權
九學校長及ヒ教
師學監ト爲ル
ノ權

マリ主旨ニ於テハ變更アルニ非ス
現行法第三十一條中其第一號ニ於テ國民ノ特權トアルハ其意義通セサルニ非スト雖モ
頗ル疑義アル文字ナルヲ以テ修正案ハ之ヲ改メ第一號ニ於テ法律ニ定メタル選舉ニ付
キ選舉權、被選舉權ノ喪失トナシ其主旨ヲ明ニセリ
現行法ハ第二號ニ於テ官吏ニ關スル規定ノミヲ掲ケ公職ニ就クモノニ付テノ規定ナキ
ヲ以テ修正案ハ之ヲ補充シ第二號ニ於テ概括的ニ公務員タル資格ノ喪失ニ付テノ規定
ヲ設ケタリ現行法第三十一條第三號ニハ勳章、年金、位記、貴號及ヒ恩給ニ關スル規
定ヲ設ク修正案ハ之ト同シク第三號ニ於テ位記、勳章、年金及ヒ恩給ノコトヲ規定シ
貴號ニ關シテハ其語ヤ、明瞭ヲ欲クノミナラス他ノ法令ノ規定ニ讓ルヲ便トスルヲ以
テ之ヲ削除セリ現行法ノ第四號及ヒ第五號ハ修正案ノ第四號及ヒ第五號ト爲シタリ
現行法ノ第六號、第七號、第八號及ヒ第九號ハ共ニ之ヲ削除ス其理由ヲ擧クレハ第六
號ハ民事訴訟法又ハ刑事訴訟法ニ於テ規定スルヲ可トシ第七號ハ民法ニ規定アリ第八
號モ亦民法、商法又ハ破産法ニ於テ規定ス可キモノナリ第九號ニ於テ官公立學校ノ職

第三十二條 重罪
ノ刑ニ處セラレ
タル者ハ別ニ宣
告ヲ用ヒス終身
公權ヲ剝奪ス
第三十三條 禁錮
ニ處セラレタル
者ハ別ニ宣告ヲ
用ヒス現在ノ官
職ヲ失ヒ其刑期
間公權ヲ行フコ
トヲ停止ス
第三十四條 輕罪
ノ刑ニ於テ監視
ニ付シタル者ハ
別ニ宣告ヲ用ヒ
ス監視ノ期限間
公權ヲ行フコト
ヲ停止ス
主刑ヲ免シテ止
メ監視ニ付シタ
ル者亦同シ

員ニ付テハ官職又ハ公職ニ關スル修正案第二號ノ規定ヲ以テ充分ニシテ私立ノ學校職
員ニ付テモ亦特別ノ規定ニ讓ルヲ妥當トスルヲ以テ削除シタリ
第二十一條 公權剝奪ハ無期又ハ有期トシ有期公權剝奪ハ一年以上
十五年以下トス
死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ附加ス可キ公權剝奪ハ當然無期
トス
十年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ附加ス可キ公權剝奪ハ無期又ハ
有期トシ十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ附加ス可キ公權剝奪ハ十年以
下トス
有期ノ懲役又ハ禁錮ニ有期公權剝奪ヲ附加セラレタル者ハ裁判確
定ノ日ヨリ其懲役又ハ禁錮ノ滿限若クハ其執行ノ免除ニ至ルマテ
當然公權ヲ剝奪セラレタルモノトス
(理由) 本條第一項ハ公權剝奪ノ期限ヲ定ム抑現行法ハ公權剝奪ハ之ヲ身終トシ重罪

ノ刑ニ處セラレタル者ニハ必ラス之ヲ科スコトト爲シタルカ爲メ必要ナキ場合ニ在テモ尙ホ之ヲ科スルニ至リ現時其弊ニ堪ヘス修正案ハ之ヲ改メ公權剝奪ハ必ラスシモ常ニ之ヲ科スルコトヲ要セス必要ナル場合ニハ之ヲ科スコトヲ得ルコトト爲シ且其場合ヲ減少シ之ヲ各本條ニ規定シ又必ラスシモ終身刑トスルノ必要ナキヲ以テ新ニ有期ノ公權剝奪ヲ設ケ其期限ハ一年以上十五年以下ト定メタリ而シテ短期ヲ一年ト爲セルハ本刑ハ甚ダ短キニ過クレハ殆ト其效果ナキニ至ルヲ以テナリ

第二項ハ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ト共ニ言渡ス可キ公權剝奪ノ期限ハ別ニ宣告ヲ用ヒス常ニ無期ナルコトヲ定メタルモノニシテ本刑カ死刑又ハ無期刑ナルヲ以テ附加ノ公權剝奪モ亦從テ無期トナシタルナリ

第三項ハ本刑タル懲役若クハ禁錮ノ期限ニ從ヒ附加刑タル公權剝奪ニモ亦其期限ヲ定メタルナリ

第四項ハ現行法ノ公權停止ト其結果ヲ同シクスル規定ニシテ公權剝奪ヲ附加セラレタル者ハ本刑タル懲役若クハ禁錮ノ執行中ハ當然公權ヲ剝奪スルノ主旨ヲ明ニス此規定

附則第二十七條

監視ニ付セラレタル者ハ其期限守ル可シ
一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ
官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾
病又ハ已ムコトヲ得サル事
故アリテ警察所ニ到ルコト
能ハサル時ハ
其事由ヲ屈出
ツ可シ
二 酒宴遊興ノ席
ニ會シ又ハ群
集ノ場所ニ參

アルニ非サレハ修正案第二十八條第三項ニ在ル如ク公權剝奪ハ本刑タル懲役若クハ禁錮ノ滿限若クハ其執行免除ノ翌日ヨリ起算スルヲ以テ本刑執行中ハ公權ヲ行使スルコトヲ得ルコトトナリ其目的ヲ達スルコトヲ得サルニ至ルヲ以テナリ

第二十二條 監視ハ左ノ效果ヲ生ス

- 一 犯罪ノ地及ヒ被害者所在地ノ警察官廳ハ被監視人ニ對シ其管轄地ノ全部又ハ一部ニ住居シ又ハ立入ルヲ禁スルコトヲ得
- 二 必要ナル場合ニ於テハ警察官ハ何時ニテモ被監視人ノ住居ニ就キ搜索及ヒ物件差押ヲ爲スコトヲ得

(理由) 本條ハ監視ノ效果ヲ規定ス修正案ハ大ニ現行法ニ修正ヲ加ヘタリ抑監視ノ目的タルヤ被監視人ノ操作ヲ監視シ主トシテ其再犯ヲ防遏スルニ在ルヲ以テ現行法ハ刑法附則ニ於テ監視ノ規則ヲ定メ被監視人ヲシテ四箇ノ條件ヲ遵守セシメ其他極テ繁雜ナル規定ヲ置キ之カ自由ヲ制限シ若シ之ニ違背シタルトキハ刑法ニ於テ處罰スルコトトナセリ然ルニ此等ノ繁雜ナル規定ノ結果トシテ監視規則ニ違反スルモノ甚ダ多ク之

會スルコトヲ
 許サス
 三 事故アリテ其
 住居ヲ轉移セ
 シトスル時ハ
 警察所ニ申請
 シ許可ヲ受ク
 四 擅ニ他ノ地方
 ニ旅行スルコ
 トヲ許サス若
 シ已ムコトヲ
 得サル事故ア
 ル時ハ其事由
 ヲ警察所ニ具
 申シ許可ヲ受
 ク可シ

第二十三條 監視ノ期間ハ六月以上二年以下トス

カ爲メニ徒ラニ犯罪人ヲ増加シ却テ監視ノ目的ニモ違背スルノ結果ヲ生シ現時殆ト其弊ニ堪ヘス修正案ハ之ヲ救ハント欲シ被監視人ニ義務ヲ負擔セシムルコトナク専ラ警察官廳ヲシテ主動的ニ監視ヲ執行セシメ其目的ヲ達セント欲ス乃チ本條第一號ハ犯罪地及ヒ被害者所在地ノ警察官廳ハ被監視人ニ對シテ其管轄地ノ一部又ハ全部ニ住居シ又ハ立入ルヲ禁スルコトヲ得セシメ之ヲ以テ被監視人ヲシテ同一ノ地ニ於テ又ハ同一ノ被害者ニ對シテ再犯ヲ行フコトヲ防止シ第二號ハ刑法附則第二十八條ノ規定ニ少シク修正ヲ施シ必要ナル場合ニハ警察官ハ何時ニテモ被監視人ノ住居ニ就キ搜索及ヒ物件ノ差押ヲ爲シ得ルコトトシ亦再犯ニ付テノ搜索ヲ容易ナラシムルコトト爲シタリ

(理由) 現行法ハ監視ノ期間ヲ六月以上五年以下トセリ然レトモ監視ハ主トシテ再犯ノ防遏ヲ目的ト爲スモノナルヲ以テ放免後尤モ再犯シ易キ時期ノミ監視ヲ執行スレハ足ル之ヲ實驗ニ徵スルニ再犯ハ初犯ノ刑ノ執行後久シカラサル時期ニ於テ多ク生スルモノナルニ依リ修正案ハ現行法ノ五年ヲ短縮シ適宜ノ期間ヲ計リ之ヲ二年トナシタリ

第三十九條 死刑
 及ヒ無期刑
 期滿免除ヲ得
 ル者ハ別ニ宣
 告
 監視ニ付ス

第二十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スル場合ニ於テ監視ヲ附加ス

但監視モ亦短キニ失スルトキハ其效果ナキニ至ルヲ以テ短期ヲ定メ執行法ト同シク之ヲ六月ト爲シタリ

ルコトヲ得ヘキ罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者特赦又ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ有期ノ懲役若クハ禁錮ニ減輕セラレタル場合ニ於テ其併合罪中監視ヲ附加スルコトヲ得ヘキ罪アルトキ亦同シ

(理由) 本條ハ現行法第三十九條ニ少シク修正ヲ加ヘタル規定ナリ現行法ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニハ必ラス監視ヲ科シ又輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ付テモ之ヲ科

スル場合多キニ過キ隨テ監視規則ニ違反スル者頗ル夥シキニ至リタルヲ以テ修正案ハ監視ハ必シモ常ニ之ヲ科スコトヲ要セス必要ナル場合ニハ之ヲ科スコトヲ得ルコトト爲シ其場合ヲ減少シ之ヲ各本條ニ規定スルコトナセリ又現行法第三十九條ニハ死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付スルコトヲ規定スレトモ修正案ハ之ヲ改メ各本條ニ於テ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スル場合ニ於テ監視ヲ附加スルコトヲ得可キ罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者特赦又ハ時効ニ因リ其執行ヲ免除セラレ又ハ減刑セラレタルトキハ別ニ宣告ヲ用ヒス二年間監視ヲ科スルコトト爲シタルナリ

本條第二項ハ併合罪ニ付キ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ特赦又ハ時効ニ因リ執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ有期ノ懲役若クハ禁錮ニ減輕セラレタル場合ニ其併合罪中一罪又ハ數罪ニ監視ヲ附加スルコトヲ得ヘキ罪アリタルトキハ前項ト同シク別ニ宣告ヲ要セスシテ當然二年間監視ヲ附加セラレタルモノトスルノ規定ナリ

第四十三條

左ニ記載シタル物件ハ宣告シタル法律ニ依リ没收スルコトヲ得
 一 法律ニ於テ禁錮ノ刑ヲ科スル罪ニ因リ得タル物件
 二 犯罪ノ物件
 三 犯罪ノ原因タル物件
 四 犯罪ノ場所タル物件
 五 犯罪ノ工具タル物件
 六 犯罪ノ標識タル物件
 七 犯罪ノ標識タル物件
 八 犯罪ノ標識タル物件
 九 犯罪ノ標識タル物件
 十 犯罪ノ標識タル物件
 十一 犯罪ノ標識タル物件
 十二 犯罪ノ標識タル物件
 十三 犯罪ノ標識タル物件
 十四 犯罪ノ標識タル物件
 十五 犯罪ノ標識タル物件
 十六 犯罪ノ標識タル物件
 十七 犯罪ノ標識タル物件
 十八 犯罪ノ標識タル物件
 十九 犯罪ノ標識タル物件
 二十 犯罪ノ標識タル物件
 二十一 犯罪ノ標識タル物件
 二十二 犯罪ノ標識タル物件
 二十三 犯罪ノ標識タル物件
 二十四 犯罪ノ標識タル物件
 二十五 犯罪ノ標識タル物件
 二十六 犯罪ノ標識タル物件
 二十七 犯罪ノ標識タル物件
 二十八 犯罪ノ標識タル物件
 二十九 犯罪ノ標識タル物件
 三十 犯罪ノ標識タル物件
 三十一 犯罪ノ標識タル物件
 三十二 犯罪ノ標識タル物件
 三十三 犯罪ノ標識タル物件
 三十四 犯罪ノ標識タル物件
 三十五 犯罪ノ標識タル物件
 三十六 犯罪ノ標識タル物件
 三十七 犯罪ノ標識タル物件
 三十八 犯罪ノ標識タル物件
 三十九 犯罪ノ標識タル物件
 四十 犯罪ノ標識タル物件
 四十一 犯罪ノ標識タル物件
 四十二 犯罪ノ標識タル物件
 四十三 犯罪ノ標識タル物件
 四十四 犯罪ノ標識タル物件
 四十五 犯罪ノ標識タル物件
 四十六 犯罪ノ標識タル物件
 四十七 犯罪ノ標識タル物件
 四十八 犯罪ノ標識タル物件
 四十九 犯罪ノ標識タル物件
 五十 犯罪ノ標識タル物件
 五十一 犯罪ノ標識タル物件
 五十二 犯罪ノ標識タル物件
 五十三 犯罪ノ標識タル物件
 五十四 犯罪ノ標識タル物件
 五十五 犯罪ノ標識タル物件
 五十六 犯罪ノ標識タル物件
 五十七 犯罪ノ標識タル物件
 五十八 犯罪ノ標識タル物件
 五十九 犯罪ノ標識タル物件
 六十 犯罪ノ標識タル物件
 六十一 犯罪ノ標識タル物件
 六十二 犯罪ノ標識タル物件
 六十三 犯罪ノ標識タル物件
 六十四 犯罪ノ標識タル物件
 六十五 犯罪ノ標識タル物件
 六十六 犯罪ノ標識タル物件
 六十七 犯罪ノ標識タル物件
 六十八 犯罪ノ標識タル物件
 六十九 犯罪ノ標識タル物件
 七十 犯罪ノ標識タル物件
 七十一 犯罪ノ標識タル物件
 七十二 犯罪ノ標識タル物件
 七十三 犯罪ノ標識タル物件
 七十四 犯罪ノ標識タル物件
 七十五 犯罪ノ標識タル物件
 七十六 犯罪ノ標識タル物件
 七十七 犯罪ノ標識タル物件
 七十八 犯罪ノ標識タル物件
 七十九 犯罪ノ標識タル物件
 八十 犯罪ノ標識タル物件
 八十一 犯罪ノ標識タル物件
 八十二 犯罪ノ標識タル物件
 八十三 犯罪ノ標識タル物件
 八十四 犯罪ノ標識タル物件
 八十五 犯罪ノ標識タル物件
 八十六 犯罪ノ標識タル物件
 八十七 犯罪ノ標識タル物件
 八十八 犯罪ノ標識タル物件
 八十九 犯罪ノ標識タル物件
 九十 犯罪ノ標識タル物件
 九十一 犯罪ノ標識タル物件
 九十二 犯罪ノ標識タル物件
 九十三 犯罪ノ標識タル物件
 九十四 犯罪ノ標識タル物件
 九十五 犯罪ノ標識タル物件
 九十六 犯罪ノ標識タル物件
 九十七 犯罪ノ標識タル物件
 九十八 犯罪ノ標識タル物件
 九十九 犯罪ノ標識タル物件
 一百 犯罪ノ標識タル物件

第二十五條

法律ニ於テ所有ヲ禁シタル物件ハ之ヲ沒收ス
 左ニ記載シタル物件ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一 犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタル物件
- 二 犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物件

物件ノ沒收ハ其物件犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

(理由) 本條第一項ハ現行法第四十三條第一號及ヒ同第四十四條前段ノ規定ヲ合セタルモノナリ現行法ニ於テハ單ニ法律ニ於テ禁制シタル物件トアリテ其物件ノ所有ヲ禁ズルモノナリヤ否ヤヲ明示セサルカ爲メ往々疑義ニ涉ルコトアリ此ヲ以テ修正案ハ明ニ法律ニ於テ所有ヲ禁シタル物件ト規定セリ又現行法ニハ何人ノ所有ヲ問ハズトアルカ爲メ其意義廣キニ過キ所有者明了ナラサル場合ニ於テモ尙ホ沒收例ヲ適用ス可キモノナリトノ解釋ヲ生シ當事者ナクシテ刑事訴訟ヲ爲スモノナリヤノ疑ヲ生スルヲ以テ修正案ハ犯人以外ノ者ニ屬スル禁制物件ノ沒收ニ關スル規定ハ之ヲ刑事訴訟法中ニ設クルコトトシ刑法ニ於テハ只犯人ニ屬スル禁制物件ヲ沒收スル趣意ニテ現行法ヲ改メ

タリ

本條第二項及第三項ハ現行法第四十三條第二號、第三號及ヒ同第四十四條後段ノ規定ヲ合シ之ニ補修ヲ施シタルモノニシテ其主ナル點ヲ擧ケレハ修正案ハ本條ノ場合ノ物件ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ト規定シ若シ必要ナキトキハ之ヲ沒收セサルコトト爲セリ是レ或ハ沒收ノ價值ナキモノヲモ沒收シ却テ無用ノ手數ヲ増スコトアレハナリ次ニ現行法ハ物件カ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有者ナキ時ニ限り沒收スト規定スレトモ修正案ハ其物件カ犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ルト改メタリ乃チ被害者又ハ第三者ニ屬スル場合ヲ除キ犯人ニ屬スル場合ニハ其犯人カ被告人トナラサルトキト雖モ若シ其共犯カ被告人トナリ其事件ニ付キ裁判ス可キ場合ニモ沒收例ヲ適用シ得ルコトトシタリ次ニ又沒收物件ヲ改メ第一號ニハ現行法ニ犯罪ノ用ニ供シタル物件ト云フヲ改メ犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物件トナシ以テ犯罪ノ行爲ニ供シタルモノ及ヒ之ニ供セントシタル物ノ二者ヲ包含セシメ一方ニハ沒收物ノ意義ヲ明ニシ一方ニハ其範圍ヲ廣クシ犯罪ノ準備ニ屬スル物件ヲモ沒收シ得ルコトトナシ第二號ニハ現行法ノ犯罪ニ

四四

因リ得タル物件ト云フヲ改メ犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因テ得タル物件トナシテ以テ沒收物ノ意義ヲ充分明瞭ナラシメタリ

第二十六條 輕罪ノ刑ニ付テハ別段ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ附加スルコトヲ得ス但前條第一項ニ記載シタル物件ハ此限ニ在ラヌ
(理由) 本條ハ輕罪ハ輕微ナル犯罪ナルヲ以テ常ニ沒收例ヲ適用スルノ必要ナキヲ以テ別段ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ附加セサルノ主旨ナリ唯法律ニ於テ所有ヲ禁シタル物件ノ沒收ハ犯罪ト直接ノ關係ヲ有スルモノニアラサルヲ以テ例外トシテ常ニ沒收スルモノトセリ

四五

第二節 期間計算

第四十九條 刑期

ヲ計算スルニ一
日ト稱スルハ二
十四時間ヲ以テ
シ一月ト稱スル
ハ三十日ヲ以テ
シ一年ト稱スル
ハ曆ニ從フ
第五十一條 刑期
ハ刑名宣告ノ日
ヨリ起算スヘシ
ト訴ヲ爲シタル
者ハ左ノ例ニ從
フ
一犯人自ラ上訴
シテ其上訴正
當ナル時ハ前
判宣告ノ日ヨ
リ起算ス若シ
其上訴不當ナ
ル時ハ後判宣
告ノ日ヨリ起
算ス

(理由) 本條ハ現行法第一編第二章第五節ト同シク刑期ノ計算法ニ關スル規定ナリ

第二十七條 期間ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

(理由) 本條ハ現行法第四十九條第一項ト同一ノ規定ナリ

第二十八條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレタル日數ハ裁判確定後ト雖モ懲役、禁錮又ハ拘留ノ刑期ニ算入セス

有期ノ懲役又ハ禁錮ニ附加セラレタル有期公權剝奪及ヒ監視ノ期間ハ其懲役又ハ禁錮ノ滿限若クハ其執行免除ノ翌日ヨリ起算ス
死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ノ執行免除ヲ得タル者ノ監視ノ期間ハ其免除ノ翌日ヨリ起算シ減刑ニ因リ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ減輕セラレタル者ノ監視ノ期間ニ

二檢察官ノ上訴

ニ係ル者ハ其
上訴正當ナル
ト否トヲ分テ
ス前判宣告ノ
日ヨリ起算ス
三上訴中保釋ヲ
得又ハ責付ヒ
ラレタル者ハ
其日數ヲ刑期
ニ算入スルコ
トヲ得ス
第五十二條 刑期
限内逃走シ再
捕ニ就キタル者
ハ其逃走ノ日數
ヲ除キ前後受刑
ノ日ヲ計算ス

付テハ前項ノ例ニ依ル

(理由) 本條ハ現行法第五十一條ニ相當スル規定ナリ現行法ハ其第五十條ニ於テ裁判ハ確定後ニ非サレハ執行セサルコトヲ規定シ第五十一條ニ於テ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スルコトヲ特ニ上訴ノ場合ニ關シ詳細ノ規定ヲ設ケタリ然ルニ第五十條ノ如キ規定ハ殆ント當然ノ事理ニシテ別段ニ明文ヲ要セサルヲ以テ之ヲ删除シ修正案ハ第一項ニ於テ刑期ノ起算日ヲ改メ裁判確定ノ日ヨリスルコトヲナセリ是レ一方ニハ裁判確定後ニ非サレハ執行セサルコトヲ示シ他ノ一方ニハ上訴ニ由テ以テ萬一ノ僥倖ヲ射ントスルノ弊ヲ防遏セントスルモノナリ抑現行法ニヨレハ檢事カ上訴スルトキハ常ニ刑期ハ前判宣告ノ日ヨリ起算シ被告カ上訴シテ其上訴正當ナルトキモ亦前判宣告ノ日ヨリ起算スルコトト定メラルルヲ以テ縱令檢事カ上訴シテ前判決ハ不當トナルモ被告カ却テ之カ爲メニ未決勾留ノ期間延長シ不當ノ利益ヲ受クルコトナリ又被告人ノ上訴シタル場合ニ於テモ僅ガニ手續ニ於テ小瑕瑾アルカ爲メニ其上訴正當トナリ其間ニ受ケタル未決勾留ノ期間ハ時トシテハ刑期ヨリ長キコトアリテ被告ハ刑ノ宣告ヲ

受クルモ全ク其執行ヲ免カルコトアリ或ハ少クモ未決勾留ノ日數ヲ刑期ニ算入スルカ爲メニ大ニ其執行ノ日數ヲ減殺セラレ從テ不當ノ利益ヲ受クルニ至ルヲ以テ現時ニ在テハ被告人ノ上訴ハ其數甚々多ク僥倖ヲ萬一二期シ以テ苦役ヲ免カレントスル弊ヲ生ス故ニ之ヲ矯正センニハ刑期ハ必ス裁判確定ノ日ヨリ起算スト爲スヲ以テ適當ナリトス

第二項ハ現行法第五十二條ト同主旨ノ規定ナリ

第三項ハ公權剝奪及ヒ監視ノ起算日ノ規定ニシテ監視及ヒ無期公權剝奪ニ付テハ殆ント現行法ト同一ナレトモ修正案ハ新ニ有期ノ公權剝奪ヲ設ケタルヲ以テ其起算日ニ付キ新ニ規定ヲ設ケタリ

第四項ハ現行法ニ於テ稍不明ナル所ヲ規定シタルモノニシテ之ニ依リテ監視ノ起算點ヲ定ム可キモノトス

第二十九條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時
效期間ノ初日亦同シ

第四十九條二項受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セズ

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

(理由) 本條ハ現行法第四十九條第二項ヲ修正シ且時效期間ノ初日ノ計算ニ關スル規定ヲ新設セルモノナリ現行法ニハ放免ノ日ハ刑期ニ算入セストアルヲ修正案ニハ放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フト爲シタルハ現行法ニ於テ放免ハ刑期滿限ノ翌日午前ニ於テ之ヲ行フト規定シタル爲メ實際上不便多ク之ヲ午前ニ限ルノ必要ナケレハナリ

第三十條 未決勾留ノ日數ハ左ノ區別ニ從ヒ本刑ニ算入ス

但本刑ノ一日又ハ一圓ニ當ラサル勾留日數ハ之ヲ除去ス

一 懲役一日ニ付勾留六日

二 禁錮、拘留一日ニ付キ勾留三日

三 罰金、科料一圓ニ付キ勾留二日但一圓以下ト雖モ亦同シ

(理由) 修正案ハ刑期ノ起算日ヲ以テ裁判確定ノ日ト爲シタルヲ以テ新ニ本條ノ規定ヲ設ケタルナリ凡ソ刑事訴訟ノ審理中被告人ノ勾留ヲ要スル場合極メテ多シ稍重大ナ

ル事件ニ在テハ審理ノ日數久シキニ彌ルカ爲メ未決勾留ノ日數亦長ク時ニ數年ニ涉ルコトアリテ被告人ノ不幸實ニ名狀ス可カラサルモノアリ今此不幸ヲ避クルニ付キ其方法ニ様アリ第一ハ裁判所ヲシテ適宜ニ未決勾留ノ日數ノ全部又ハ一部ヲ刑期ニ算入セシムルニアレトモ手續上ノ不便尠ナシトセハ修正案ハ第二ノ主義ヲ採リ未決勾留ノ日數ヲ以テ刑ノ種類ニ應シテ必ラス之ヲ本刑ニ算入スルコトト爲シタリ

第三節 刑ノ執行ノ猶豫及ヒ免除

(理由) 刑ノ執行ノ猶豫ハ晚近ノ制度ニシテ全ク新設ノ規定ナリ其趣旨ノ概要ヲ擧グレハ左ノ如シ

刑法ノ目的ハ犯罪ヲ防遏スルニ在リ然レトモ犯罪必罰ハ未ダ必ラスシモ防遏ノ目的ヲ達ス可キモノニ非ス蓋シ犯人ノ種類ハ千態萬狀ニシテ盡ク極惡人ヲ以テ目ス可カラサルモノアリ或ハ一時ノ感情ニ制セラレテ罪ヲ犯スニ至ル者アリ或ハ社會ノ境遇ニ驅ラレテ罪辟ニ陷イル者アリ凡ソ此等ノ犯人ハ一旦法律ノ罪人ト爲ルト雖モ再ヒ善良ノ民タルコトヲ得ヘカラサル者ニ非サルナリ然ルニ刑法ハ常ニ之ヲ罰シテ假借スル所ナク惡人ト共ニ牢獄ニ投シテ願ミル所ナキトキハ則チ良民モ亦惡人ノ爲メニ犯罪ノ教授ヲ受ケテ而シテ忽チ不良ノ性ヲ養成スルニ至ル特ニ短期ノ自由刑ニ至リテハ懲戒ノ目的ヲ達スルコト甚ダ困難ニシテ而シテ却テ獄中ノ惡風ニ感染スルコト至テ容易ナリ牢獄ニ出入シタルカ爲メニ不可治ノ犯人ト爲リタル者殆ト其幾千ナルヲ知ラサルナリ是レ實ニ短期刑ノ通弊ナリ此通弊ヲ除クニハ短期刑ニ處セラレタル者ヲシテ牢獄ニ投スル

コトナクシテ而シテ懲戒ノ目的ヲ達スルノ方法ヲ講スルニ如クハナシ其方法ハ則チ刑ノ執行ノ猶豫ニアリ此方法ニ因レハ一方ニ於テハ犯人ヲ罰シテ而シテ恕スル所ナキヲ以テ犯罪必罰ノ趣旨ニ背カス他ノ一方ニ於テハ其刑ノ執行ヲ猶豫シテ犯人ヲシテ善行ニ遷ラシムルヲ以テ犯罪防遏ノ目的ヲ達スルニ足ル是レ修正案ニ於テ新ニ本節ノ規定ヲ設クルニ至リタル理由ナリ

刑ノ執行ノ免除ノ規定ハ現行法第一編第二章第六節假出獄ノ規定ヲ補修シタルモノナリ

第三十一條 左ニ記載シタル者一年以下ノ禁錮又ハ六月以下ノ懲役ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ二年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

- 一 前ニ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
- 二 前ニ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ十年以上罰金以外ノ

重罪ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

(理由) 本條ハ一年以下ノ禁錮又ハ六月以下ノ懲役ノ言渡ヲ受ケタル者本條二號ノ一ニ該當スルトキハ情狀ニ因リ其刑ノ執行ヲ猶豫スル規定ニシテ犯人カ裁判確定後二年以上五年以下ノ期間内更ニ罰金以外ノ重罪ヲ犯ササルコトヲ以テ其條件ト爲スモノナリ

本條ニ於テ禁錮又ハ懲役ニ付テハ執行ヲ猶豫シ寧ロ之ニ比シテ輕キ罰金ニ付キ此制度ヲ設ケサリシハ罰金ヲ言渡サレタル者ハ監獄ニ出入スルコト無キヲ以テ監獄ニ於テ犯罪ノ性ヲ養成スルノ虞無ク從テ之カ爲メ自暴自棄ノ念ヲ發シ遂ニ刑ノ目的ニ反スルカ如キ結果ヲ胚胎スルノ憂ナキヲ以テナリ

本條第一號ハ犯人ノ身上ニ關スル條件ニシテ前ニ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者ニ非サレハ此恩典ヲ與ヘサル主旨ナリ

第二號ハ前號ノ例外ニシテ縱令前ニ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレシ者ト雖モ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ十年以上更ニ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレ

タルコトナキ者ハ前號ト同シク此恩典ヲ與フルモノニシテ必竟十年以上ノ長キ期間其素行ヲ慎ミタル者ハ最初ヨリ罪ヲ犯ササル者ト同一視ス可キノ價値アリト認メダレハナリ

第三十二條 公權剝奪又ハ監視ヲ附加セラレタル者ニハ前條ノ規定ヲ適用セズ

(理由) 本條ハ前條ノ例外ニシテ縱令前條ノ適用ヲ受クルコトヲ得可キ犯人ナリト雖モ主刑ニ公權剝奪又ハ監視ヲ附加セラレタルモノハ前條ノ規定ヲ適用セサルモノトナセリ此公權剝奪又ハ監視ハ各本條中犯罪ノ性質ノ危險ナルモノニ附加スルヲ通常トスルヲ以テ之ヲ附加セラレタル犯人ノ如キハ之ニ猶豫ヲ與フルノ却テ害アル可キヲ恐ルレハナリ

第三十三條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ但第三十一條第二號ニ記載シタル者ニ付テハ此限ニ在ラス

一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

(理由) 本條ハ執行猶豫ノ取消ノ規定ニシテ

一 猶豫ノ期間内更ニ罰金以外ノ刑ニ該ル可キ重罪ヲ犯シ

二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル罪ニ付キ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレ

三 第三十一條第一號ノ規定ニ觸ルルトキ乃チ猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ罰金以外ノ

重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルコト發覺シタルトキ但第三十一條第二號ノ場合ハ之ヲ除外スルモイトス

以上三箇原由ノ其一ニ該當スル場合ニハ裁判所ハ猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キモノナリ此

等ノ事情アル犯人ニ對シテハ其刑ノ執行ヲ猶豫ス可キ必要ナク直ニ本刑ヲ執行スルヲ相當トスレハナリ

第二十四條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコト無クシテ猶豫ノ

期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ當然其效力ヲ失フ

(理由) 本條ハ刑ノ執行ノ猶豫ノ效力ヲ規定シタルモノナリ乃チ刑ノ執行猶豫ノ期間

内其言渡ヲ取消サルルコトナクシテ之ヲ經過シタルトキハ其刑ノ言渡ノ效力ハ當然消

滅スルモノトス是レ本制度ノ最モ主要ナル點ニシテ之ニ因リ一旦不幸ニシテ犯罪者ト

ナルモ其後一定ノ期間謹慎ノ狀況ニ在ルトキハ法律ハ之ヲ以テ全ク改悛シタルモノト

シテ其罪ヲ問ハス從テ犯人モ犯罪者タルノ汚名ヲ免レ純白ノ人ヲ以テ世ニ處スルコト

ヲ得ルモノナリ

第二十五條 禁錮又ハ懲役ニ處セラレタル者更ニ重罪ヲ犯ス虞ナキ

トキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分一ノ無期刑ニ付テハ十年ヲ經過

シタル後行政處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

第五十三條 重罪

輕罪ノ刑ニ處セ
ラレタル者獄則
ヲ遵守シ檢改ノ
狀アル時ハ其刑
期四分ノ三ヲ經

過スルノ後行政

ノ處分ヲ分テ假

ニ出獄ヲ許スコ

トヲ得

無期徒刑ノ囚ハ

十五年ヲ經過ス

ルノ後亦同シ

流刑ノ囚ハ第二

十一條ニ照シ幽

閉ヲ免スルノ外

假出獄ノ例ヲ用

ヒス

第五十六條 假出

獄中更ニ重罪輕
罪ヲ犯シタル者
ハ直チニ出獄ヲ
停止シテ獄中ノ
日數ハ刑期ニ算
入スルコトヲ得

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコ

トヲ得

一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ重罪ノ刑ニ處セラレタルト
キ

三 假出獄前他ノ罪ニ付キ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑

ノ執行ヲ爲ス可キトキ

四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

(理由) 本條ハ現行法第五十六條ヲ修正シタル規定ニシテ現行法ハ假出獄ノ取消ノ條件ヲ更ニ重罪、輕罪ヲ犯スノ一ニ止ムト雖モ修正案ハ尙ホ他ノ條件ヲ増加シタリ但出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサルコトハ現行法ト全ク同一ナリ

第一號ハ現行法ノ條件ト同一ノ主旨ナリ

第二號ハ第三十三條第二號ノ條件ト同一ノ主旨ニ基キタル規定ニシテ第一號ニ於テ出獄中重罪ヲ犯シタル者ニハ假出獄ヲ取消スヲ以テ假出獄前重罪ヲ犯シタル者モ亦之ヲ取消スノ必要アルナリ

第三號ハ假出獄前他ノ罪ニ付キ重罪ニ處セラレ其刑ヲ執行ス可キトキハ後ノ刑ニ付キ假出獄ヲ許スハ事理ノ許ササル所ナルヲ以テナリ

第四號ハ本案ハ別ニ假出獄取締規則ノ制定ヲ豫期スルヲ以テ之ニ違背シタル場合、規

定ヲ設ケタルナリ

第三十七條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政處

分ヲ以テ其執行ヲ免除スルコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦

同シ

(理由) 本條モ亦新ニ設ケタル制度ニシテ本節ニ於テ既ニ禁錮及ヒ懲役ニ執行ノ猶豫ヲ與フルヲ以テ比較上之ヨリ輕キ拘留ニモ亦一種ノ恩典ヲ與フルコト事理ノ當然ナリ此ヲ以テ第一項ニ於テハ執行猶豫ノ如キ複雑ナル規定ニ依ラス一々情狀ニ因リ行政處分ヲ以テ其執行ヲ免除スルヲ得ルコトト爲シタルナリ

第二項モ同一ノ理由ニ基キタル規定ニシテ罰金又ハ科料ヲ完納シ得サルカ爲メ留置セラレタル者ハ其情狀自由刑執行ノ場合ヨリモ一層輕キヲ以テ亦行政處分ヲ以テ之ヲ免除スルヲ得ルコトト爲シタルナリ

第五十八條 執行ヲ適シタル者ハ法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ期間滿免除ヲ得

第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期間免除ヲ得
一 死刑ハ三十年
二 無期徒刑ハ二十五年

第四節 時 效

(理由) 本節ハ現行法第一編第二章第七節ノ規定ニ相當ス現行法ニ用ヒタル期間免除ノ語ヲ改メテ時効ト爲シタルハ意義ニ於テ異ナル所アルニ非ス唯時効ノ語ハ民法其他ニ於テ普通ニ用ヒラルルヲ以テナリ

第三十八條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留、科料及ヒ沒收ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ執行ノ免除ヲ得

(理由) 本條ハ現行法第五十八條ト同一趣旨ノ規定ナリ唯其異ナル所ハ時効ニ因リ執行ノ免除ヲ得ル刑ノ種目ヲ列舉シタルニ在リ隨テ之ニ掲ケサル公權剝奪及ヒ監視ハ時効ヲ得サルコト明了ナルカ故ニ現行法第六十條第一項ノ如キ規定ヲ設クル必要ナキニ至レリ

第三十九條 時効ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケ

- 一 死刑ハ三十年
- 二 無期徒刑ハ二十年
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未滿ハ五年
- 四 罰金ハ三年
- 五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

三 有期徒流刑ハ二十年
四 重懲役重禁獄ハ五年
五 輕懲役輕禁獄ハ十年
六 禁錮罰金ハ七年
七 拘留科料ハ一年

(理由) 本條ハ現行法第五十九條ニ少シク修正ヲ加ヘタル規定ニシテ第一號ハ現行法ト全ク同一ナリ第二號ハ現行法ヨリ稍短縮シ第三號ハ修正案ニ於テ自由刑ノ刑期ノ範圍ヲ廣クナシタル結果ヨリ生スル當然ノ規定ニシテ其期限モ適宜ニ參酌シ現行法ト大差ナシ第四號ニハ罰金ノ時効ノ期間ヲ三年トセリ是レ現行法ノ七年ハ長キニ失スルヲ以テナリ第五號ハ拘留、科料ニ付キテハ現行法ト全ク同一ナリ沒收ニ付キテハ現行法ノ五年ハ長キニ失スルヲ以テ短縮シテ一年トナシタリ

第四十條 時効ノ期間ハ法律ニ依リ刑ノ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ經過スルコトナシ

(理由) 時効ハ不法ニ刑ノ執行ヲ免レタル者ノ爲メニ之ヲ設クルモノナレハ正當ニ其執行ヲ免レタル日數ハ之ヲ時効期間ニ計算スルコトヲ得ス故ニ刑ノ執行猶豫若クハ其停止又ハ假出獄中ノ日數ハ之ヲ時効ノ期間ニ算入セサルコトトナシタルナリ

第四十一條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時効ハ執行行爲ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス
(理由) 本條ハ刑ノ時効ノ中斷ノ規定ニシテ第一項ハ現行法ト同シク刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルトキハ之ヲ以テ中斷ノ原因トナセリ然ルニ現行法ハ此外尙ホ檢事ヨリ逮捕令狀ヲ發スルコトヲ以テ中斷ノ原因ト爲スト雖モ其理由ニ乏シク却テ或ハ公平ノ結果ヲ生シ或ハ到底時効期間ノ到來スルコトナク全ク時効ヲ設ケタル主旨ニ戾ルノ虞アルヲ以テ修正案ハ之ヲ删除セリ

本條第二項ハ罰金、科料及ヒ沒收乃チ財産ヲ徵收ス可キ刑ノ時効ノ中斷方法ニシテ此等ノ刑ハ若シ其全數ヲ分チ數回ニ分納セシメントセハ未ダ之ヲ完納セサル前既ニ時効

ノ成就スル虞アルヲ以テ本案ハ此等ノ場合ニハ時効ハ刑ノ執行行爲ニ因リ中斷セラレ從テ常ニ最後ノ執行行爲ヨリ進行ヲ始ム可キコトヲ規定シタルモノナリ

第五節 大赦、特赦、減刑及ヒ復權

(理由) 本節ハ現行法第一編第二章第八節ノ規定ヲ補充修正シタルモノトス現行法ハ主トシテ復權ノコトヲ規定シ大赦、特赦ノコトハ唯間接ニ之ヲ規定スルノミ然ルニ憲法ニハ其外尙ホ減刑ノコトアルヲ以テ本節ニ於テ此四者ニ關スル規定ヲ設ケタリ

第四十二條 大赦ハ裁判言渡ノ效力ヲ全減ス

(理由) 本條ハ大赦ノ效力ヲ規定シタルモノナリ現行法ニハ其明文ナシト雖モ法律ノ趣旨ニ至リテハ同一ナリトス

第四十三條 特赦ハ刑ノ執行ヲ免除シ減刑ハ刑ノ執行ヲ減輕ス

(理由) 本條ハ特赦及ヒ減刑ノ效力ノ規定ニシテ特赦ニ付テハ現行法ノ規定ト其主旨ヲ同フス

第四十四條 復權ハ將來ノ公權ヲ復シ當然監視ヲ免除ス

(理由) 本條ハ復權ノ效力ノ規定ニシテ現行法ノ主旨ト全ク異ナル所ナシ

第三章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

(理由) 本章ノ規定ハ現行法第一編第四章中其第三節ヲ除キ之ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ現行法ハ不論罪及ヒ減輕ノ語ヲ以テ事實ノ罪ト爲ラサル場合及ヒ罪トナルモ其刑ヲ免シ若クハ之ヲ減輕スル場合ヲ包含セシメタリ然レトモ其意義明瞭ヲ缺キ往々ニシテ疑義ヲ生シタルコトアルヲ以テ修正案ハ之ヲ改メテ罪トナラサル場合ハ之ヲ犯罪ノ不成立トシ刑ヲ免シ若クハ減輕スル場合ヲ以テ刑ノ減免ト爲シタリ

現行法ハ其第三編第一章第三節ニ於テ殺傷ニ關スル特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ規定ヲ設クト雖モ其正當防衛ニ關スルモノハ總則ニ於テ規定ス可キモノト認メ之ヲ本章ニ移シ其他ハ犯罪ノ情狀ニ過キサルヲ以テ其認定ヲ裁判所ニ一任スルコトトシ此カ規定ヲ刪除シタリ

第四十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス

(理由) 現行法第七十六條ハ本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル行爲ノ責任ヲ論セス

第七十六條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者ハ其罪ヲ論セス

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ムコト

ヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシテ他人ノ爲メニシテ論セズ但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス
第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス
一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時

難ヲ生シタルコトアルヲ以テ修正案ハ一般ニ法令ニ因リ又ハ正當ノ業務ヲ以テ爲シタル行爲ハ罪トナラサルコトヲ明確ニシタリ

第四十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

若シ必要ノ程度ヲ超エタルトキハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
(理由) 本條ハ現行法第三百十四條乃至第三百十六條ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ所謂正當防衛ノ規定ナリ
現行法ヲ修正シタル要旨ヲ擧クレハ

- 一 現行法ハ正當防衛ノ規定ヲ殺傷ニ關スル特別ノ宥恕及ヒ不論罪ト爲シ之ヲ第三編第一章第三節中ニ規定シタリ然レトモ正當防衛ノ方法ハ單ニ殺傷ニ限ル可キモノニ非サルヲ以テ本案ハ之ヲ本章ニ移シ廣ク一般ニ通スル規定ト爲シタリ
- 二 現行法ハ防衛ノ主體ヲ生命、身體、財産等ニ制限シタリト雖モ本案ハ尙其他ノ權利

二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時

三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り門戸牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

第三百十六條 身體財產ヲ防衛スルニ出タル時

已ムコトヲ得サルニ出テ暴行人ニ對シテ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情狀ニ因リ第三

ヲモ保護ス可キモノト認メ廣ク自己又ハ他人ノ權利ノ防衛ニ關スル規定ヲ設ケタリ

- 三 現行法ハ防衛ス可キ侵害ノ程度ニ付キテハ其規定頗ル不充分ニシテ唯第三百十四條但書ニ於テ不正ノ行爲ニ依リ自ラ招キタル暴行ニ非サルコトヲ示スノミナルヲ以テ本案ハ亦此點ヲ明確ニシ侵害ノ急迫ニシテ不正ナルヲ要スルコトヲ規定シ從テ第三百十四條ノ但書ハ其必要ナキヲ以テ之ヲ刪除シタリ

本條第一項ハ現行法第三百十四條及ヒ第三百十五條ヲ合シタルモノニシテ急迫ニシテ不正ナル侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛センカ爲メ爲シタル必要ナル行爲ハ罪トナラナルコトヲ規定シタルモノナリ又第二項ハ現行法第三百十六條ト同一ノ主旨ニ出タル規定ニシテ前項ノ場合ニ於テ防衛ノ行爲其必要ナル程度ヲ超エタルトキハ既ニ正當防衛ニ非サルヲ以テ罪トシテ之ヲ罰スト雖モ其情狀ニシテ斟酌ス可キモノアルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得セシムルモノナリ

第四十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲

百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第七十五條 抵抗ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス
天災又ハ意外ノ變ニヨリ避クヘカラサル危難ニ遭ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出テタル所爲亦同シ

ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セス俱其程度ヲ超エタルトキト雖モ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

(理由) 本條ハ現行法第七十五條ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ其要旨ヲ擧クレハ

一 現行法第七十五條第一項ハ所謂有形ノ自由ヲ喪失シタル場合ノ規定ニシテ若シ自己ノ身體外力ノ爲メニ全ク強制セラレテ爲シタルトキハ是レ外力ノ作用ノ結果ニシテ自己ノ行爲ニ非サルハ明文ヲ俟タサルヲ以テ本案ハ之ヲ刪除シ唯意思ノ上ニ受ケタル外力ノ結果ニ關スル規定ノミヲ設ケタリ

二 現行法ハ防衛ノ主體ヲ唯自己若クハ親屬ノ身體ニ制限スト雖モ本案ハ自己又ハ他人ノ貴重ナル權利タル生命、身體、自由及ヒ財産ハ本條ノ場合ニ於テ之ヲ保護ス可キモノト認メ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ

三 現行法ハ防衛ノ主體ヲ最モ貴重ナル自己又ハ親屬ノ身體ニ限りタルヲ以テ之ヲ防

衛スルニ出タル行爲ハ常ニ罪ト成ラサルコトト爲シタリ是レ身體ノ價值ハ其防衛ノ行爲ヨリモ重大ナルカ故ナリ之ニ反シテ本案ハ防衛ノ主體ヲ擴張シ生命、身體、自由ノ外財産ヲモ加ヘタルヲ以テ縱令此等ノ權利ヲ保護スル現實ノ必要ニ出テタル行爲ナリト雖モ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ヨリモ大ニシテ畢竟保護セントシタル權利ニ比スレハ却テ重大ナル他人ノ權利ヲ害スルコトアル場合ニ於テハ其行爲ヲ罪ト爲ササレハ遂ニ其弊ニ堪ヘサルニ至ル可キヲ以テ本案ハ裁判所ヲシテ法律上保護セラレタル權利トシテ之ヲ防衛スル目的ヲ以テ侵害セラレタル權利トヲ比較シ或ハ全ク其行爲ヲ罪ト爲サス或ハ其行爲ヲ罪トシテ之ヲ罰シ又ハ之ヲ罰スルモ其刑ヲ減輕スルコトト爲シタリ

四 現行法ハ自己ノ權利ヲ保護ス可キ危難ノ程度ヲ天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ト爲スト雖モ斯カル例示的の文字ハ無用ナルヲ以テ之ヲ改メテ現在ノ危難ト爲シ語ヲ簡約ニシテ却テ其意義ヲ明確ナラシメタリ

五 現行法ハ職務上他人ヲ救護ス可キ特別ノ義務アル者ニ關スル規定ヲ闕ケルカ爲メ

第七十七條 罪ヲ犯スル者ハ其ノ罪ノ所
爲ハ其罪ヲ論セシメ
ス但法律規則ニ
於テ別ニ罪ヲ定
メタル者ハ此限
ニ在ラス
罪ヲ爲ル可キ事
實ヲ知ラスシテ
犯シタル者ハ其
罪ヲ論セス

罪本重ナル可ク
シテ犯スル時知
ラサル者ハ其重
キニ從テ論スル
トテ得テ法律規
則ヲ知ラスナル
以テ犯スル意ナ
シト爲スコトヲ
得ス

第七十八條 罪ヲ
犯ス時知覺精神
ノ喪失ニ因テ是
非ヲ辨別セサル
者ハ其罪ヲ論セ
ス

七〇
往往危険ナル場合ヲ生セサルニ非ス是以テ本案ハ本條第二項ニ於テ新ニ之ニ關ス
ル規定ヲ設ケタリ

之ヲ要スルニ本案ハ自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對シ現在ノ危難ヲ
受ケタルトキハ之ヲ避クルカ爲メ爲シタル眞ニ必要ナル行爲ハ罪ト爲ラサルヲ原則
トシ必要ノ程度ヲ超エタル場合ト雖モ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得ル旨ヲ規
定シタルモノニシテ第二項ノ主旨ハ職務上特別ノ義務ヲ負擔セル者ハ本條ノ適用ヲ
受ケサルコトヲ明ニシタルモノナリ

第四十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定
アル場合ハ此限ニ在ラス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ
因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

(理由) 本條ハ現行法第七十七條ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ現行法第七十七條第二
項及ヒ第三項ハ共ニ同條第一項ノ適用ニ過キサルヲ以テ本案ハ其必要ヲ認メス之ヲ刪

除シタリ

本條第一項ハ現行法第七十七條第一項ト全ク同一ノ主旨ヲ規定シタルモノニシテ本案
ニ於テハ原則トシテ罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ罪ト爲ラサルコトヲ定メ唯例外トシテ法律
ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケタルトキハ意ナキ行爲ヲモ罪ト爲スコトヲ明ニシタルモノナ
リ

第二項ハ現行法第七十七條第四項ト同シク法律ヲ知ラスト雖モ是ヲ以テ罪ヲ犯スノ意
ナキモノト爲ササル主旨ニシテ實際上ノ必要ニ基ク規定ナリ然リト雖モ眞ニ法律ヲ知
ラサルカ爲メ不幸ニシテ或ハ罪名ニ觸レ事實憫諒ス可キ者アルヲ以テ本條但書ニ於テ
裁判所ヲシテ其情狀ヲ見テ刑ヲ減輕スルコトヲ得セシメタルモノナリ

第四十九條 精神障礙ニ因ル行爲ハ之ヲ罰セス但情狀ニ因リ監置ノ
處分ヲ命スルコトヲ得

精神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

(理由) 本條第一項ハ現行法第七十八條ノ文字ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ知覺

第八十二條 瘖啞者ハ其罪ヲ論スル時ハ其罪ヲ論セシムルニ過キサル

時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

第七十九條 犯罪ニ滿スル者ハ其罪ヲ論スル時ハ其罪ヲ論セシムルニ過キサル

精神ノ喪失ニ因リ是非ヲ辨別セサル者ノ行爲ニ付キ規定ヲ設クト雖モ其注文ノ意義頗ル不明ニシテ果シテ犯人カ全ク知覺精神ヲ喪失セシヤ否ヤヲ判別スルコトハ醫學上ニ於テモ至難トスル所ニシテ從テ適用上最モ困難ヲ感シタル所ナリ此ヲ以テ本案ハ其主旨ヲ採ルト雖モ其文字ハ全ク之ヲ廢除シ新ニ精神ニ障礙アリテ其障礙ニ基キテ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セサルコトヲ規定シ以テ其意義ヲ明確ニ爲シタリ本項ハ精神ノ障礙ニ原因シテ爲シタル行爲ノ規定ナルヲ以テ犯人ノ平常精神病ニ非サルモ其犯罪ハ當時精神ノ障礙ニ原因セシモノタルコト明白ナルトキハ尙ホ犯罪ノ不成立ヲ見ルナリ
本條但書ノ規定ハ精神病者ノ危險ヲ豫防スルノ趣旨ニ出テタルモノナリ
第二項ハ新ニ設ケタル規定ニシテ前項ノ精神障礙者ヨリ最モ輕キ精神障礙ノ狀況ニ在ル者ノ行爲ニ關スル規定ナリ此場合ニ於テハ犯人ハ無罪者タル可カラスト雖モ多少其行爲ハ之ヲ宥恕ス可キモノト認メ其刑ヲ減輕スルモノナリ
第五十條 瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス但之ヲ罰セサル場合ニ於テハ情狀ニ因リ十年以下ノ期間懲治ノ處分ヲ命スル

コトヲ得

(理由) 本條ハ現行法第八十二條ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ瘖啞者ノ行爲ハ常ニ之ヲ罰セスト雖モ今日ニ在テハ瘖啞者教育ノ方法備ハリ普通ノ智識ヲ得ル便宜アリテ瘖啞者タリト雖モ多少犯罪ノ責任ヲ辨スル者アルヲ以テ此等ノ犯罪者ヲ罰スル必要ナシトセス故ニ本案ハ現行法ノ主義ヲ改メ瘖啞者ノ精神ノ狀況ニ因リ其發達常人ニ近キモノハ之ヲ罰スルモ尙完全ナル人ト謂フヲ得サルカ故ニ一般ニ其刑ヲ減輕シ全ク責任ヲ辨セサルモノハ之ヲ罰セサルコトト爲シタリ而シテ全ク罰セサル者ニ付テハ現行法ト同シク懲治ノ處分ヲ命スルヲ得ルコトト爲シ其期間ハ之ヲ十年以下ト定メ以テ一面瘖啞者ヲ改良センコトヲ期スルモノナリ

第五十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス但滿八歳以上ノ者ノ行爲ニシテ重罪ニ該ルトキハ情狀ニ因リ十年以下ノ期間懲治ノ處分ヲ命スルコトヲ得

(理由) 本條ハ現行法第七十九條ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ責任年齡ヲ十二歳

ヲ減ス但謀殺故
殺ニ係ル者ハ自
首減輕ノ限ニ在
ラス

第八十六條 財産
ニ對スル罪ヲ犯
シタル者自首シ
テ其贓物ヲ還給
シ損害ヲ賠償シ
タル時ハ自首減
等ノ外仍ホ本刑
ニ等ヲ減ス其
全部ヲ還償セス
ト雖モ半數以上
ヲ還償シタル時
ハ一等ヲ減ス
第八十七條 財産
ニ對スル罪ヲ犯
シタル者ハ官ニ
自首スルト同ク
前二條ノ例ニ照
シテ處斷ス

(理由) 本條ハ新ニ設ケタル規定ナリ修正案ハ行政處分トシテ監置及ヒ懲治ノ制ヲ設
ケ精神病者及ヒ幼年者ニシテ再犯ノ危險アル者ヲ防遏、改良センコトヲ期シタリ此ヲ
以テ監置又ハ懲治ニシテ其目的ヲ達スルカ又ハ其他ノ理由ニ因リ其必要ナキニ至レハ
裁判ヲ俟タヌ情狀ニ因リ行政處分ヲ以テ其執行ヲ免除スルコトヲ得ル主旨ナリ

第五十四條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ
減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦
同シ

(理由) 本條第一項ハ現行法第八十五條及ヒ第八十六條ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモ
ノニシテ現行法ハ謀殺、故殺ニ係ル者ヲ除キ自首シタルモノハ必ラス本刑ニ一等ヲ減
シ又財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者ニハ其損害賠償ノ程度ニ因リ減等ノ度ヲ異ニスルノ
規定ヲ設クト雖モ謀殺、故殺ニ係ル者ヲ除外スルノ理由ナシ又自首者ニハ必ラス本刑
ニ一等ヲ減スルカ爲メ始メヨリ自首減等ヲ期シテ罪ヲ犯スノ恐アルノミナラス損害ヲ

賠償スル程度ニ從テ減等ノ度ヲ異ニスルカ如キハ其規定細微ニ過キ弊害ヲ生スルノ危
險アリ此ヲ以テ本案ハ之ヲ改メ罪ノ種類ヲ問ハズ自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコト
ヲ得ルコトト爲シ此等ノ弊ヲ一掃シ且自首本來ノ目的ヲ達セントスルモノナリ
第二項ハ現行法第八十七條ノ主旨ト精神ヲ同フシタル規定ニシテ現行法ハ財産ニ對ス
ル罪ニ限り被害者ニ首服スルコトヲ以テ自首ノ效アリト爲スト雖モ本案ハ之ト異ナリ
告訴ヲ待テ訴追ス可キ罪ニ限ルコトト爲シタルハ親告罪ノ性質上頗ル適當ナル規定ナ
リトス而シテ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者ヲ以テ官ニ自首シタル者ト同一ニ看做
スハ其間ニ差別ヲ設クルノ必要アラサレハナリ

第四章 未遂罪

(理由) 本章ハ現行法第一編第九章ノ規定ヲ修正シタルモノナリ

第五十五條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スル
コトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕スル

第百十二條 罪ヲ

犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖犯人意外ノ障
礙若クハ升錯ニ因リ未ダ遂ケサ
ル者ハ己ニ遂ケタル者ノ刑ニ一
等又ハ二等ヲ減ス

免除ス

(理由) 本條第一項ハ現行法第百十二條ヲ修正シタル規定ニシテ現行法ハ犯罪ノ實行ニ著手シタル後意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リテ之ヲ遂ケサルモノヲ以テ未遂罪トナセリ然レトモ一旦犯罪ノ實行ニ著手シタル後ハ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因ルト否トヲ問ハス凡テ之ヲ遂ケサル場合ヲ以テ未遂罪ト爲ス可キモノナリ修正案ハ此主旨ニ基キ犯罪ヲ遂クルノ目的ヲ以テ之ヲ達スルノ手段ヲ行ヒ始メテ之ヲ遂クルコト能ハサルトキハ其原因如何ヲ問ハス凡テ未遂罪ト爲ス主義ヲ採リ彼ノ現行法ノ解釋上所謂著手未遂若クハ缺效未遂ノ區別ヲ認メヌ又其處分ニ至リテモ必スシモ之ヲ減輕セシテ而シテ一ニ情狀ニ因ルコトト爲セリ是レ未遂罪ハ多クハ其結果タル危害既遂罪ニ比シ多少輕キモノアリト雖モ時トシテハ其犯情ノ怨ス可ラサルモノアルヲ以テ其刑ヲ減輕スルト否トハ一ニ裁判所ノ判斷ニ任シタルナリ然レトモ犯罪ノ實行ニ著手シタル後自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタル者ハ社會ニ及ホス害惡少ク且犯情モ亦憫察ス可キ所アルヲ以テ之ヲ罰スル場合ニモ一般ニ減輕スルモノトシ情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第百十三條 重罪

ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス
輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス
違警罪ヲ犯サン
トシテ未ダ遂ケサル者ハ其罪ヲ論セズ

第五十六條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

(理由) 本條ハ現行法第百十三條ヲ修正シタルモノナリ現行法ハ凡テ重罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰スルコトトナセトモ其重罪中未遂犯ヲ構成スルコト能ハサルモノアルヲ以テ此ノ如キ規定ハ事理ニ反スルノミナラス又廣キニ失スルノ弊アリ是ヲ以テ修正案ハ現行法ノ第二項ト同一ノ主旨ニヨリ特ニ未遂犯罪トシテ罰ス可キ場合ハ各本條ニ於テ規定スルコトト爲シタルナリ

第五章 併合罪

(理由) 本章ハ現行法第一編第七章數罪俱發ノ規定ヲ修正シタルモノナリ

數罪俱發ノ名ヲ改メ併合罪ト爲シタルハ確定裁判ヲ經サル數罪ハ必スシモ俱ニ發覺スルコトナク一罪既ニ確定裁判ヲ經タル後他ノ一罪ノ發覺スル場合ナキニ非ス此等ノ場合ニ於テ數罪俱發ノ名稱ハ稍穩當ヲ缺クノ嫌アリ又本案第六十條ニ在ルカ如ク確定裁判前ノ數罪ハ其發覺時期ノ前後如何ヲ問ハス常ニ併合シテ之ヲ處斷スルヲ以テ寧ロ併合罪ト名ツクルノ勝レルニ如カサルナリ然レトモ併合罪ト稱スルモ各罪ヲ合併シテ新ニ一罪トナスニ非スシテ各罪ハ尙ホ獨立シテ存在シ唯之ヲ併合シテ處斷スルノ義ナリ現行法ハ數罪俱發ノ場合ニ於テ違警罪ヲ除ク外ハ所謂吸收主義ニ因リ數箇ノ犯罪中一ノ重ニ從テ處斷スル主義ヲ採レリ此ヲ以テ一度罪ヲ犯シタル者ハ其裁判確定ニ至ルマテハ之レト同等若クハ輕キ罪ハ幾度之ヲ犯スト雖モ後ノ犯罪ニ對スル刑ハ常ニ第一ノ犯罪ニ對スル刑ニ吸收セラレ後ノ犯罪ハ全ク處罰ヲ受クルコトナキ結果ニ至ル加之一罪ヲ犯シタルモノト數罪ヲ犯シタルモノトハ常ニ同一ノ刑ヲ以テ處斷セララルルニ至リ

頗ル不當ノ結果ヲ來タスヲ以テ修正案ハ此主義ヲ排斥シ所謂併科主義ヲ採リ一罪毎ニ各々其刑ヲ科スルコトヲ原則ト爲シタリ但死刑又ハ無期徒刑ニ當ル罪ト他ノ罪ト併發スルトキハ事實上各罪ニ對シテ各刑ヲ併科シ得可カラサルモノアルヲ以テ此場合ニハ例外トシテ或刑ニ付キテハ吸收主義ヲ採リ又有期ノ自由刑ニ付キ各犯罪毎ニ一ノ刑ヲ科スルトスレハ遂ニハ其刑期數十年ノ長キニ至ルノ虞アルヲ以テ此場合ニモ例外トシテ制限併科ノ主義ヲ採リタリ

第五十七條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止々其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

(理由) 本條ハ併合罪トシテ處斷ス可キ場合ヲ示シタルモノニシテ確定裁判ヲ經サル數罪ハ併合罪トシ若シ數罪中ノ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止々其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トスルコトヲ規定シタルモノナリ

第五十八條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ

科セス但公權剝奪及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料、公權剝奪及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

(理由) 前ニ擧ケタル如ク修正案ハ併合罪ノ場合ニ於テ各罪ニ付キ其刑ヲ併科スル主義ヲ採ルトモ若シ一罪ニ付キ死刑ヲ科ス可キ場合ニハ他ノ刑ヲ科シ得サルコトアリ故ニ公權剝奪及ヒ沒收ヲ除クノ外ハ他ノ刑ヲ科セサルコトヲ規定セリ若シ又一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキモ之ト同一ノ理由ニテ罰金、科料、公權剝奪及ヒ沒收ノ外ハ他ノ刑ヲ科セサルコトヲ規定シタリ是レ死刑ニ處セラレタルモノト雖モ其執行ヲ了ハルマテハ公權剝奪ヲ科スルコトヲ得ヘク沒收ハ被告人ノ身體ニ關係ナクシテ之ヲ執行シ得ヘシ又無期刑ニ處セラレタルモノト雖モ公權剝奪ハ之ヲ併科スルニ差支ナク罰金、科料及ヒ沒收ハ共ニ被告人ノ財産ヨリ徴收スルモノナレハ是亦併科スルニ差支ナケレハナリ

第五十九條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮アルトキハ其

最も重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

(理由) 本條ハ二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ科ス可キ場合ニシテ前ニ述ヘタル如ク制限併科ノ主義ヲ採リタルモノナリ其制限ノ程度ハ本條ノ定ムル所タリ乃チ併合罪中最モ重キ罪ニ對スル刑ノ長期ニ其半ヲ加ヘタルモノヲ以テ併合罪ニ對スル刑ノ長期ト爲スヲ原則トス然レトモ併合罪中一ノ最も重キ罪ニ對スル刑ト他ノ罪ノ刑ヲ加フルトキハ其重キ刑ニ之カ半ヲ加ヘタルモノヨリ長キトキハ但書ノ規定ニヨリ併合罪ノ長期ハ其各罪ノ長期ヲ加ヘタルモノニ超過スルコトヲ得サルモノトス是レ此ノ如ク規定セサレハ却テ制限併科ノ主旨ニ反シ各刑ヲ併科シタルヨリ重キ刑ヲ科スルニ至ルヘケレハナリ

第六十條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第五十八條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

(理由) 修正案ハ刑ノ性質上併科シ得キモノハ成ル可ク之ヲ併科スル主義ヲ採リタルヲ以テ罰金ノ如キハ他ノ刑ト併科スルコトヲ原則トセリ但本案第五十八條第一項ノ如ク死刑ヲ科ス可キ場合ハ之ヲ例外ト爲シタリ

本條第二項ハ二個以上ノ罰金ヲ科ス可キトキハ其罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷スルコトヲ規定シタルモノナリ

本項ノ規定モ亦併科主義ヲ採リシモノナリ即チ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ範圍内ニ於テ處斷シタル罰金額ヲ合算スルモ各罪ニ付キ定メタル罰金額ヲ合算シタル範圍内ニ於テ其罪ヲ處斷スルモ理ニ於テ異ナル所ナシ但罰金刑ノ範圍廣クシテ自由ニ之ヲ酌量シ得ルノ便宜ヲ存スルノ優レルアルノミ

第六十一條 併合罪中重キ罪ニ附加刑ナシト雖モ他ノ罪ニ附加刑アルトキハ之ヲ附加ス但第五十八條ノ適用ヲ妨ケス

二個以上ノ公權剝奪アルトキハ其期限ノ最モ長キモノヲ附加シ二個以上ノ監視アルトキハ單ニ其個ヲ附加ス
二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

(理由) 本條ハ併合罪ニ關スル附加刑ノ規定トス

第一項ハ併合罪中其重キ罪ニ附加刑ナシト雖モ其他ノ罪ニ附加刑アルトキハ其附加刑ヲ科スコトヲ規定セルモノトス但書ハ第五十八條ノ場合ヲ除外スル主旨ニシテ當然ノ規定トス

第二項ハ二箇以上ノ公權剝奪アルトキハ之ヲ併科スルノ必要ナキヲ以テ吸收主義ニ因リ其期限ノ長キモノノミヲ科シ二箇以上ノ監視アルトキモ亦之ト同様ノ規定ニ從ハシムルモノトス

第三項ハ二箇以上ノ沒收アル場合ニシテ沒收ハ公權剝奪及ヒ監視ト異ナリ特ニ或ル物件ヲ沒收スルノ必要アルモノナルヲ以テ常ニ之ヲ併科スルコトヲ規定シタルモノナリ

第六十二條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪ト

アルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

(理由) 本條ハ併合罪中或罪ハ既ニ裁判ヲ經或罪ハ未タ裁判ヲ經サル場合ニ於テハ未タ裁判ヲ經サル罪ノ刑ヲ定ムルコトヲ規定シタルモノニシテ其執行方法ハ次條ニ規定セリ

第六十三條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併

セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ公權剝奪及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料、公權剝奪及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ罪ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

公權剝奪及ヒ監視ハ其期限ノ最モ長キモノヲ執行ス

(理由) 本條ハ併合罪ニ付キ二箇以上ノ裁判アリタル場合ノ規定ニシテ各裁判ニ對シ其刑ヲ併セ執行スルコトヲ原則トス然レトモ場合ニ依リ刑ノ性質上併セ執行スルコト

ヲ得サルコトアリ即チ一罪死刑ニ該ルトキハ公權剝奪及ヒ沒收以外ノ刑ハ之ヲ執行セズ又無期刑ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料、公權剝奪及ヒ沒收ノ外他ノ刑ヲ執行セス又有期徒刑ヲ併セテ執行ス可キ場合ニハ其刑期ノ合計カ其最モ重キ罪ノ刑期ニ其半ヲ加ヘタルモノニ超過ス可ラサルコトヲ規定ス是皆執行官ニ於テ遵據スヘキ標準ヲ示スモノナリ

第二項ハ第六十一條第二項ノ適用ニ關シ其方法ヲ示スモノナリ

第六十四條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケ

タル場合ニ於テハ特大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

(理由) 本條ハ併合罪ニ付キ處斷セラレタル者カ併合罪中ノ或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ノ規定ナリ大赦ハ其效力トシテ其罪ニ付テハ裁判ノ效力全ク消滅スルモノナルヲ以テ他ノ罪ニ付テハ獨立ニ一ノ刑ヲ科スルノ必要アリ故ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ別ニ刑ヲ科スルコトヲ以テ現行法ノ不備ヲ補ヘリ

第六十五條 輕罪ノ刑ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第五十八條ノ場合

ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ輕罪ノ刑ハ之ヲ併科ス

(理由) 本條ハ輕罪ノ刑ハ他ノ重罪又ハ輕罪ノ刑ト凡テ之ヲ併科スルコトヲ規定シタリ現行法ハ違警罪ノ刑ハ之ヲ併科シ重罪、輕罪ト共ニ發スルトキハ一ノ重キニ從フト規定セルヲ以テ修正案ハ輕罪併發ノ場合ハ現行法ノ違警罪併發ノ場合ト同一主義ヲ採リ輕罪カ他ノ重罪ト共ニ發シタル場合ニハ現行法ノ吸收主義ヲ改メ併科主義ヲ採リタルモノナリ又本條但書ハ第五十八條ノ規定ヨリ生スル當然ノ結果ナリトス

第六十六條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第六十一條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

(理由) 本條ハ學說ニ所謂想像上ノ數罪俱發ト稱スル場合及ヒ相牽連スル犯罪ニ關スル規定ナリ現行法ニ於テハ本條ノ規定ヲ缺クカ爲メニ解釋上頗ル疑ヲ義生スルコトアリ

ルヲ以テ修正案ニ於テハ新ニ本條ヲ設ケ以テ之ヲ明ニセリ本條ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合及ヒ或罪カ他ノ罪ノ手段若クハ結果ニ過キサレ場合ニ在テハ其刑ヲ併科スルノ必要ナキヲ以テ其罪名中最モ重キ刑ヲ科スルコトヲ特ニ吸收主義ヲ採リタルモノナリ

第六十七條 連續シタル數罪ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

(理由) 本條ハ所謂連續犯ト稱スル場合ノ規定ニシテ亦現行法ニ規定ナキ爲メ往々爭議ヲ生シタルモノナリ本條ハ連續シタル數箇ノ行爲カ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ之ヲ數罪トシテ處斷スルノ必要ナシト認メ一罪トシテ處斷スルコトヲ明ニシ從來ノ疑義ヲ避ケタルモノトス

第六章 再犯

九〇

(理由) 本章ハ現行法第一編第五章ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ其修正ノ要點ハ

一 現行法ハ罪ノ性質輕罪ヲ問ハス一般ニ再犯ノ規定ヲ設ケ先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノ再犯重罪、輕罪ニ該ルトキ又ハ先ニ重罪、輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノ再犯輕罪ニ該ルトキ及ヒ先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタルモノ再犯違警罪ニ該ルトキハ常ニ再犯例ヲ適用スルコトトナシタルカ爲メ其場合廣キニ失シ一方ニハ無用ノ加重ヲ爲シ他ノ一方ニハ無効ノ加重ヲ爲スコト多シ此ヲ以テ修正案ハ犯罪ノ性質ニ因リ區別シ主トシテ累犯ノ虞アルモノニ付テノミ再犯例ヲ適用スルコトト爲シタリ

二 現行法ハ再犯ト初犯トノ間ノ日數ニ付キ重罪、輕罪ニ關シテ何等ノ制限ナク初犯後數十年ヲ經タル後ト雖モ更ニ犯罪アレハ之ヲ再犯ト爲セリ是レ犯人ニ對シ酷ニ失スルモノニシテ再犯加重ヲ爲ス所以ノ趣旨ニ添ハサルモノトス特ニ再犯ハ初犯後久シカラサル期限内ニ於テ最モ多ク發生スルカ故ニ此點ニ對シテハ一ノ制限ヲ設ケ初犯後或年限内ニ非サレハ再犯例ヲ適用セサルコトト爲セリ

第六十八條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ十年内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキ亦同シ
併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ該ル罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタル者ト看做ス

(理由) 本章ノ始メニ擧ケタル如ク本條ハ特ニ犯罪ノ性質ニ因リ再犯例ヲ適用ス可キコトヲ規定シ又初犯後其刑ノ執行ヲ終リ又ハ其免除アリタル日ヨリ十年内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタル場合ニ限り再犯例ヲ適用ス可キコトヲ規定シタルモノニシテ

必スシモ同種類ノ犯罪タルコトヲ必要トセス又再犯例ヲ適用ス可キ期限ヲ定ムルニ付
テハ或ハ初犯ノ裁判確定ヨリ起算シ若干年ト爲ス立法例アリト雖モ修正案ハ裁判ノ確
定ノミニテハ未タ犯人ノ再犯ヲ防クニ足ル可キ實效ナキモノトシ其裁判ノ執行ヲ終ル
カ若クハ其裁判ノ執行ノ免除ヲ受ケ充分ニ裁判ノ實效ヲ生ス可シト認メタル時期ヨリ
起算スルコトトシ其期間ヲ斟酌シ十年ト定メタルモノナリ

本條第一項ニ於テハ初犯ハ懲役ニ限ルト雖モ懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處
セラレ其執行ノ免除ヲ得タル者若クハ死刑ヨリ懲役ニ減輕セラレタル者ニ付キテハ尙
ホ一層之カ再犯ニ付キ加重ス可キ必要アリ此ヲ以テ此等ノ者カ本條第一項ノ期間内ニ
更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯セハ之ニ再犯例ヲ適用セサル可カラス是レ本條第二項ノア
ル所以ナリ

本條第三項ハ修正案ニ於テ併合罪ニ付キ併科主義ヲ採用シタルノ結果各罪ハ獨立シテ
存在スルカ故ニ再犯例ノ適用上必然ノ規定ナリ

第六十九條 再犯ノ刑ハ前罪ニ付キ法律ニ定メタル懲役ノ長期ノ二

倍トス

(理由) 現行法ハ再犯ノ刑ハ初犯ノ刑ニ一等ヲ加フト定メタリ然レトモ其結果ハ重罪
ニ付テハ多クモ三年ヲ超ユルコトナク輕罪、違警罪ニ付テハ刑期又ハ罰金額ノ四分一
ヲ加重スルニ過キス而シテ第九十八條ノ規定ニ因リ三犯以上ノ場合ト雖モ之ト異ナル
コトナキカ爲メ一般ニ加重ノ分量輕キニ失シ現時累犯者ノ増加スルコト夥シク再犯ヲ
防遏スルノ精神ハ殆ント其目的ヲ達スルヲ得ス是レ現行法ノ改正ヲ要スル一大缺點ナ
リ此ヲ以テ修正案ハ加重ノ分量ヲ増加シ法律ニ定メタル刑期ノ二倍ヲ以テ再犯ノ刑期
ト定メタリ

第七十條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルキハ第六十九條
ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム
懲役ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除アリタル者ニ付テハ前項ノ規
定ヲ適用セス

(理由) 現行法ハ再犯加重ノ分量輕キニ過キ再犯ヲ防遏スルニ足ラサルニモ拘ラヌ

告人ハ尙ホ其加重ヲ免レント計リ初犯ヲ隠蔽スルヲ以テ之ヲ發見スルコト容易ナラス
 修正案ニ於テハ加重ノ分量更ニ大ニナリタレハ勢ヒ初犯ヲ隠蔽スルモノノ非常ニ増加
 ス可キハ發見シ得可キコトマリ然ルニ現行法ニ於テハ裁判ノ當時ニ於テ再犯者タルコ
 ト發見セラレサルトキハ一旦裁判ヲ受ケタル後ニ至リ縱令再犯者タルコト發覺スルモ
 其刑期ハ之ヲ變更シ得可カラサルヲ以テ被告人ハ其裁判ノ時ニ當リテ争フテ其再犯者
 タルコトヲ隠蔽シ僥倖ヲ得ンコトヲ企ツルアリ之ヲ以テ修正案ハ一旦裁判ヲ受ケタル
 後ト雖モ再犯者タルコトヲ發覺スルニ至レハ更ニ刑ヲ加重スルコトヲ規定シタルモノ
 ナリ

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ

第七十一條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ
 (理由) 本條ハ現行法第九十八條ト其主旨ヲ同フス修正案ハ已ニ再犯ノ場合ニ充分ノ加重ヲ爲シ得ル範圍ヲ設ケタルヲ以テ三犯以上ト雖モ特別ノ加重例ヲ設クル必要ヲ認メス

第七章 共 犯

(理由) 本章ハ現行法第一編第八章數人共犯ノ規定ヲ補修シタルモノニシテ主トシテ現行法ノ不備ヲ補ヒタルニ止リ主旨ニ於テ變更ヲ加ヘタル所少ナシ

第七十二條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

(理由) 本條ハ現行法第百四條ノ規定ト同一ニシテ唯文字ヲ修正シタルニ止マリ現行法ハ現ニナル文字ヲ以テ實行正犯ノ意義ヲ明ニシタルトモ其意義多少狭キニ失スルノ嫌ナキニアラサルヲ以テ之ヲ修正シテ共同シテナル文字ヲ用キタリ現行法ハ又各自ニ其刑ヲ科スト規定スレトモ既ニ法律ニ於テ各正犯ト規定シタル上ハ各自正犯トシテ其刑ヲ科セラルコトハ明文ヲ要セサルヨリ修正案ハ此一句ヲ删除セリ

第七十三條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

(理由) 本條第一項ハ現行法第百五條ト同一ノ規定ニシテ所謂實行正犯ナル者ヲ教唆シタル場合ノ規定トス現行法ハ前條ト同シク文字稍不明ナルノ虞アルヲ以テ之ヲ修正

第百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

第百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

第百九條 重罪輕
罪ヲ犯スコトヲ
知テ器具ヲ給與
シ又ハ誘導指示
シ其他豫備ノ所
爲ヲ以テ正犯ヲ
幫助シ犯罪ヲ容
易ナラシメタル
者ハ從犯ト爲シ
正犯ノ刑ニ等シ
ヲ減ス但正犯現
ニ行フ所ノ罪從
犯ノ時ハ止メヨ
重キ時ハ止メヨ
知ル所ノ罪ニ照
シ一等ヲ減ス

セリ現行法ハ又教唆者ヲ正犯ト爲スト規定スレトモ修正案ハ正犯ニ準スト改メタリ是
レ教唆者ハ實行正犯ニ非サルモ其責任ニ於テハ正犯ト同一ナルコトヲ明ニスルモノナ
リ

第二項ハ新ニ設ケタル規定ニシテ實行正犯ノミナラス教唆者ヲ教唆シタル者ヲモ亦之
ヲ罰スルモノナリ現行法ニ於テ此規定ナキカ爲メ實際上往々不良ノ徒ヲ免レシメタル
コトナキニアラス修正案ハ此理由ニ因リ教唆者ヲ教唆シタル者モ亦實行正犯ヲ教唆シ
タルモノト同シク准正犯ト爲スコトヲ規定シタルナリ

第七十四條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

(理由) 本條ハ現行法第百九條ト同一ノ規定ナリ現行法ハ幫助ニ付テノ方法ヲ列舉シ
タルモ是レ唯例示ニ過キスシテ何等ノ實益アルコトナシ是ヲ以テ修正案ハ別段其方法
ヲ示サス尙モ正犯ヲ幫助シタル者ハ凡テ之ヲ從犯ト爲スコトトセリ然レトモ廣ク學說
ニ所謂事後從犯ノ如キ者ヲモ包含セシムルノ主旨ニ非スシテ現行法ト同シク事前ノ從
犯ノミニ限ルモノトス只其幫助ノ方法ニ付キ現行法ノ如ク制限セサルノミナリ

第七十五條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

(理由) 本條ハ現行法第百九條ト同シク從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ヨリ之ヲ減輕スルコトヲ
規定シタシモノナリ蓋シ從犯ハ正犯ト異ナリ犯罪ノ成立ヲ幫助シタルニ止マリ其情狀
ニ於テ大ニ正犯ヨリ輕キ所アリ之ト同一ノ刑ニ處スルハ重キニ失スルヲ以テナリ

第七十六條 輕罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ別段ノ規定アルニ非サレハ之
ヲ罰セス

(理由) 本條ハ修正案ニ於テ輕罪ハ罪質輕微ニシテ重罪ト全ク其性質ヲ異ニシ處罰ノ
方法モ之ト別段ノ規定ヲ設ケタルノ精神ニ依リ輕罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ罪質更ニ輕微
ニシテ一般ニ之ヲ處罰スルノ必要ナク其特ニ必要アルモノハ各本條ノ規定ニ讓ルノ趣
旨ニ出テタルモノナリ

第七十七條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ罪ヲ共ニ犯シタルトキハ

其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス
身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ

第百六條 正犯ノ
身分ニ因リ別ニ
刑ヲ加重ス可キ
時ハ他ノ正犯從
犯及ヒ教唆者ニ
及ホスコトヲ得
ス

第一百十條 身分ニ
 因リ刑ヲ加重ス
 可キ者從犯ト爲
 ル時ハ其重キニ
 從テ一等ヲ減ス
 正犯ノ身分ニ因
 リ刑ヲ減免ス可
 キ時ト雖モ從犯
 ノ刑ハ其ノ輕キ
 ニ從テ減免スル
 コトヲ得ス

科ス

(理由) 本條第一項ハ新ニ設ケタル規定ナリ現行法ニ於テハ此場合ニ關スル規定ナキ
 カ爲メ學說ニ派ニ分レ一ハ之ヲ以テ共犯ニ非スト爲セトモ修正案ハ第二ノ主義ヲ採リ
 身分ナキ者カ身分アル者ト共ニ身分ニヨリ構成ス可キ罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ共犯ト
 爲スコトトセリ
 第二項ハ現行法第六條及ヒ第一百十條ト同一ノ規定ニシテ現行法ニハ減輕ノ場合ニ關
 スル規定不備ナルヲ以テ之ヲ補充シタルノミナリ

第八章 酌量減輕

(理由) 本章ハ現行法第一編第四章第三節ノ規定ト其趣旨ヲ同フス修正案ハ現行法ノ
 罪ノ範圍ノ狭キニ失シ實際上刑ノ權衡ヲ失スルノ弊ヲ避クルカ爲メ刑ノ範圍ヲ闊クス
 ルコトヲ目的トナシ各本條ニ於テ各罪ニ對スル刑ノ範圍ヲ廣クシ情狀ニ因リ裁判所ヲ
 シテ自由ニ適宜ノ刑ヲ定メシムルコトトナセリ然レトモ尙ホ或ル場合ニ依リテハ情狀

第八十九條 重罪
 輕罪違警罪ヲ分
 タス所犯情狀原
 諒ス可キ者ハ酌
 量シテ本刑ヲ得
 輕スルコトヲ得
 第八十九條 第二
 項法律ニ於テ本
 刑ヲ加重シ又ハ
 刑ヲ加重シ又ハ
 減輕ス可キ者ト
 雖モ其酌量ス可
 キ時ハ仍ホ之ヲ
 減輕スルコトヲ
 得

極テ刑罰ノ重ニ失スルコトナシトセス此ヲ以テ更ニ酌量減輕ヲ設ケ適當ノ刑ヲ科セシ
 メンコトヲ欲シ本章ノ規定ヲ存シタルナリ

第七十八條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スル
 コトヲ得

(理由) 本條ハ現行法第八十九條第一項ト其趣旨ヲ同シクス

第七十九條 法律ニ於テ刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キモノト雖モ仍ホ
 酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

(理由) 本條ハ現行法第八十九條第二項ト其趣旨ヲ同シクス

第九章 加減例

(理由) 本章ハ現行法第一編第三章加減例及ヒ第六章加減順序ノ二章ヲ合シ之ニ修正
 フ加ヘタルモノナリ

第八十條 法律上刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ理由アルトキハ左

ノ例ニ從テ之ヲ減輕ス

一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ五年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處ス

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮若クハ拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ三分ノ二以下ニ處ス但各本條ニ於テ特ニ短期ヲ定メタル場合ニ於テハ其三分ノ二ヲ減シタルモノヲ以テ短期トス

四 罰金、科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ三分ノ二以下ニ處ス

(理由) 本條ハ所謂法律上ノ減輕ノ場合ニ該當スルモノナリ修正案ハ刑名ヲ減少シ其範圍ヲ廣大ニシタル結果トシテ減輕ノ分量ヲ定ムル方法モ亦全ク現行法ト異ナラサルヲ得ス現行法ハ第六十六條以下ニ於テ之カ爲メ詳細ナル規定ヲ設クト雖モ本條ハ全ク之ヲ廢シ新ナル規定ヲ設ケタリ但本條ニ於テハ唯法律上ノ減輕ノ場合ニ關シテノミ之

ヲ規定シ法律上ノ加重ノ場合ニ關スル規定ヲ設ケサルハ其場合タル再犯若クハ併合罪ノ章ニ於テ既ニ之ヲ定メタルヲ以テナリ

又現行法ハ刑ノ種類ヲ細別シ多クノ階級ヲ設ケ加減ノ原因數個アル場合ニ於テハ一個毎ニ之ヲ計算シテ加減スルコトト爲スト雖モ修正案ハ前ニ舉ケタル如ク刑ノ範圍極テ大ナルヲ以テ之ヲ減輕スル結果ハ又頗ル刑ヲ輕クスルコトトナル此ヲ以テ縱令數個ノ減輕ノ原因アルトキト雖モ合シテ一トナシ一度刑ヲ減輕スルニ止ム是レ修正ヨリ生スル必然ノ規定ニシテ現行法ニ比シ敢テ減輕ノ利益ヲ縮少スルニ非ス但酌量減輕ノミハ第七十九條ニ規定スル如ク他ノ原因ト分離シ別ニ減輕スルモノニシテ其方法順序ハ後條ニ於テ示スカ如シ而シテ本條第一號乃至第四號ハ實際ニ於テ適宜ノ範圍ニ減輕ヲ施スノ標準ヲ示スモノナリ

第八十一條 法律上刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

(理由) 修正案ハ刑ノ範圍ヲ廣クシ裁判所ノ自由ニ任カセントスル場合多キヲ以テ各

本條ニ於テ二個以上ノ罪名ヲ設ケ裁判所ヲシテ其一ヲ擇ハシムルモノアリ此場合ニ於テ法律上ノ減輕ヲ施ス方法ヲ規定シタルモノナリ

第八十二條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ左ノ例ニ依ル

- 一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期ノ懲役及ハ禁錮ニ處ス
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ニ短期アルモノヲ減輕ス可キトキハ其短期以下ニ處ス

(理由) 本條ニ於テハ酌量減輕ノ分量ヲ定ム現行法第九十條ハ修正案第八十條ニ述ヘタル所ト同一ノ理由ニ基キ之ヲ採用セスシテ新ニ規定ヲ設ケタリ此制度ハ第七十九條ニ掲ケタル如ク法律上ノ減輕ニ拘ラス更ニ酌量シテ減輕スルモノニシテ法律上減輕シタル刑ノ範圍カ尙ホ犯罪ニ比シ重キニ失スル場合ニ適用スル趣旨ナリ此等ノ場合ニ於テ有期ノ自由刑、罰金又ハ科料ニ短期若クハ低額ノ定ナキモノニ付テハ酌量減輕ハ事

第七十四條 附加

ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止テ主刑ヲ科ス

第九十九條 犯罪

ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其別以テ本刑ト爲ス一再加加重

實上無用ノ長物ニ屬スルヲ以テ本條ニ於テハ減輕シテ他ノ輕キ刑若クハ短期以下ニ處シ得可キ場合ニ關スル規定ナリ

第八十三條 附加刑ハ加重減輕セス

(理由) 現行法ハ其第七十四條ニ於テ附加刑ハ罰金ノ外加減セサルコトヲ規定セリ本案ハ附加ノ罰金ヲ廢シタルヲ以テ本條ハ現行法ト全ク同一主旨ノ規定ナリ乃チ公權剝奪、監視及ヒ沒收ハ常ニ加減セサルコトヲ示シタルモノトス

第八十四條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

- 一 再加加重
- 二 法律上ノ減輕
- 三 併合罪ノ加重
- 四 酌量減輕

(理由) 本條ハ現行法ニ謂ユル加減順序ノ規定ニ該當スルモノニシテ前數條ニ於テ現行法ヲ改正シタルト同一ノ理由ニ因リ本條ニ於テモ新ニ其順序ニ付キ規定ヲ設ケタリ

二宥怒減輕
三自首減輕
四酌量減輕

一〇四

而シテ此順序ヲ定ムルニ付キ再犯加重ヲ先ニシタルハ若シ犯罪中再犯ノモノアレハ其
刑期ハ法律ニヨリ本刑ノ二倍トナルコトヲ定メアルヲ以テ之ヲ第一ニ置クノ必要アレ
ハナリ次ニ法律上ノ減輕ヲ置キタルハ此減輕ハ亦各場合ニ於テ各犯罪ニ付キ減輕ス可
ク併合罪ヲ第三トナシタルハ前二ツノ加減例ニ依リ各罪ニ付キ一旦刑ヲ定メ然ル後併
合罪ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムルノ必要アルニ因ル最後ニ酌量減輕ヲ置キタルハ其裁判所
ノ任意ニ出テ法律ノ規定ニ因ル加重減輕ニ先ス可キ性質ノモノニアラサレハナリ

第八十五條 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ加重シテ二十五年ヲ超ユルコト
ヲ得ス

(理由) 修正案ニ於テハ再犯若クハ併合罪ノ場合ニ於テ刑ヲ加重スルコト現行法ノ比
ニアラス因リテ以テ再犯ヲ防遏シ且數罪ヲ犯スコトヲ止メント欲ス然リト雖モ此等ノ
加重ノ結果トシテ有期ノ自由刑ハ終ニ數十年ニ達シ殆ント無期刑ト異ナルコト無キニ
至ルノ虞アリ是ヲ以テ本條ニ於テハ其弊ヲ矯正セント欲シ縱令有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ
加重スルモ二十五年ヲ超過スルコトヲ得サルコトト定メタルナリ

○刑法附則

明治十四年二月十九日
布告第六十七號

刑法附則別冊ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

刑法附則

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記官及ヒ獄司刑場ニ立會獄司ヨリ四人ニ
死刑ヲ執行スヘキトテ告示シタル後獄丁ヲシテ之ヲ執行セシム但其時限ハ午前十時前
トス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サス
但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニアラス

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作リ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺
印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フコトヲ得ス

元 始 祭

孝明天皇祭

紀 元 節

春季皇靈祭

仁孝天皇祭

六月 大 祓

秋季皇靈祭

神宮神嘗祭

天 長 節

後桃園天皇祭

新 嘗 祭

光格天皇祭

十二月 大 祓

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ト申立ル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシ

メ果シテ懐胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更

ニ司法卿ノ命令ヲ受ケテ執行スヘシ

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ獄司之ヲ許可シ下
付スルコトヲ得

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ獄司ノ許可ヲ得テ其親屬故
舊ニ接見スルコトヲ得

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ

左ノ各所ニ榜示公告ス可シ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯罪ノ地

犯人住居ノ地

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ廢船ノ地ニ護送ス可シ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受クヘシ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家族ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スコトヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ獄司ノ監督ヲ受ケシム若シ已ムコトヲ得サル事故アル時ハ獄司ニ請フテ限外ニ出ルコトヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行ス可シ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セス

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ罰金ニ於テ亦同シ

第二章 監視

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時典獄ヨリ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致シ監視ヲ執行セシム但主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ護送

スヘシ十五年第四拾二號布告ヲ以テ全條改正

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ

第二十四條 同上布告ヲ以テ削除ス

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ

犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ遞送ス可シ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期間間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期間間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届

出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス

三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許サス若シ已ムコトヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

第二十八條 監視ノ期間間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアルヘシ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコトヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送ス可シ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受テ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納スヘシ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具

申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添ヘ警察所ニ差可ス可シ

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間懲治場ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

第三十三條 懲治場ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付スヘキ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付スヘキ時ハ並ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期間ニ算入ス可シ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十

九條ノ例ニ從フ可シ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許ルス可キ者アル時ハ獄司ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレントラ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ獄司ヨリ其證票ヲ犯人ニ下附ス可シ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日

二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事

四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ民法施行法ヲ以テ削除

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ其證票ノ騰本ヲ添へ第二十二條ノ例ニ依リ犯人ヲ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ十五年第四十
正
ヲ改
二號布告ヲ以

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十
九條第三十一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

一 每週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受
ク可シ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ
届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受クヘシ但他ノ府縣ニ
轉移スルコトヲ許サス

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルコトヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ
警察所ヨリ證票ヲ出シタル獄司ニ遞送ス

主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ懲
治場ニ留置ス可シ

第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辯人翻譯人ニ給與ス可キ日常
旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條 日常旅費及ヒ止宿料ハ左ノ制限ニ據リ各地方適宜其額ヲ定ム可シ

日常五拾錢以下 旅費一里拾錢以下 止宿料一宿貳拾五錢以下

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ滞在中ハ日常并ニ止宿料
ヲ給ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス十六年第三拾九號布
告ヲ以テ全條改正

第五十條 證人醫師鑑定人通辯人翻譯人ノ日常旅費及止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前公

判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求アルニ非サレハ之ヲ給與セス 廿八年法律第

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第百九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ 三號ニテ改正

旅費日常ノ外若干ノ償金ヲ給スルコトアル可シ

第五十二條 鑑定、通辯又ハ翻譯等ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要ス

ル時ハ日常ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得 卅三年法律第二號

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續

人ヨリ之ヲ徵收ス

第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還付スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ

手ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムル者トス 民法施行法

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買收シタル物品ハ其公商若クハ

被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルコトヲ得ス

若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムコトヲ得ス但其買取者ハ買取者ニ對シ轉價ヲ求ムルコトヲ得同上

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムコトヲ

得ス但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉價ヲ求ムルコトヲ得同上

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トヲ區別シ第五十五條ノ例ニ從

ヒ處分ス可シ同上

第五十八條 贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ

損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得同上

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其

賠償ヲ請求スルコトヲ得但失火ハ此限ニ在ラス同上

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ請求スルコトヲ得若シ

其審判已ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス同上

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル時ハ通常ノ文書又ハ言

語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其民事裁判所ニ請求スル時ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルコトヲ得

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

○刑法附則中改正

朕刑法附則中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年十月八日

内閣總理大臣 伯爵 山縣有朋
司法 大臣 伯爵 山田顯義

法律第百二號

刑法附則第四十九條ヲ左ノ如ク改メ次ニ左ノ三條ヲ加フ

第四十九條 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付金五十錢トス但止宿料ヲ給スル場合ニ於テハ此

日當ヲ給セス

第四十九條乙 醫師鑑定人通辯人翻譯人ノ日當ハ出頭一度ニ付金五十錢乃至金五圓ノ範圍内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第四十九條丙 證人醫師鑑定人通辯人翻譯人ノ旅費ハ海陸滿一里毎ニ付キ金拾錢トス通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

第四十九條丁 前條ニ記載シタル者ノ止宿料ハ滿八里以外ノ地ヨリ來リ滞在スル時ハ一日金五十錢トス

○監獄則

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種トス

一、集治監 徒刑流刑及舊法懲役終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

二、假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スル迄拘禁スル所トス

三、地方監獄 拘留禁錮禁獄懲役ニ處セラレタル者及婦女ニシテ徒刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

四、拘留監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス

五、留置場 刑事被告人ヲ一時留置スル所トス但警察署内ノ留置場ニ於テハ罰金ヲ禁

錮ニ換フル者及拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルヲ得

六、懲治場 不論罪ニ係ル幼者及瘖啞者ヲ懲治スル所トス

第二條 監獄ハ内務大臣ノ監督ニ屬ス

第三條 集治監 北海道ニアルモノヲ除ク 及假留監ハ内務大臣之ヲ管理シ其他ノ監獄ハ警視總監北海
道廳長官府縣知事 東京府ヲ除ク 之ヲ管理ス

第四條 內務大臣ハ隨時監獄巡閱官ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監北海道廳長官府縣知事東京府ヲ除クハ每年少クトモ一回所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル拘留監ヲ巡視スヘシ

檢察官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル監獄ヲ巡視スヘシ

第五條 府縣會議員ハ臨時其府縣所轄ノ監獄ヲ巡視スルヲ得

第六條 新ニ入監スル者アルハ典獄先ツ合狀又ハ宣告書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領收證

ヲ引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシムヘシ其文書ナクシテ引致セラレタル者

ヲ入監セシムルヲ得ス

第七條 在監ノ婦女其子ヲ乳養セント請フトキハ其齡滿三歳ニ至ル迄之ヲ許ス

第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ典獄悉ク點檢シテ之ヲ領置スヘシ

第九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シ監獄園内ニ於テ避災ノ手段ナシト考定スルハ典

獄ハ其狀況ニ依リ在監ノ囚人懲治人及刑事被告人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避ケシムヘシ

若シ押送スルノ迫ナキトキハ一時之ヲ解放スルヲ得

解放ニ遭ヒタル者ハ其時ヨリ廿四時以内ニ監署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

第十條 滿期ノ者ヲ釋放スルハ其滿期ノ翌日午前十時ヲ過クヘカラス

第十一條 囚人ハ各罪質ニ從テ嚴ニ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

一、滿十二歳以上十六歳未滿ノ者

二、滿十六歳以上二十歳未滿ノ者

三、滿二十歳以上ノ者

四、滿十六歳以上二十歳未滿再犯ノ者

五、滿二十歳以上再犯ノ者

第十二條 懲治人ハ左ノ年齡ニ從ヒ監房ヲ別異ス

一、滿八歳以上十六歳未滿ノ者

二、滿十六歳以上二十歳未滿ノ者

三、滿二十歳以上ノ者

第十三條 刑事被告人ハ各罪質ニ從テ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

一、滿十二歲以上十六歲未滿ノ者

二、滿十六歲以上二十歲未滿ノ者

三、滿二十歲以上ノ者

第十四條 地方監獄拘留監懲治場ノ一區畫内ニ在ルモノハ墻壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第十五條 凡ソ監獄ハ男監女監ノ別ヲ嚴隔スヘシ

第十六條 囚人及刑事被告人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ男ト女トヲ分チ時宜ニ依リ戒具ヲ用フルコトヲ得但懲治人ニハ戒具ヲ用ヒス

第十七條 定役ニ服スヘキ囚人ノ作業ハ每囚ノ體力ニ應シテ之ヲ課シ一日ノ科程ヲ定メテ服役セシムヘシ但科程ノ標準ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

一月一日 二月一日

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

十二月三十一日

父母ノ喪ニ遭フ者ハ三日免役ス

第十九條 無定役囚ニシテ監獄園内ニ於テ自ラ作業ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許シ作業ノ種類ハ典獄之ヲ指定ス刑事被告人モ亦之ニ準スルコトヲ得

百廿五

第二十條 懲治人ニハ毎日五時以内農業若シハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

第二十一條 役場ハ男女ノ別ヲ嚴隔シ仍ホ定役囚無定役囚懲治人ノ役場ハ各別ニ之ヲ設ケ其中ニ就キ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別スヘシ

第二十二條 定役ニ服スヘキ囚人現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ重罪囚ニハ其二分輕罪囚ニハ其四分ヲ與ヘ餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス

無定役囚懲治人及刑事被告人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ之ヲ十分シテ其六ヲ與ヘ其餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス定役ニ服スル囚人ニシテ料程外ノ作業ヲ爲ス時ノ工錢モ亦之ニ準シ

第二十三條 前條ニ依リ作業者ニ與フヘキ工錢ハ典獄之ヲ領置スヘシ

第二十四條 囚人懲治人及刑事被告人逃走シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ逃走ノ日ヨリ滿一箇年ヲ經テ之ヲ受クヘキ者ナキトキハ監獄慈善ノ用ニ充ツ刑死者死亡者ノ領置貨物ニシテ受クヘキ者ナキトキハ亦同シ

第二十五條 囚人及懲治人監署ニ領置ノ貨物ヲ以テ其父母妻子ノ扶助及正當ノ費用ニ充

ント請フトキハ典獄其事情ヲ取糺シテ之ヲ許可スヘシ

刑事被告人ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ受クヘシ

第二十六條 囚人及懲治人ノ衣服臥具ハ之ヲ貸與ス俱拘留囚ハ自服ヲ著スルコトヲ得

第二十七條 刑事被告人ノ衣服ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント

請フ者アルトキハ之ヲ許ス亦貧ニシテ衣類ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第二十八條 囚人及懲治人一人一日ノ食糧

一、下白米十分ノ四 七合乃至八合 最強キ作業ニ服スル者

一、麥 十分ノ六 五合乃至六合 作業ニ服スル者

一、同 四合 作業ニ服セサル者

一、同 三合 十才未滿ノ幼者

一、菜 金壹錢以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗黍薯ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得又麥粟稗黍等ニ乏シキ地方ニ於テハ內務大臣ノ認可ヲ得テ下白米ノミヲ給スルコトヲ得刑事被告人モ亦前項ニ

違ス但自費ヲ以テ食物ヲ購求セント請フトキハ之ヲ許ス

第二十九條 定役ニ服スル男囚ノ髮ハ常ニ之ヲ短薙シ髭鬚ハ常ニ剃除セシム

定役ニ服スル女囚ノ梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルコトヲ許サス

第三十條 囚人及懲治人ニハ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第三十一條 囚人十六才未滿ノ者及懲治人ニハ毎日四時以內讀書習字算術ヲ教フヘシ

第三十二條 囚人懲治人及刑事被告人現行ノ法律命令書ヲ看ント請フトキハ之ヲ許ス

囚人及懲治人書籍ヲ看ント請フトキハ修身宗教教育及營業ニ必要ナルモノニ限り之ヲ許ス

刑事被告人書籍ヲ看ント請フトキハ總テ之ヲ許ス但領置外ノ書籍ハ當該裁判官ノ承認ヲ經ヘキモノトス新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前二項ノ例ニアラス

第三十三條 囚人其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ一箇月ニ一次懲治人ハ一箇月ニ二次トシ共

ニ一通ニ過クルコトヲ得ス但官司ノ迅問等ニ由テ書信ヲ要スルハ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ典獄ニ於テ之ヲ必要ト認メタルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 囚人及懲治人ノ發スル信書又ハ外人ヨリ送リ來ル信書ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ

シ若シ書中不正不良ニ涉リ又ハ其改悛ヲ妨クルモノト認ムルトキハ之ヲ發贈付與スルコトヲ許サス但刑事被告人ニ係ル信書ハ總テ當該裁判官ノ檢閱ヲ經ヘキモノトス

第三十五條 囚人懲治人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄ノ立會ヲ以テ之ヲ許スヘシ但典獄ニ放テ形跡ノ疑フヘキコトアリト認ムルトキハ之ヲ許ササルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者ハ裁判言渡アル迄辯護人ヲ除クノ外其現在地ノ裁判所長ノ允許ヲ受クヘク密室監禁者ハ當該裁判官ノ允許ヲ受クヘシ

第三十六條 囚人懲治人及刑事被告人疾病ニ罹ルトキハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第三十七條 囚人懲治人及刑事被告人死亡シタルトキハ典獄看守長醫師ノ立會ヲ以テ之ヲ檢視シ監署ニ於テ速ニ其本籍ニ通知スヘシ其遺骸ハ親屬若クハ故舊ノ之ヲ請フ者ニ

下付ス但死亡後二十四時間以内ニ在テ其下付ヲ請フ者ナキトキハ監署ニ於テ之ヲ假葬シ其姓名ヲ記シタル木勝ヲ立ツヘシ

刑死者ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ五分時ヲ過サレハ其遺骸ヲ絞架ヨリ解下シ之ヲ埋葬シ若クハ下付スルヲ許サス

第三十八條 刑事被告人ニ其親屬故舊ヨリ書類書籍用紙衣服臥具其他必要ノ物品又ハ飲食物ヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但書類書籍ハ當該裁判官ノ檢閲ヲ受ヘシ其密室監禁者ニ係ルトキハ他物ニ於テモ亦同シ
新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前項ノ例ニ非ス

第三十九條 囚人及懲治人ニハ現行ノ法律命令書並ニ書籍用紙印紙郵便切手貨幣及内務大臣ニ於テ許可シタルモノヲ除クノ外差入ヲ許サス但書籍ハ第三十二條ニ記載シタル制限ニ從フ

第四十條 囚人獄則ヲ謹守シ作業ニ勉勵シ且改悛ノ行爲アル者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ

賞譽セシ者ニハ之ヲ表スル爲メ賞表ヲ與ヘ獄衣ニ縫着セシムヘシ
賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ憑據ト爲スコトヲ得

第四十一條 賞表ヲ有スル囚人ハ其監房ヲ區別シテ尋常囚人ト別異シ賞表ノ多寡ニ應シテ優遇ヲ爲スヘシ

第四十二條 囚人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一、屏禁 晝夜他ノ監房又ハ役場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時間座作ノ役ヲ課ス

二、減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

三、閤室ニ入レ一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

屏禁ハ二月以内減食ハ一週日以内閤室ハ五晝夜以内トス

第四十三條 囚人十六歲未滿ノ者及懲治人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一、獨愼 晝夜一室ニ獨居セシム

二、減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減ス

獨愼ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第四十四條 減食若クハ閤室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ其處罰中ハ醫師ヲシテ毎日之ヲ視察セシメ醫師ニ於テ身體ニ妨アルヲ證スルトキハ處罰ヲ中止スヘシ

第四十五條 無期徒刑ノ囚人重罪ヲ犯シ若クハ逃走シ又ハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタルトキハ一年以上五年以下其他ノ輕罪ヲ犯シタルトキハ二月以上一年以上以下兩脚又ハ一脚ニ鉄ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鈇ニ貫キ腰間ニ練帶セシメ練帶ノ所ニ下鍵ス其監房ニ在ルモ晝間ハ仍ホ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス
鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施ス九ハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハス者トス若シ外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ

第四十六條 施獄中ノ者病ニ罹リ醫師ノ診斷ニ依リ鈇ノ解除ヲ必要トスルトキハ一時之ヲ解除スルコトヲ得但解除中經過セシ日數ハ施獄期限ニ算入セス

第四十七條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受ケタルトキハ其情狀ニ因リ賞表一箇又ハ數箇ヲ褫奪スルコトアルヘシ

第四十八條 獄則ヲ犯シ罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ處罰中ト雖モ之ヲ免スルコトヲ得

第四十九條 免幽閉ヲ受ケタル流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタルトキハ七月以内之ヲ拘置スルコトヲ得

第五十條 囚人懲治人及刑事被告人司獄官吏ノ處署ニ對シ苦情ヲ訴ヘントスルトキハ第四條ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

16/9/15

明治三十四年九月二十九日印刷
明治三十四年十月四日發行

定價金壹圓

著者

石田氏幹

宮城縣仙臺市定禪寺通槽町去番地

發行者

梅原榮藏

宮城縣仙臺市大町四丁目廿一番地
(電話貳拾九番)

印刷者

菅野清仲

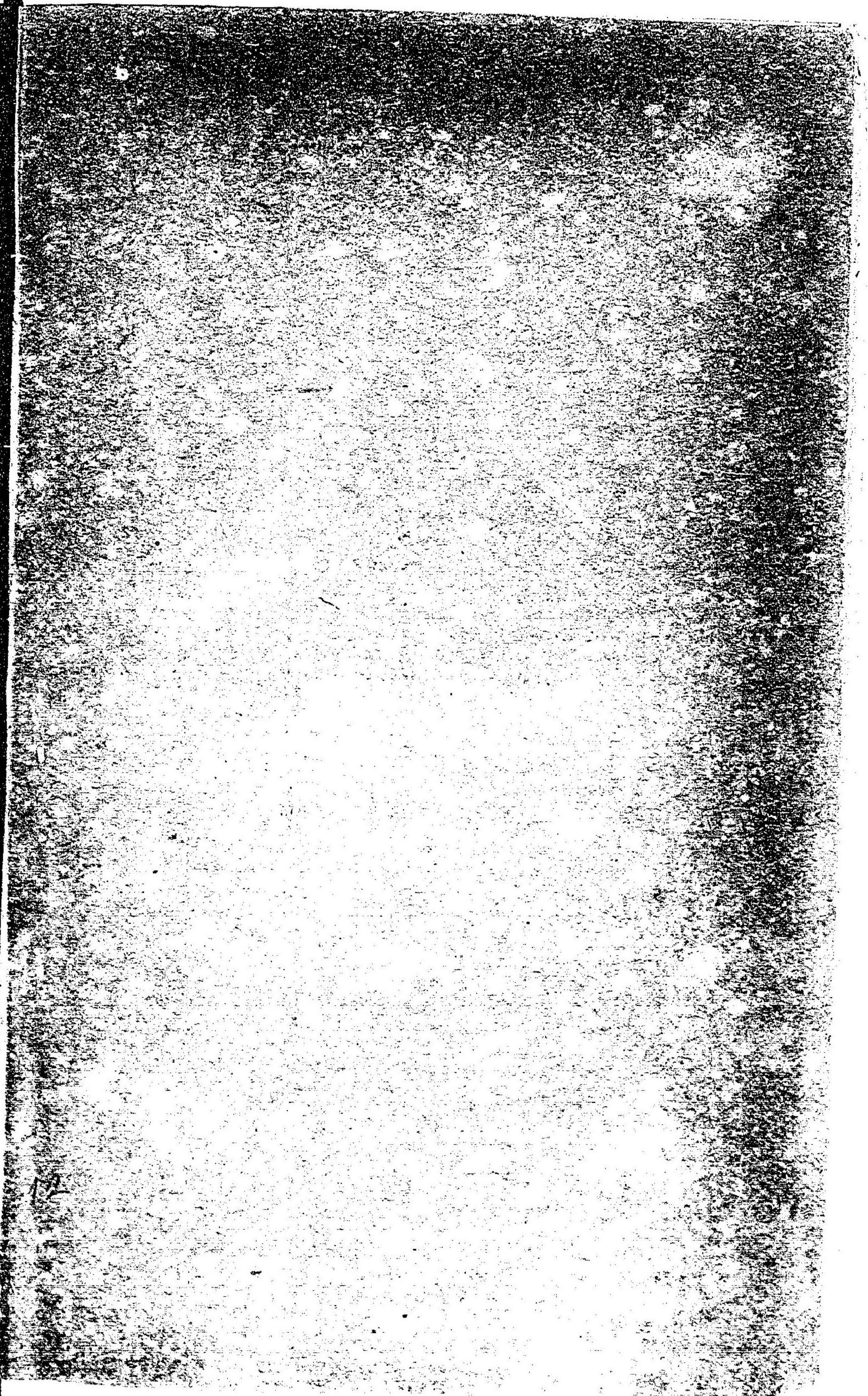
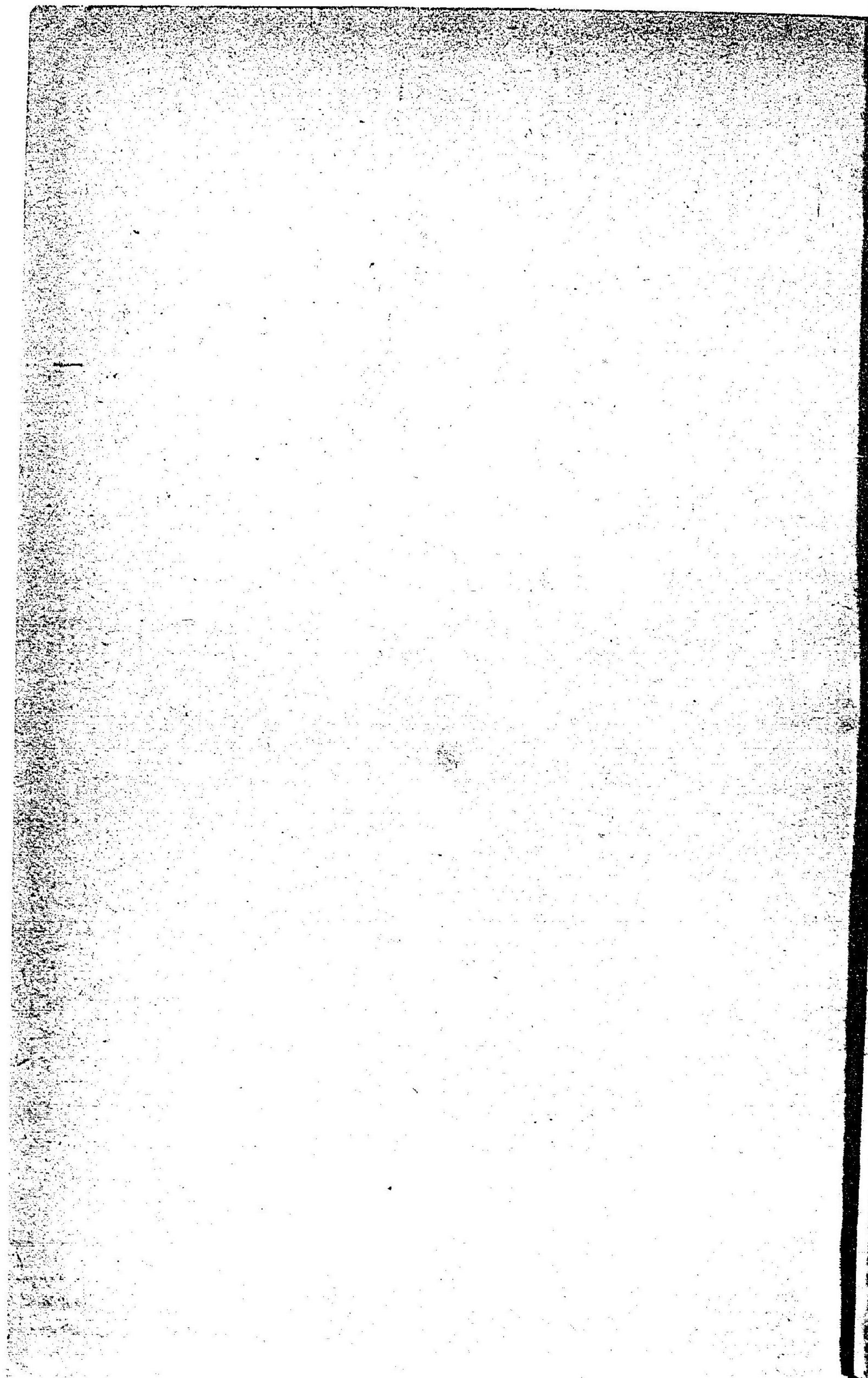
宮城縣仙臺市東一番町八十二番地
(電話貳百七番)

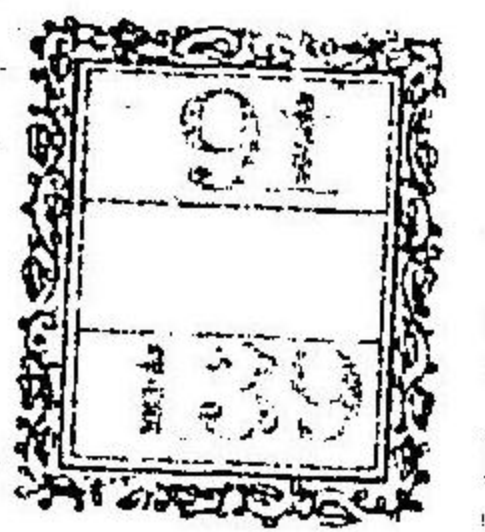


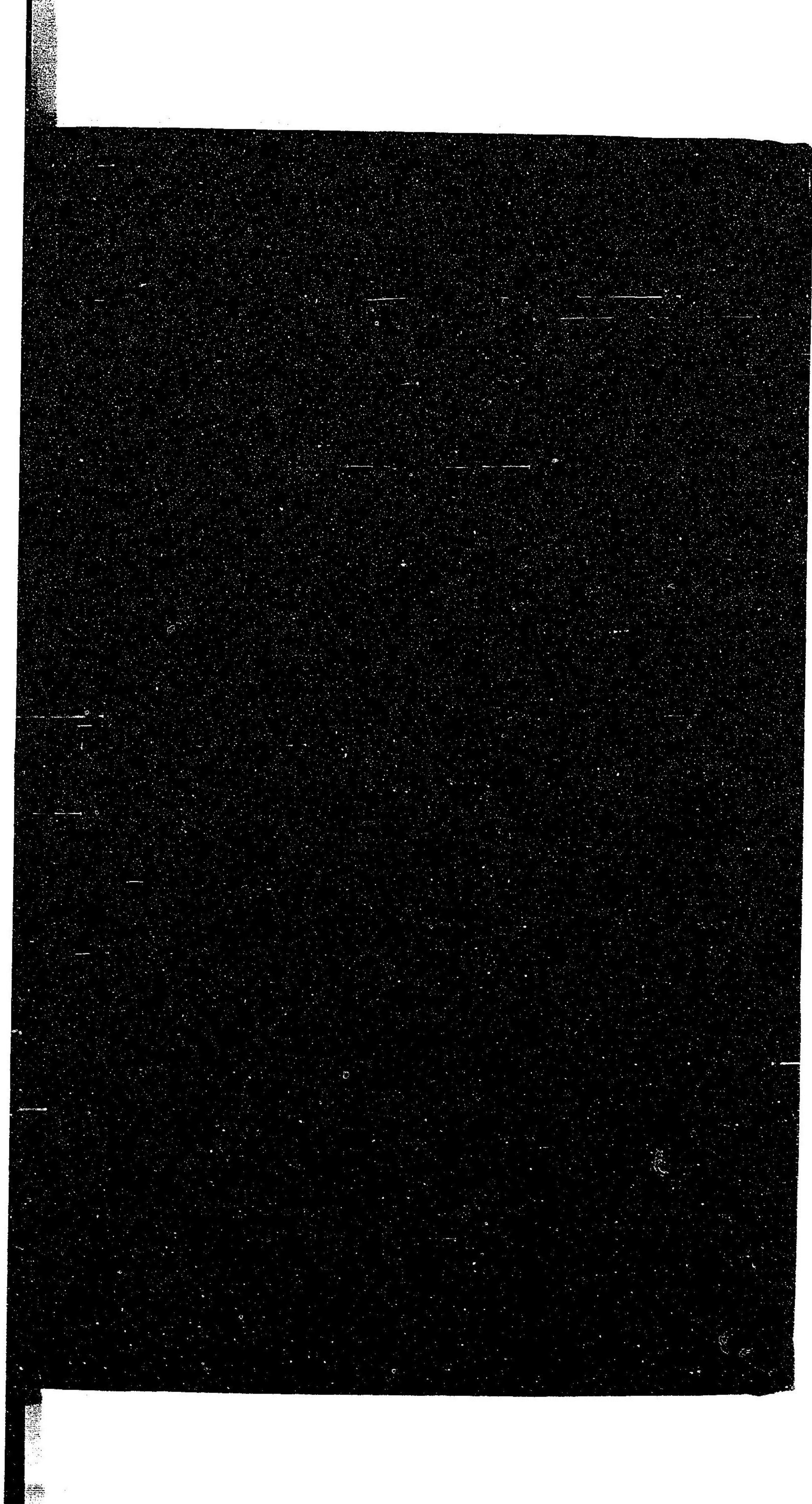
發賣所

高藤書店

宮城縣仙臺市大町四丁目廿一番地
(電話貳拾九番)







91
139

035957-000-9

91-139

刑法要義

石田 氏幹/著

M34

BBP-0556



